あゆみ

創立20周年記念誌



日本小学生バドミントン連盟

2011年9月23日　発行

あゆみ

創立 20 周年記念誌



ごあいさつ

日本小学生バドミントン連盟
会長　籾井　勝人

先般の東北地方太平洋沖地震によりお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。また被災地の一日も早い復旧復興をお祈りいたします。

この度、日本小学生バドミントン連盟は、創立２０周年を迎えることができました。そして関係者の皆さま方と共にお祝いできますこと、誠にうれしく思います。

日本小学生バドミントン連盟は、多くの子供たちにこの素晴らしいスポーツを楽しんでいただきたい。そして健全な心と体を育ててほしい、との願いのもと、日夜その普及に励んでまいりました。ここ数年は、全国どの県にあっても小学生連盟への加盟人数は増えており今後も日本小学生バドミントン連盟から、バドミントンの裾野が広がり国民的生涯スポーツとしての普及発展に、大いに寄与できるものと信じております。

一方、本連盟では、バドミントンが好きな子供たちの夢を育むような名選手の育成にも努力を積み重ねてきました。そして、現在、２０周年を向かえた中でオリンピックをはじめ、国際的な競技会において、この連盟主催、主管の大会で育っていった多くの一流選手が世界の舞台で活躍しています。

この度の連盟創立２０周年記念は、日本小学生バドミントン連盟においては、一つの通過点に過ぎません。今後も連盟にとって新しい歴史の一頁を飾るにふさわしい強い選手の発掘、育成、強化が課題ではないかと考えます。

今日まで、幾多の変遷のある中で、多くの先輩達のたゆまぬ努力の結晶が輝かしい歴史の数々を生み出し、今日の礎を築いてこられたものと感謝の気持ちでいっぱいです。

先輩達が残した足跡の尊さを再認識し、次の世代を担う小学生達に尊い指針になるような、記憶に残る活動を続けてゆくことが肝要であると思います。

最後になりましたが、この２０周年記念にあたり、ご協力・ご支援いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。今後も多くの関係者の皆様の倍旧のご支援と、ご協力を賜りますようお願いする次第でございます。



お祝いのことば

日本バドミントン協会
会長　綿貫　民輔

創立２０周年おめでとうございます。関係者みな様のおかげで、若い選手がたくさん育ってきていることを心からうれしく思っています。

近い将来、オリンピックでメダルを取れる選手がたくさん育ってくることを期待しています。

日本バドミントン協会は、最初にラケットを持つ小学生の皆さんを最も大切に考えています。

私は皆さんの期待にこたえて、若い人たちが励める場作りを最重点に考えて努力しています。

翻って、スポーツを極めることは人間を極めることです。若い選手の皆さんが、バドミントンを通じて立派な社会人に育ってくれることを期待します。

おわりに、この２０周年事業を更なる発展の節として、関係者の方々のますますのご活躍を祈念してお祝いのことばといたします。

目　　次

ごあいさつ …… 日本小学生バドミントン連盟会長　籾井 勝人 …… 1

お祝いのことば …… 日本バドミントン協会会長　綿貫 民輔 …… 2

優勝カップ・優勝旗・各大会表紙 …… 3

先輩からの寄稿文 …… 9

２０周年記念座談会 ……１７

連盟誕生までの動き ……２８

ブロックのあゆみ ……３１

専門部のあゆみ ……４２

歴代本部役員 ……４７

歴代ブロック担当理事 ……５０

栄光の記録 ……５１

表彰者一覧 ……７３

資　料 ……７４

あとがき ……８７

編集後記 ……８８

優勝旗・文部科学大臣杯 … 3

大会のプログラム表紙

全国小学生大会 …… 4

ＡＢＣ カップ …… 6

若　葉 カップ …… 7



文部科学大臣杯



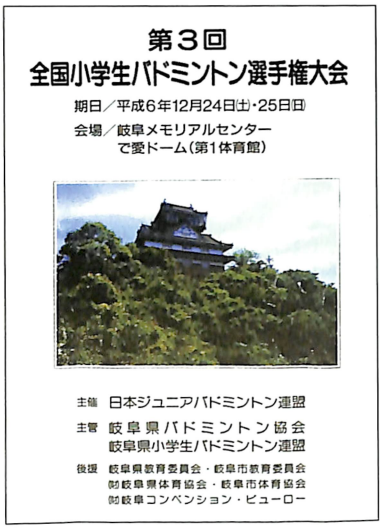
団体戦
男子優勝旗



団体戦
女子優勝旗

全国小学生バドミントン選手権大会

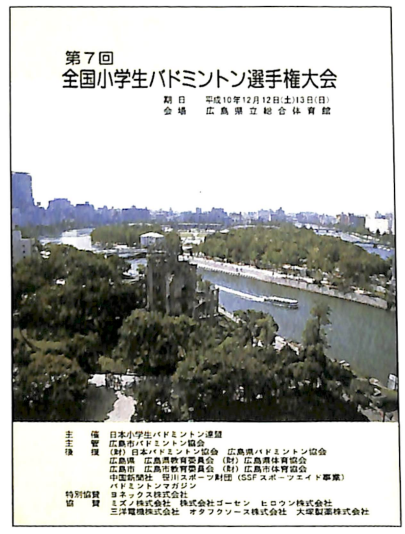


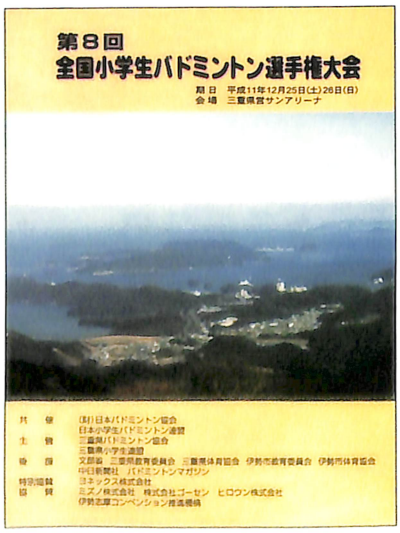


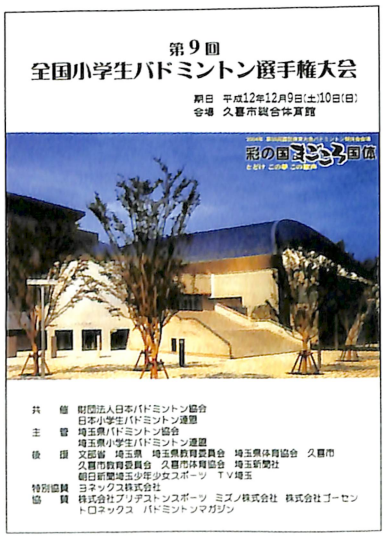















報告書
第11回
全国小学生バドミントン選手権大会
The 11th All Japan Schoolchildren Badminton Championship Tournament, KITAKYUSHU 2003
期日　平成15年1月4日(土)～1月7日(火)
会場　北九州市立総合体育館


第12回
全国小学生バドミントン選手権大会
期　日　平成15年12月20日(土)～12月23日(火)
会　場　仙台市体育館


報告書
第13回
全国小学生バドミントン選手権大会
期　日：平成17年1月4日(火)～8日(土)
会　場：名古屋市中村スポーツセンター
名古屋市東スポーツセンター


第14回
全国小学生バドミントン選手権大会
期　日　平成17年12月22日(木)～12月26日(月)
会　場　大和郡山市総合公園多目的体育館
奈良市中央体育館

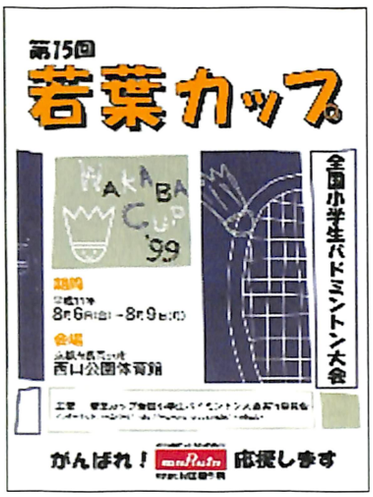

第15回
全国小学生バドミントン
選手権大会
期日／平成19年 1月4日(木)～8日(月)
場所／べっぷアリーナ(別府市総合体育館)

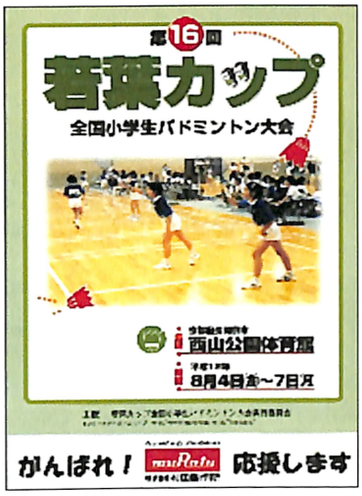

第16回
全国小学生バドミントン
選手権大会
期日／平成19年12月22日(土)～26日(水)
場所／舞洲アリーナ

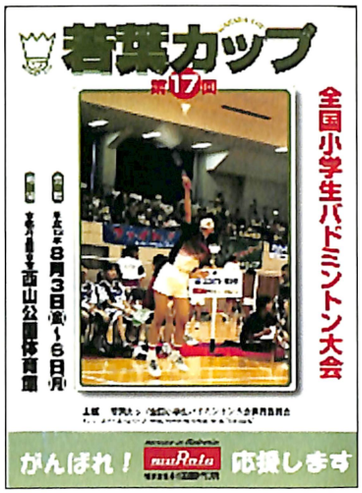

第17回
全国小学生バドミントン
選手権大会
◆日時　2009年 1月3日(土)～7日(水)
◆会場　カミアリーナ(島根県立浜山公園体育館)


第18回
全国小学生バドミントン
選手権大会
2009年
日時　12月24日(木)～28日(月)
会場　千葉ポートアリーナ


第19回
全国小学生
バドミントン選手権大会
日時 平成22年
12月24日(金)～28日(火)
会場 第1会場 愛媛県武道館
第2会場 松山市総合コミュニティセンター体育館


第15回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
WAKABA CUP '99
西山公園体育館
がんばれ！ 応援します


第16回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
西山公園体育館
がんばれ！ 応援します


若葉カップ
第17回
全国小学生バドミントン大会
西山公園体育館
がんばれ！ 応援します


第18回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
がんばれ！ 応援します


第19回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
がんばれ！ 応援します


第20回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
がんばれ！ 応援します


第21回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
がんばれ!! 応援します


第22回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
がんばれ!! 応援します


第23回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
がんばれ!! 応援します


第24回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
ALL JAPAN SCHOOL CHILDREN'S BADMINTON TOURNAMENT
がんばれ!! 応援します


第25回記念大会
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
ALL JAPAN SCHOOL CHILDREN'S BADMINTON TOURNAMENT
がんばれ!! 応援します


第25回
若葉カップ
全国小学生バドミントン大会
ALL JAPAN SCHOOL CHILDREN'S BADMINTON TOURNAMENT
がんばれ!! 応援します

先輩からの寄稿文

佐藤　翔治　NTT 東日本 …… 9

廣瀬　栄理子　パナソニック …… 10

潮田　玲子　日本ユニシス …… 11

早川　賢一　日本ユニシス …… 12

田児　賢一　NTT 東日本 …… 13

和田　周　日本体育大学 …… 14

松友　美佐紀　日本ユニシス …… 15

山口　茜　勝山市立南部中学校２年 …… 16

佐藤　翔治　　NTT 東日本バドミントン部

小学生の思い出

２０周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。
私がバドミントンを始めたきっかけは両親の影響でした。両親がプレーをしていたので、小さい頃から自然とラケットを握り、一緒に体育館に行ってはシャトルを追いかけていました。

本格的にバドミントンを始めたのは、小学校３年生の時です。姉と一緒に小平ジュニアに入部し、それからはクラブの練習に行くのが楽しくて仕方がありませんでした。小平ジュニアは米倉加奈子先輩をはじめ、多くの有名選手を輩出している名門のクラブチームです。当時の小平ジュニアの練習は１週間に２回です。試合前になると３回行われるのですが、それでは物足りず、チームの仲間と市民体育館などの個人開放を利用し、自分たちだけでバドミントンをしていました。

小平ジュニアの練習で思い出に残っているのは裸足でのランニングとゲーム練習です。体育館の中だけではなく、脚力を養うためにグランドを裸足で走っていたのを覚えています。ゲーム練習では、小平ジュニアの OB や、練習に来てくださった方によく相手をしていただきました。なかなか勝つことができず、負けては悔しくて泣いていたことは今でも忘れられません。私は負けず嫌いな性格なので、負けても何度も挑戦していました。負けてもめげずに何度もチャレンジするには地道な努力と強い精神力が必要です。小学生のうちから、強い相手にもひるまずむかっていくチャレンジ精神を身につけておくことはとても重要だと今になり気がつきました。

小学生で一番思い出に残っている大会は、６年生の時に出場した全国小学生バドミントン選手権大会です。全国の小学生の中で、一番になれたことがとても嬉しかったです。佐々木翔や川前直樹を意識し始めた大会でもありました。佐々木翔とは準々決勝で対決し、厳しいラリーが続きましたが勝つことができました。この時は一緒に関東第一高校に進学するとは考えてもいませんでした。小学生の頃からお互いを意識して、切磋琢磨していたので、同じチームでプレーできると知った時は本当に嬉しかったです。

川前直樹は現在、ダブルスを組み、一緒にロンドンオリンピックを目指しています。それまではライバル同士だった私たちが、社会人になり同じチームに所属し、共に夢を追いかけています。これはバドミントンだけでなくスポーツをする者にとっての醍醐味だと感じています。

私が小学生の時は、全国小学生バドミントン選手権大会と若葉カップの２大会しか全国大会がなかったので、今の小学生たちが正直羨ましいです。昔と違って大会数も増えており、海外などの選手と対戦する機会もあります。小学生の時に、世界のレベルを肌で感じ、佐々木翔や川前直樹と対戦する機会がもっとあったら、

今以上の技術や知識が習得できたのではないかと思います。

私達がそうだったように、今の小学生が将来、日本の代表になり日本を背負って戦う時がくるでしょう。そしていつか私も現役を退く時が来ます。その時は、現役時代に培った全てのものを後輩プレーヤーに受け継ぎ、指導者として一緒に日の丸を背負って戦いたいと強く願っています。

最後になりましたが、皆様の多大なるご支援、ご協力には本当に感謝しております。ありがとうございます。感謝の気持ちを胸に一戦一戦大切にプレーし、オリンピックという最高の舞台に立ちたいと思います。今後も温かいご声援を宜しくお願いいたします。

廣瀬　栄理子　　パナソニック

試合が楽しくてたのしくて

バドミントンの出会いは、小学校一年生の時、バドミントンを始めた兄の背中を追いかけて地元のジュニアクラブに入った時でした。

ジュニアクラブが終わった後も、まだまだ打ち足りなくて、帰ってきても兄と家の前で打ちあっていたほどです。

今から思えば、遊びのような出会いでしたが、シャトルがラケットから舞い上がるたびに、嬉しくて嬉しくて夢中で走り回っていたのを、覚えています。

そして、試合に出られるようになると、今度は試合が楽しくて楽しくてたまらなくなりました。もっともっと試合がしたい。高学年になるにつれ、その思いはさらに強くなり、バドミントンは生活の一部になっていきました。

もちろん試合は、みんな真剣なので勝ち負けはありますが、どんな結果でも、もっともっと上手になりたいという気持ちでやっていたことを覚えています。

この思いは、今の私の原点になっています。

多くの方々に支えられ、こうして今も、バドミントンを続けられている事に感謝の気持ちを忘れず、これからも自分らしく頑張りたいと思います。



潮田　玲子　　日本ユニシス

バドミントンを楽しむ気持ちを忘れずに

私がバドミントンを始めたのは小学１年生の時で、友達に誘われて福岡県の京都（みやこ）クラブというチームの入部テストを受けたことがきっかけでした。
当時はバドミントン以外にピアノも習っていたのですが、上達するにつれてバドミントンが好きになり、身体を動かす方が好きだという性格もあり、高学年になる頃にはバドミントン一つに集中したいと思いようになりました。

京都クラブには小学１年生から中学３年生まで在籍しましたが、恩師の福本信太郎先生にはバドミントンの技術的なことはもちろん、挨拶や、礼儀なども厳しく教えて頂きました。
先生の指導で一番印象に残っているのは、「ライオンは獲物を全力で獲りにいく。たとえそれがか弱いウサギだとしても全力で狩りにいく。だから玲子も、どんな相手でも手を抜かず全力で勝ちにいきなさい。」という言葉です。
格下相手にすぐに気を抜いてしまったり、相手に合わせてしまう私に、先生はたとえ話を使っていつも分かりやすく説明してくださいました。

多くの時間をバドミントンに費やしてきましたが、やっていて良かったと思うことは、バドミントンを通じてたくさんの友人や仲間が出来たことです。
嬉しい思いや悔しい思い、苦しいことも楽しいことも全てバドミントンを通じて学びました。これらは私も人生においても素晴らしい財産になっています。

今は来年のロンドンオリンピックに向けてレースに挑戦しています。
バドミントンを始めて２０年以上になりますが、私のバドミントン人生の集大成となるように悔いの無いように精一杯頑張ります。

苦しいことや辛いこともたくさんあると思いますが、必ずバドミントンをやっていて良かったなと思えるときがくると思います。
先生や家族、周りの人たちに感謝の気持ちを忘れずに、何よりバドミントンを楽しむ気持ちを忘れずに小学生の皆さんも頑張ってください。

早川　賢一　　日本ユニシス

小学生時代に基本練習を重ねよう

バドミントンを私が始めたのは、小学１年生の夏ごろでした。当時、三つ上の姉がバドミントンを始めたのをきっかけに私も始めたのを、今も良く覚えています。

坂本スポーツ少年団での練習は、始め基本練習が中心でした。特に印象に残っている練習はフットワークと壁打ち練習で、フットワーク練習は毎日、一時間くらいやっていたと思います。当時１年生だった私は、フットワークの練習中も、先輩がシャトルを打っているのがとても羨ましく、早く強くなりたいという気持ちを強くしていました。壁打ち練習では、強い先輩の隣に行って先輩の真似をしようと努力していました。小学校低学年では悔しい思いをして練習をしていましたが、その基本練習があったからこそ、今もバドミントンを続けることができるのだと思います。

小学校低学年の練習でも、１つの楽しみな行事がありました。年に一度、比叡山の山を走って登り、また坂本小学校までランニングで戻るという行事が記憶にあります。とても辛いランニングでしたが、山の頂上に登るとそこで保護者の方々が、ごほうびにバーベキューを用意してくれていました。練習を共にしている仲間と楽しくご飯を食べ、みんなで後片付けをしたあと、また小学校までランニングで戻りましたが、みんなで一つのことをやり遂げるといった、本当に良い経験をさせて頂きました。

大会での一番の思い出は、小学三年生の時にはじめて出場した全国大会です。二つ年上の山口公洋先輩との出場でしたが、全国大会のレベルも分からず、「大差で負けるのだけはやめようね。」と話しながら試合をしていました。相手は年齢も同じもしくは、一つ二つ上の学年、そして皆、全国大会ということで緊張している状況であったと思います。ただ、私は本当に全国大会が初めてであった事と、対戦相手のほとんどが年上であった為、緊張せずに試合に臨むことができました。その大会で私は毎回、楽しく試合に臨むことができた結果、はじめての大会で優勝し、その後も四年連続で全国大会に出場することができました。連続とはいえ結果はその年ごとに違いましたが、小学生の間、ずっと全国大会に出場できたことは本当に良い経験になりました。

小学生時代に基本の練習を重ね、様々な経験をしたことは、今の私にとってとても大きな財産になっています。今、小学生でバドミントンを頑張っている人達も、退屈な基本練習でも手を抜かずに頑張ってください。自分を強くする練習だと信じて。

田児　賢一　　NTT東日本バドミントン部

小学生の時の思い出

日本小学生バドミントン連盟創立２０周年、おめでとうございます。
私が初めて全国小学生バドミントン選手権大会に出場したのが、１９９９年小学４年生の時だったので、早いもので１０年以上が経っています。

小学生時代を振り返ってみると、低学年時はバドミントンとサッカーを楽しみながらかじっているそんな少年でした。バドミントンは、実業団でプレーしていた両親の影響もあり、幼少時代からラケットを握り、遊びの一つとして、母が所属していたＮＴＴ東京の現役選手と遊んでもらった記憶があります。本格的にバドミントンに夢中になったのが小学３年生の頃だったと思います。ダブルスのパートナー松丸君との出会いも、私をバドミントンにのめり込ませた大きな要因でもありました。松丸君とはパートナーになってから、お互いの家に遊びに行き、よくビデオでダブルスの研究をしたり、世界のトッププレーヤーの技術を真似したりと、バドミントンの事をたくさん話した仲で、今でも一緒に練習をすることもあり、長い付き合いの友達です。そんな松丸君と組んで初めて出場した全国大会が、全国小学生バドミントン選手権大会でした。当時、４年生だった私たちは５年生の部に出場し準優勝。自分達の実力がどれくらいのものかもわからずにプレーし、決勝まで進出できたことはうれしかった反面、優勝できなかった悔しさも非常に大きくありました。翌年、５年生の部では順当に決勝まで進出。決勝の相手は、島根県の松本・小村ペアでした。ファイナルゲーム１４－９（当時、１５点ゲーム）と、マッチポイントを奪われてから、粘った末の逆転勝利は全国初制覇でもあり、とても印象強く自信にもなったそんな大会でした。

現在は日本代表メンバーとして、年間１５回程度、国際大会に出場しています。小学生時代にビデオで見ていた選手とプレーする事もあり、非常に不思議な気持ちですが、あの時のビデオ研究が今もためになっていると実感しています。世界のトッププレーヤーにはまだまだ及びませんが、高い目標とイメージを持つことは小学生も日本代表となった今でも変わりはありません。小学生当時の１５点ゲームから、今は２１点ラリーポイント制となり、ゲーム展開もスピーディーで攻撃重視となりました。バドミントン競技もまだまだ進歩する時代なのかと思います。ただ、私は小学生時代からミスをしないプレーにこだわりをもって、今も変わらぬ思いでプレーしています。

来年はロンドンオリンピックイヤーです。今、オリンピック出場のためのレース期間のまっただ中でもあり、世界ラン

キングを一つでも上げるために国際大会で世界のトッププレーヤーと対戦しています。小学生時代の目標であった「オリンピック出場」を果たすため、これからも厳しい戦いとなりますが、目標達成に向け毎日、課題を持って取り組んでいきたいと思います。また、バドミントンを始めてからお世話になった方々のためにも、世界で活躍するプレーヤーであり続けたいと思いますし、また、これからの世代の目標となるそんなプレーヤーにもなりたいと思います。

最後になりますが、小学生の皆さんには大きな夢を持って、仲間とシャトルを夢中に打ち合うそんなプレーヤーになってほしいと思います。

和田　周　　日本体育大学バドミントン部

小学校時代の思い出

僕とバドミントンの出会いは、小学校１年生の時でした。お父さんに体育館に連れて行ってもらい、そこで初めてバドミントンと出会いました。最初はまったくラケットに羽根があたらず、下手くそでした。でもやっていくうちにだんだんとラケットに羽根があたるようなってきて、すぐにバドミントンが好きになりました。

バドミントンをはじめて、最初の大会で優勝できて、その時にラケットをもらえたことをよく覚えています。その時の大会は、３人しか出ていなくて、その時に北林兄弟に出会いました。

その時は、まだサーブもどっちから打つのかわからなくて、今思うと笑い話になりますね。その大会をきっかけに本格的にバドミントンをするようになり、毎日チャレンジャーズに通って練習していました。小学校の時はよく能登先生にしかられていました。たくさん、しかられたけど嫌にはなりませんでした。

それだけ、バドミントンを続けられていることに感謝しています。小学校や中学、高校の時は自分のために、自分が勝ちたいからバドミントンを頑張っていましたが、今こうやって親元を離れて寮に入って一人でいろいろとしなくてはいけないことがたくさんあって、お父さん、お母さんのありがたみを知りました。

そんなことが今わかるのも小学校の時に指導してくださった能登先生や文子先輩、いろいろなチャレンジャーの先輩のおかげだと思っています。その感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきたいと思います。

これから、頑張っていく、小学生の選手の皆さん、指導者の先生や先輩のいうことをきちんと聞いて、すばらしいプレーヤーになれるように頑張ってください。

日本小学生バドミントン連盟２０周年おめでとうございます。

松友　美佐紀　　日本ユニシス

大切なことを教わった小学生時代

今の私のバドミントン人生の基本を作ってくれた小学生時代。今でも当時のことを思い出すと元気になり、闘志が湧いてきます。

真夏の京都・長岡京市で行われている、若葉カップ。小学校６年間でたくさんの試合に出場しましたが、今でも私の心に鮮明に残っている大会のひとつです。監督・チームメイト・父兄の方に恵まれ、運よく４年生と６年生のときに優勝することができました。この若葉カップで、特に思い出深い一戦があります。

キャプテンだった６年生のときの準決勝。2－2で回ってきた第５試合。私はそれまでシングルスに出場していたのを、ダブルスに出場しました。なにがなんでも１点取るために、がむしゃらにスマッシュを打ち、シャトルを追いかけました。そして、接戦の末、勝利。この一戦は、仲間とともに、ひとつの目標に向かって努力し、達成することが本当に素晴らしいことだと教えてくれました。また、若葉カップでは、暖かい声援、信頼、リーダーシップ、そして感謝の気持ちなど色々な事を体で感じることが出来た大会でした。

個人戦にも多くの思い出がありますが、あと１点が取れずに敗退した５年生のときのABC大会を今でもよく覚えています。試合後、もっとこうしていればよかったなど「たられば」をいくら言っても、その時はもう戻って来ません。１球１球を必死に考えてやらなければ後悔しても遅い、１点の重みを１点の大切さを感じた大会でした。

私は、全国小学生大会で4,5,6年生の３年間シングルスで優勝することが出来ました。この結果は、私一人では絶対に残せることができなかったものであり、両親をはじめ、私を育ててくださったすべての人に感謝しています。

文頭にも書かせていただいた通り、小学校時代の６年間がなければ今の私はありません。当時教わったこと、感じたことは、今もこれからもずっと私の基本となると思います。大切なことをたくさん教えてくださった多くの方々への感謝の気持ちを常に持ち、結果を残して少しでも恩返しが出来るように、これからも努力し続けていきたいです。

山口　茜　　勝山市立南部中学校２年

わたしが初めてラケットを握ったのは

私が初めてラケットを握ったのは、３歳のときです。二人の兄がバドミントンの練習をしていたので、いつも体育館について行きました。始めは、なかなかシャトルがラケットに当たらず、泣いたりしました。それでも、もっと打ちたくて泣いて母を困らせたそうです。

初めて全国大会に出たのは、小学校１年生の時のＡＢＣ大会でした。体育館の大きさにびっくりしてしまったのを、今でも覚えています。いつも練習している体育館は、クリアーを打つと天井に当たってしまうのに、全国大会の体育館は天井がとても高く、シャトルが落ちてくるタイミングがわからず、大変でした。でも、なんとか勝って優勝する事ができました。初めての優勝で、うれしくて、もっと練習をがんばろうと思いました。

小学校２年生の時、初めて全小に出場しました。４年生以下シングルスの部で、私は優勝する気満々だったのですが、準々決勝で思い通りにいかず泣いて、負けてしまいました。そして、小学校３年生のＡＢＣ大会でも、空調でシャトルが流されて自分のショットがうまくいかず、決勝戦で泣いて負けてしまいました。今では、「もう少し我慢すればよかったのに。」と後悔しています。気持ちを強くする練習も大切だと思います。

小学生の間に、ＡＢＣ大会で５回、全小のシングルスで４回優勝することができました。クラブでは週４回、練習をしていましたが、その練習の中で、コーチのアドバイスを素直に聞き、自分のものになるまで実践する事を心がけました。そして、当たり前のようで当たり前でない色々な事に感謝して、厳しい練習も仲間と楽しく乗り越える事ができました。



二十周年記念座談会

出 席 者（発言順）

湯 村 治 夫（司会・副会長）

平 川 卓 弘（副会長）

尾 藤 宏 治（副会長）

関 根 義 雄（日本バドミントン協会専務理事）

能 登 則 男（理事長）

北 山 吉 明（副会長）

二十周年記念座談会

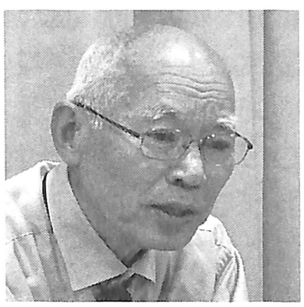
（司会：湯村）



本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。ご承知の通り、日本小学生バドミントン連盟は、今年二十周年を迎えます。そこで、設立以来、携わって来られた関係者による座談会を開催いたします。

まず設立当時の状況についてお話をお願いいたします。

（平川）



設立までの経過は「**日小連誕生までの動き**」をお読みくだされればおわかりになると思い省略しますが、当時、一番お世話になった人が東京の藤川俊雄さんです。また、京都の川本末夫さんと大前茂さんにも大変お世話になりました。

組織設立以来、今も一貫して続いているのが「ジュニア育成の基盤は学校単位でなく、地域クラブチームにある」という思想であり大切にしている理念なのです。

また、クラブチームを活性化しようとして進めている若葉カップとは別に、個人ですごく強い選手がいるという情報から、そうした選手にもチャンスを与えようと考えて、クラブチームの枠を超えてスタートしたのが都道府県対抗の団体戦です。

それまで、個人戦はいろいろな時期に開催してきましたが、次第に、個人戦・団体戦を同時期にやろうという機運が高まり2001（平13）年の広島大会から「全国小学生バドミントン選手権大会」と改名し、文部科学大臣杯等をいただいて動き出し、現在至った訳です。

連盟の組織運営には、初代会長の故五十棲辰男さんに、適切なご指導をいただいてきたお陰で、次第に現在の姿が整ってきた訳です。

（尾藤）



私が小学生連盟に携わることになったきっかけは、東日本と西日本の統一構想のために、どうか協力してほしいという京都の川本さんからの話からでした。

当時は、まだ役員の考えがバラバラで、長岡京市が開催する若葉カップですら、歩みだしたばかりでした。それでも何とか村田製作所の支援を得て開催にこぎつけ、徐々に西日本がまとまろうという雰囲気になったのです。

そもそも実力のある九州が皆無と言っていいくらい参加が無かった時期です。その後、「長岡京市の若葉カップをバドミントンの小学生の甲子園にしたい」との声が上がり、五十棲さんが会長に就任され、多くの方のご尽力で小学生連盟が立

ち上がった訳です。

（司会）
小学生連盟が日本協会に加盟した訳ですが、その時の日本バドミントン協会は？

（関根）



ジュニア連盟として登録したいとの話があり、中体連があり、それはまずいだろうという事で小学生連盟となった経緯がありました。

（司会）
これまで小学生連盟を支えてきた事務局について

（尾藤）
私が理事長を引き受けた条件は、組織に事務局と会計を設置することでした。前任理事長の平川さんが経費の関係で大変苦労されていましたので、組織として円滑な運営を図れるようにしたかったのです。それが元で、2000 年に湯村さん、能登さん、小国さんを副理事長、高橋氏を事務局にお願いすることになりました。最高の組織になったと思っています。
スタート時は、資金もなく大変でしたが、このスタッフで精力的に動いてもらい、今日では様々なことを手掛けられる状態にまで発展したと思っています。

（能登）
事務局長の高橋さんには、長い間がんばっていただきました。ホームページの



立上げに努力していただきましたが訳があっておやめになり、藤本さんに、そして現在下野さんにお願いしております。それぞれ仕事を抱えており大変ですが、ネットを活用して文書等をなるべく少なくし対応しています。

（司会）
小学生連盟は、３つの大きな大会を開催しておりますが、日本バドミントン協会の思いをお願いいたします。

（関根）
今、日本バドミントン協会の最大の目標はオリンピックでメダルを取ることです。そのためには、ジュニア、特に最初にラケットを持つ小学生の強化が大事と思っています。
小学生の選手にがんばってもらうことが、日本のレベルを上げる一番の要因と思っています。
そうした中で、一昨年小学生と中国に行った時、一番ビックリしたのは、物を食べないということです。中国では、日本人に合う食事を作ってもらうのですが、例えば、小さい茶碗のチャーハンを食べるのに３０分掛かっている。朝食も１時間も掛かりそれも少量しか食べていない。そこで小学生の全国大会の開会式で挨拶する機会があり、大勢の父兄のいる前で、食べない人はナショナルジュニアに選ばないと言う話をさせていただきました。
合宿などに行くと、その時に比べ大分食べるようになってきたと思います。もう一つビックリしたのが、試合をすると

中国の年上の選手に勝つのですが、基本をやると１０分と持たない。強くなるためには、徹底的に基本をやってほしいとお願いした。今ナショナルジュニアでも長い時間基本をやっております。将来のために、しっかり基本をやってほしいと思っています。

（平川）

当時、全国の組織化を進めるため、加盟した都道府県名の地図を塗りつぶしながら立ち上げてきたわけですが、東北では宮城県より北の県、それに中国地方もアクセスがありませんでした。

九州地区では、ある意味で指導者がこうした動きを、言葉は悪いが敵対視して鼻もかけませんでした。そこで、九州で活躍している幾人かの人とパイプを太くして、了解してもらった結果、その人たちは、九州の組織から白い目で見られ、辛い思いをされた時期もありました。

四国の太平洋側の地域や和歌山県もいまだに組織が弱いので、その地域の関係者は大分苦労されています。

一方、北信越の組織が先進的な動きをしていて、うらやましいと思っていました。その頃の東西大会は、いつも西日本が勝っていました。東日本が勝てなくて、特別に枠をあげようかとの話しもありましたが辞退しました。

若葉カップは、年令を縦につないだ体質の強いクラブを作ろうと考え、次第に下級生を入れた大会に変わってゆきました。実際、１つのクラブが低学年まで入れて勝とうということは大変な事だと言う意見もありましたが、長岡京市の強い考えもあって、現在のかたちに落ち着いた訳です。

（北山）



スポーツドクターとしての話しになるのですが、ＡＢＣ大会の開催を知り、小学校１，２年生という低学年の子供に試合をさせることについて、医学的に問題があると思っていました。しかし、試合を見ているうちに、教科書にはない発見が沢山ありました。

そのひとつに、いまだに結論が出ていませんが、小さな子供たちが勝負にこだわるという重要性があります。小学１年，２年生の子供が、試合に負けてコートに倒れこんで泣いてしまう、という情景をよく見かけました。この状況は、生物学的にはすごく大切なことだと僕はみています。自分が目的をもってやってきた事が途中で崩されてしまう、それが悔しくて我慢できない。こどもは正直だから、人目もはばからず転がって泣いてしまうのです。この悔しさという精神的要素をこの時期に育てておかなければならないと思いました。強くなる為に、いろいろな試練を乗り越える、その原動力となるこの精神的な強さは、この悔しさによって磨かれていくと思います。

技術的なことは１年，２年生であっても基礎的なものは身につくと思っています。これは恐らく、大会の数を重ねないと結論は出せないことですが、一番心配しているのは発育期の非常に早い時期に、体に強い負荷をかけ過ぎると多くの損傷が起きてしまうということ。その損傷が、その後の成長の過程でうまくリカバリーできるのか、ということです。もし、その損傷が後遺症としてそのまま残ってし

まうとすれば、早期から専門的トレーニングをする意味がなくなる。

現時点では、この年代の子供の肉体に関する情報が少な過ぎます。トレーニングの強さや、量、そして練習の頻度を指導者等が分かっていない状況で、「まあこんなもんだろう」と思ってやってしまうと選手を壊す危険性がある。そこら辺を私たち医科学研究部が長いスパンで探求したいと思っています。

（平川）

ＡＢＣ大会は、日バ加盟当時に遠井専務の要請で始めたもので、我々組織の者は皆が反対していましたが、とにかくやってみょうということで始めたのですよね。

１回２回３回目と回を重ねても悪い問題点が出て来ないのでそのまま続けています。

（北山）

悪い問題はすぐに出て来ない。長いスパンで観察してみないと、良し悪しは直ぐに解らないのではないかと思います。この大会は日バ指導型でＣクラスを設けたわけで小学生連盟としても心配をいたしました。

（平川）

それで思い出したのですが、小さい子供のために、短いラケットが必要ではないかということが、かなりまじめに議論されました。その場にメーカーにも来てもらって話をしました。

メーカーは、実際に商品として出しているが、殆ど売れてないと言うのです。

それから、ネットの高さも小さい子供から見ると、ネットがはるか上に見えて、スマッシュを打つとき、上の方向に打たなければならない問題があって、コートの大きさ、ネットの高さ、ラケットとかなり問題はありましたがそのまま現在に至っています。この事を皆さんもよく承知していたほうがよろしいと思います。

そのころ、中学生が全部ナイロン球で大会を開催していましたので、私達は、使用球をどうしようかと議論を重ねました。結局、ナイロン球はネットプレーなどに問題があると結論し、組織のスタート時からナイロン球は使わないということに決めました。

（北山）

他のスポーツには、ジュニア用のルールがあるようです。しかし、小児期から大人のルールと用具を使ってやる事は、効果的であるという意見がボチボチ出てきている。バドミントンの場合はそのまま使って正解ではないかと思っています。

（平川）

あの当時は、ラケットが重かった。指導者は、重い方がフォームが出来て良いという理論と力がないから軽いほうがよいとの議論をしたが、結論が出ないうちに、メーカーが軽い優れたラケットを売り出し、この問題は、話の外に行ってしまいました。

（関根）

今まで話しがあったように、私はいつもいろいろな方に言うのですが、小学生は大人のコートでよい。小さければ、いっぱいコートの中を走らなければならない。その子がそのスピードを持って大きくなれば非常に強い選手になれる。

また、小学生のときに、体が大きくて

強かった選手が、途中だめになっていますよね。これは体が大きいだけでスピードが無くても勝てたということもありますので、北山先生が言われましが、このままでよいという感覚を持っております。

重いラケットと軽いラケットですが四条畷なんかは重いラケットを使いラケットの性能を生かすという指導をされた。レディースと小学生を比べれば分かる通り、レディースは力があるから、変なフォームでも飛びますが、小学生はラケットの重さを使わないと飛ばないから、結局良いフォームになるという利点はありますよね。

（尾藤）

ラケットについてはかなり議論し、いろいろな問題がでました。例えば、長すぎてラケットが床に当たる、重量が体に負担をかけるなどです。

シューズにおいても、メーカーとも再三話をしました。しかし、ジュニア用シューズの作成にあたっては良い反応がなかったのが正直なところです。それでも、何年か経ってからポツポツと販売されるようになりました。

子どもに適したシューズの登場によって、純粋にパフォーマンスの変化が出てきたように思います。これはジュニア選手に合う道具が必要であることを露呈したと考えて良いですね。

（平川）

むかし、中国選手の靴は、軽いが壊れやすかった。日本でいう上履きみたいな感じの作りでした。それでも日本選手より強かったですからね。

（司会）

Ｃクラスをずっと見ていますが、凄くうまくなっていますよね。

最初のころは、サーブが入ればという感じだったが、いまはラリーが続いてフットワークがしっかりしてきている。最初に提案された遠井さんがそこまで読んだかどうか分かりませんが。

（平川）

これは裏話なりますが、日本協会に加入した後、広島大会で当時の遠井専務が朝早く観に来られて「平川さん、あの子強いね、とか、この子もいいね」と言ってきたとき「あの子供たちはまだ１回戦の子ですよ。これから強い子がドンドン出てきますよ」と言ったらビックリしていました。

当時、日本協会の小学生に対する見方は、そんなレベルだったですよね。
全国大会で、いろいろな県に出かけて行ったとき、お手伝いのレディースの女性たちに感想を聞くと、皆口を揃えて「小学生は凄く上手でレディースのおとな達にはもう勝てない」と言って驚いています。主管団体の役員たちも同じで大変驚いています。

（北山）

１年生、２年生がかなり上手になっているのは事実です。ところで卓球でも小学生、中学生が強くなってきていますが、その強い子供たちがその伸び率を保ったまま、どんどん強くなるのかどうか疑問があります。卓球の愛ちゃんを見ていますと、最初は非常に強かった。大人が全くかなわないこんな子供がいるのか。このままいけば、将来はどんなすごい選手になるのか、と思っていました。ところ

が、成長するにつれて、だんだん他の選手に追いつかれてきた。強いには違いないが、想像を絶する強さではない。この例のように、子供のころに大人より強いということが、最終的どんな意味を持つのか、そこを見極めないとＡＢＣ大会も意味が無くなってしまう。そのあたりの研究は、折角ＡＢＣをやっているわけだから、実施してみたいと思う。スポーツ早期教育の効果と是非について、ある程度の答えがでれば最高なんですが。

それとは別に、バドミントン人気を上げるために、卓球の愛ちゃんみたいにアイドルをつくるのも効果的な方法ですから、その面でABC大会の意義はありますがね。

（能登）

関根専務が先ほど言ったように、小さい時に技術を教える事は、例えば田児選手は小さい頃から、技術は身につていた。その後、ゲームに流れてしまうケースが日本には多いので、高学年になって持久力をつける練習。その辺を指導者にしてもらわないと中学,高校に行った時大変になると思います。

（司会）

ＡＢＣ大会は、現在八代市で継続して開催しております。八代の大会は、総務省が各競技の甲子園を作ろうとしている補助金が出ておりますが、仙台で開催されているジュニアグランプリが最初に指定され、補助金は一競技一大会の原則でした。最終的に小学生連盟の決定を尊重することになり、当時各理事は八代推進派と持回り派に分かれており、理事会での議論などで、私の情勢判断では、持回り派が絶対多数で支持されると思っていました。しかし、挙手の結果当日体制がガラッと変わって、八代開催となり現在に至っています。それからＡＢＣは、１０年続けて開催することになりました。また、開催向けて、そして開催にあたっては、八代市が非常に熱心でした。

持回りの大会では、開催地の役員が育ち、全国的には競技役員のレベルアップや開催地の選手強化、そして選手はいろいろな所に行ける等メリットがあると思います。

結局小学生連盟の３大大会のうち、持回りは１大会だけになった訳です。あと何年持回りになるのか見まもりたいと思います。

次に専門部の動きについてお願いします。

（能登）

競技指導のうち、競技は湯村さんが中心となり、組合せ基準等２回程度の改正を経て現在に至っており、問題点も無く順調に運用されています。
競技関係は、現場ではいろいろありますが適切に運営しております。
今、ＡＢＣのＣクラスについて、優勝者が必要かという声が聞こえています。

第１回の優勝者は、和田周選手ですが、インターハイで優勝しています。Ｃで優勝してインターハイで優勝したのは彼だけです。女子の山口茜選手がどこまでいくか見守っています。実績が出ているのはそのくらいでめったにありません。その辺も検討する時期にきているように思います。
Ｃクラスの優勝者がずっと日本一ではないわけです。

強化合宿は、平川理事長時代からサンヨー合宿を年１回実施し、これまで継続

しています。日本協会に加盟させていただいて１１年前、千葉商科大学で強化合宿を行い、その後日本協会とタイアップし実施しています。

１０年前は、和田周選手とかユニシスの高橋礼華選手等と小学生連盟としては、初めてウォンチョンカップ（韓国）海外遠征に行きました。海外試合に参加するという経験は、指導者も含め非常に勉強になりました。

選手強化としては、尾藤理事長にご配慮いただき、小学生連盟独自で強化合宿を８年前からＡＢＣ大会後に実施しています。日本バドミントン協会には大変お世話になりました。

また、ブロックで強化練習をしてもらうため、それぞれに５０万円ずつ配分していただいた時期もありました。

選手強化部は、現在日本協会から補助金をいただき強化しています。また３年前から小学生連盟の自主事業として年１回海外遠征も実施しています。

指導育成については、１０年前からヨネックス財団からの協力で実施しており、毎年１０～１３箇所指導者、選手に対し実施してきました。
今後も予算を増やしながら実施していきたいと思っております。

（北山）

医科学研究部というのは、私が加わった２０００年からスタートしました。東京オリンピック以後、スポーツ医学が我が国に急速に広がっていきました。

その当時は、発育途中のこどもに発生するスポーツ障害については、殆どの人が知らなかった時代でした。だから、私がスポーツドクターになった頃は、その話をする機会が非常に多かった。同様に、小学生連盟の中でもこどもたちのけが予防に関する講義が多かった。

そうしているうち、少しずつ講義内容も変わってきた。スポーツ医科学が指導者に浸透して、要求する内容も高度になってきています。

教育とは、同じ事を繰り返し繰り返しやることによって、意識してやっていたことが、自然にすっと出るようになる。そこまで繰り返すことを目標としている。どんな領域のことでも当てはまる。これが子供の時に行う、子供のための教育なのですね。

実は、スポーツ医学とは子供に対するものでなく、大人や指導者に対するものです。スポーツ障害や治療だけではなく、心、歯の問題、栄養、そういった話もしなければならない。そのために何人か部員を増やして講習した。
栄養の話等は親が非常に喜んでくれた。しかし、そこで満足してはいけない。なぜなら、講義を聞いて帰っても、家で学んだことを実行しないと何も変わらない。前と同じである。

指導者も、講義を聴いて、その時はそうだとうなずくのだが、翌日もいつもと同じ練習をしている。これじゃ、講義の意味がない。変わらない体質を、どれだけがんばって切りくずしていくかが僕たちの使命と思っています。

今後の活動方針に繋がるが、毎年毎年の流れの中で変えていくしかありません。２０００年から医科学活動をしてきて、わかったことは、本に書いてあることは、単なる一つの例にしか過ぎないという事に気がついたことです。１００人の子供がいれば、１００通りのスポーツ医科学があるということです。自分のやってきた中で、手にした事実を一番大切にする。

これはよく考えると、結局、スポーツ医科学が、その発足当時に否定していた経験主義なのです。ただ、そこに科学的な裏打ちが存在する、この点が同じ経験主義とは少し違うということです。

スポーツ医科学は日進月歩で急速に発展しています。この成果を、現場に伝えるためには、もう少し部員を増やし、組織を充実したものにしたいと思います。永く続けないとすぐに結果は出ないと観ています。

（司会）
これから小学生連盟に望むことをお願いします。

（関根）
強い子だけが育つのではなく、バドミントンを楽しんでやる子供が増えてほしいのです。

今ナショナルジュニアの中にU―１３があるわけですが、選手はこれまで大会の成績で選んでいたが、そうすると親から「うちの子はあの子に○○大会では勝っていたのにどうして選ばれないの」という事が沢山出てきました。

２０１１年の選考の方法は、これではダメだろうということで、大会の成績２０％、運動能力テスト４０％、コーチグスタッフの目４０％、という事で３つのカテゴリーを作って総合得点の高い選手を選ぶようにしました。上にいくほどウエートが変わって、例えば高校生の場合、大会成績が５０％、体力が３０％、コーチの目が２０％にしている。年令が上に行くほど、大会を重視しています。それから、勝とうという気持ちが大事です。

チャンピオンは、他の点数が低くてもチャンピオンを選びますという事で、ナショナルジュニアをスタートしたところですが、それが将来にわたって強くなれば良いのですが、私達の中でも見落としがあり、どこどこによい選手がいるよといっても中々手が届かない。全国大会に出る選手はわかるが、バドミントンを始めて間もない選手でも、運動能力が素晴らしいという選手もいるわけです。そういう子を見つける事も大事ではないかということで、小中高の一貫指導のために、日本協会は各都道府県に、わずかですが予算を付けてお願いしております。

そうした中で、小学生連盟の一番の問題点は、折角育ててきたのに他の県にいってしまう事が県や学校の摩擦になっている。また、昔バドミントンが弱かった宮崎県や長野県から良い選手が出てきている。高校生には、社会人が相手すれば良いわけで、なるべく、一貫指導の中で強くしていただきたいし、一貫指導をしていれば、うちの県にはこういう選手がいるということが分かるわけです。

ですから、これを利用して競技力を向上してもらいたいのと、１週間に１回の練習でもいいので、バドミントンを楽しむグループを増やしてもらいたいと思っています。

（北山）
医学的な立場で見ると、最近の学校教育の中で運動の時間が削られています。また、遠足などの体の動かす行事もドンドン少なくなってきている。それに輪を掛けて、社会が便利になり、こどもが体を動かさなくなっている。

今の子供の運動への関わりは、はっきり二極化している。激しくて運動をしている子と、殆ど運動してない子です。

最近の脳科学で分かったことは、体を

動かすということが、精神的発育やコミュニケーションの発達に深くかかわっているということです。運動は、単に体だけの問題ではなく、それぞれ付随した多くの身体的要素の発育にも深くかかわっているという重要な事実が分かってきています。ですからバドミントンにかぎらず、この重要な運動というものをする機会を地域に根を張ったクラブが支えなければいけないと思う。学校の周辺の人たちがしっかり子供たちが体を動かす環境を整えることが大事です。

その意味で、これだけの組織をもっている小学生連盟の一つ重要な役割は、関根専務がおっしゃったようにバドミントンを楽しんで、体をつくり、そして、子供同志で会話をしてコミュニケーション能力を鍛える。そんなこどもをたくさん育てる。

こどもの社会性を育てるということは、もはや、学校教育ではなしえない状況になっています。この活動を通して協会の裾野を広げていきます。
もう一つは、広い裾野の上に、高い頂点を築くこと。すなわち、オリンピックでメダルをとる選手の育成です。この２つが大事だと思います。

くどいようですが、小学生のときに自分のことをしっかりとしゃべれるような子供にすることが大切です。指導者が一方的に話すのでなく、こどもとコミュニケーションをしっかりとっていく。子供を一方的に指導するのではなく、子供の意見を引き出すようなコミュニケーションの改革をやらないと、子供の考える力が育たない。これでは、優秀な選手は絶対育たない。

スポーツを極めるということは、人間を極めるということと同義である思っています。

そういう意味で小学生連盟の持つべき意義は非常に大きい。そのような形で小学生連盟にかかわっていきたいと思います。

（平川）

現在、小学生連盟の登録者は２万５千人です。今の大会のやり方だと大幅に伸びることはないと思うんですよ。

運動能力の良い子どもたちを発見する機会が多くならないので、小学生連盟としてどう取り組むべきか考えてもらったほうが良いのではないでしょうか。

ピラミット形で見た場合、頂点は、日本協会に面倒見て貰っているから良いのですが､全体的に地域のクラブ,指導者、父兄達がバドミントンに魅力を感じて私の子供も入れてやらせようという雰囲気にもっていかなければならないと思います。これは組織の大切な仕事ではないかと思っています。

もう一つは、バドミントンは個人競技なので、チームプレーするサッカー、野球、バレーボールと違った意味で魅力があると思います。その辺の特性をみた上で、適性をもった子供を沢山集める事が必要と思うんです。

私は東京の組織のなかで発言していますが、子供のスポンサーは親なので、親が喜び夢中になるような、子どもそれで元気になるような環境を作ってやって、普及させるとか、底辺を拡充して全体の人口を増やしていき、もう一桁上の 10 万人ぐらいになっていけばありがたいな。そうした指導を私達の組織がしたほうが良いのではないかと思うんですがね。

（尾藤）

先ほど、関根専務がおっしゃられたブロックでの強化はかなり実施しています。そうした中でも、まだまだ埋もれている選手がいるのが現状です。

指導部が回って歩いて、多くのコーチや選手にアドバイスを送るのはもちろん、相互にメリットが生まれるように情報交換していくことが重要だと思います。

小学生連盟や日本協会が一生懸命になり、会員数を増やすという観点からも非常に有効だと思います。

また、北山先生もおっしゃっていました「言葉が無い・・・」。私のところでも「お願いします」と来ては、アドバイスの一方通行で、何をお願いするのかという核心的な部分が欠落して、形式的になっているように感じます。

現在は、何が良くて何が悪かったのか、だからどうしたいのかということを自分で考えて言葉として表現させています。

やはり、子供が何を考えているかという情報は指導者にとって非常に重要ですから、そこから始めるべきだと思います。

（能登）

私が考えていることが２つあります。一つは、幼稚園生の扱いをどうするかで、埼玉でもう１０回になりますが東日本幼稚園児サッカー大会を実施しています。青森から北信越まで集まっています。小さいコートでやっているが、水泳や体操も幼稚園からやっていて、早い段階から子供がいろいろなスポーツに取り組んでいることが現実にあるので、幼稚園児の普及を真剣に考えていかなければならないと思います。今でも野球サッカーに素質が良い子が早くから取り組んでいますので、考えていかなければならないと思います。

次に子供達は、ピラミット型のトップを狙ってバドミントンを始めるわけですが、ある程度年数やっていくと、そこにいけるのは一握りの人だけで、その後、指導者になったりサポーターになってくれたり、役員になってくれたり審判で進んでいくとか、いろいろな道があると思うので、それを生かせるようなクラブの指導も必要ではないかと思います。

また、最近見ていると大学生になって卒業できない人が結構増えている気がします。ある程度、勉強をさせないといけない。勉強の習慣は、小学校で作るので、小学生の時に勉強しないで、バドミントンだけやっているというのはダメなのではないかという気がしています。

北山さんが言うように、コミュニケーション能力も付いて来る時期なので、極力勉強させてくださいということを全国の指導者にお願いしたいと思っております。

（司会）

特に平川さんが危機感を持っておられますが、小学生のとき一生懸命やってきた後ですが、中学に行ったときに、小学生の大会は制限無しで試合に出られますが、中学校にいくと、どうしても各学校２複１単とか制限される。どうしても中学１年２年で試合ができないで部活だけで終わってしまうケースが多くて、折角小学生で育ちながら、その次の１，２年生の大事な時期に空白期間があるところが多いのではないか。そのつなぎを、中体連の方にいろいろお願いはするのですが、両連盟で考えていかないと、小中高とうまく育っていかないのではないかという気がしてなりません。

（平川）

最近聞いたのですが、中学生から始めた子のだけ大会をしているところがあると聞いています。私が一番心配しているのは、ジュニアから育って中学校のクラブに入ると、すぐに、その学校のチャンピオンになってしまい、もうそれでいいやという子が多いことです。そういう子たちに挑戦できる場を作ってあげないといけないのではないか、とつくづく思います。

中学から始めた子と、ジュニアからやっていた子では技量に格段の差があります。中学から始めた子が楽しいなと思える発表の場も必要だと思います。

（司会）

本日は、小学生連盟の生い立ちから、２０年経過した今日までの各方面からの話をしていただき、ありがとうございました。小学生連盟が続く限りバドミントンの普及、発展のため、皆様の更なるご尽力をお願いいたしまして、座談会を終わらせていただきます。



連盟誕生までの動き

平川　卓弘 …… 28

ブロックのあゆみ

北海道 ブロック　熊谷　敏夫 …… 31
東　北 ブロック　今野　末治 …… 32
関　東 ブロック　小山　義夫 …… 33
北信越 ブロック　西本　幸夫 …… 34
東　海 ブロック　高橋　克彦 …… 34
近　畿 ブロック　松村　宏則 …… 36
中　国 ブロック　山下　新一 …… 37
四　国 ブロック　吉川　和孝 …… 38
九　州 ブロック　稲津　　悟 …… 40

専門部のあゆみ

競　技　部　小国　俊之 …… 42
医科学研究部　北山　吉明 …… 43
強　化　部　中口　直人 …… 44
指導育成部　松田新二郎 …… 46

日小連誕生までの動き

副会長　**平川　卓弘**

座談会でも軽く触れましたが、小学生のバドミントンを全国組織に発展させようと考えて、その動きをスタートさせたのは、今から、およそ35年まえの1976（昭和51）年ころからだったと思います。

記録によると、この動きの梃にしようと考えて、東京都ジュニアバドミントン連盟を立ち上げたのが、それから5年後の1981（昭和56）年9月、第1回多摩地区（東京都）小学生シングルス大会を福生市民体育館で実施したのが始まりだったようです。

全国組織を立ち上げるのに、一番お骨折り願った人が藤川俊雄さん（現日本バドミントン専門店会会長）でした。

当時多くの県協会は、日本バドミントン協会が係わっていない大会には選手を派遣しないと考えていました。

この考えを乗り越えて全国の販売店のネットワークなどを使って、緻密な根回しに動いていただいたのが藤川俊雄さんでした。彼の働きが梃になって、次第に大会を関東大会、東日本大会へと発展させ、やがて、全国組織に発展させてゆくことができたわけです。

また、藤川さんには、発足以来、永い間、日本小学生バドミントン連盟の事務局長として働いていただきました。そして、同時に、彼以上に事務処理などに貢献していただいた藤川婦人に感謝申し上げなければなりなせん。私たちは、現在ある日小連の基礎作りに、藤川さんご夫妻が一番ご尽力されたことを決して忘れてはなりません。

やがて、1988（昭63）年1月9日に開いた京都の会議で、われわれが作る組織の基本理念について協議されました。そこで合意された文書が、黄色く変色して、いまも私の手元に残っています。

それには、学校教育とは一線を隔した15才以下の者で構成するクラブチームの全国組織、仮称「日本ジュニアバドミントン連盟」を結成すること。また、これを日本バドミントン協会に公認して貰おうとすることを決定したものです。

そこには、日本バドミントン協会の公認組織になるねらいとして、次の3項目を上げています。

1. 日バの主催事業にすれば行政のバックアップが取りやすくなるため
2. 主催地の後援を取り会場の確保を容易にするため
3. 将来ブロック予選が必要になったとき県協会の協力を得やすくするため

その経過措置として次の4項目が約束されました。

1. 現在実施している東西の大会は、しばらくそのまま継続する。
2. 東日本大会の主催は、東京都ジュニアバドミントン連盟がする。
   西日本大会は、京都府バドミントン協会が主催する。

3. 試合方法を統一し、2複3単のクラブ対抗団体戦で実施する
（これが若葉カップの試合方式の基礎になりました）
4. 昭和63年度は、東西のベスト4を集めて水鳥球を使用した中央大会を実施する
5. 期日：1989年（昭64）年1月5日長岡京市の西山公園体育館で実施する

この会議に出席した人は、川本末夫・大前　茂（京都）・嶋田（奈良）・平川卓弘（東京）の4人でした。
1991（平3）年7月に実施された「東日本小学生大会」の表紙を例示します。



黒く塗りつぶした県は、そのとき大会に参加した県です。当時、参加してくれたチームの関係者の姿が、いまもまぶたに浮かびます。

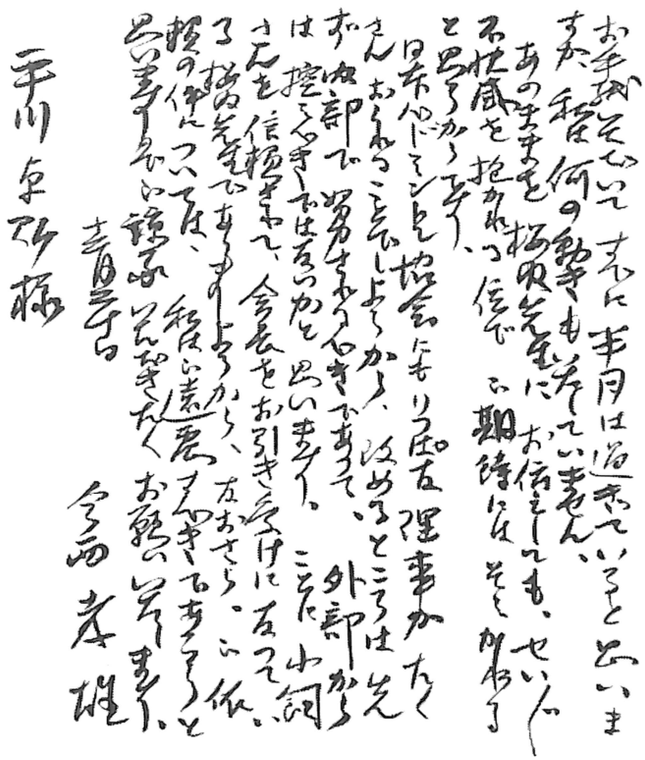
1992年（平4）1月5日に「日本ジュニアバドミントン連盟」が発足しました。このことを、日本バドミントン協会に知ってもらうために、桜内会長に三澤泰太郎氏（㈱リオン社長）に仲介をお願いしました。また、小飼専務には、平川がコンタクトすることを託されました。また、関連の団体である日本スポーツ少年団本部と中体連との関係も議論されました。

そのとき、日本スポーツ少年団は、われわれとは、その目的が違うので接触しませんでした。中体連には、代表である小野理先生に平川がお会いして理解をしていただくよう話をしました。その場所は、新宿の京王プラザだったと思います。

しかし、日本バドミントン協会の動きは鈍く、当時の今北基夫専務理事に働きかけましたが、埒が明きませんでした。その後、小飼栄一、村山幸雄氏など歴代専務理事にもお願いしましたが、動いていただけませんでした。

このように、日本バドミントン協会の反応が悪いので、ある時期、民法を勉強して、別に独立して公益法人を立ち上げることも検討された時期もありました。しかし、会議を持って話し合った結果、それをやめました。

日本バドミントン協会になんとか興味を持っていただこうと、専務理事ではだめなので、桜内会長に働きかけようと考えて、桜内会長宛てに文書を作成してお願いしようとしたとき、桜内会長の私設秘書である今西孝雄氏から、お叱りの手紙をいただきました



当時は、日本のバドミントンは、奈良県、熊本県を中心に動いていました。私たち組織の幹部は、これらの事実を知るためにアンテナを高くし、特に、九州地区には熊本の動きに知った上で、働きかけることに神経を使っていました。

やがて、めでたく、日本バドミントン協会に加盟を承認されたのは、遠井稔男氏が専務のとき、すなわち、それから9年後の1998年のことでした。

私は、この手紙の内容を神妙に受け、これを素直に理解して、正攻法で努力してゆくことを心に誓いました。

余談になりますが、これが縁で、蒼雲会（桜内義雄氏の後援会）に入り、またそれが縁で日本モンゴル協会に加入し、現在に至っています。

今西孝雄先生は、桜内会長と大学では同窓の志だったようです。先生には、いまでもお会いすると、いろいろとお声をかけていただいています。あのときは、良い勉強をさせていただきました。今でも今西孝雄先生のお諭があったから、現在の組織になれたのだと思っています。

連盟規約の原案作りは、日本バドミントン協会の規約と対比させ、将来傘下に入ることを前提にして検討が進められました。この仕事も平川が担当しました。



北海道ブロック担当理事　熊谷　敏夫

北海道から全国で活躍する選手を

【北海道小学生バドミントン連盟の歴史】

北海道の小学生バドミントンの歴史は浅い。しかし、北海道のバドミントンが全国大会で活躍できたのは、各地区でバドミントンにのめりこんだ指導者のおかげである。名前を挙げると、函館の諏訪内さん、小樽の澤里さん、三浦さん、室蘭の田仁さん、札幌の大同さん、石橋さん、旭川の中村さん、釧路の尾張さん（故人）で、今も子どもたちに熱い指導を行っている方々である。

小学生に係る大会は、北海道バドミントン協会の「指導普及委員会」が行っていたが、故小林　純幸会長の助言のもと、平成 14 年 1 月に宮崎岩次氏を会長として、「北海道小学生バドミントン連盟」が設立された。現在は、笠井正彰会長のもと、12 名の理事で大会運営ができるまでの組織となった。

【全国大会で活躍する北海道の選手たち】

北海道の冬は長い。約半年室内での生活となる。バドミントンは最低２人いれば打ち合いが始まり、小さい学年から親しむことができるスポーツである。そのためか、北海道のブロック予選を勝ち抜いて全国大会に出場した４年生が全国大会で上位に食い込むことが多く見られた。しかし、５年、６年と上の学年になるにつれてなかなか勝てないのが現状であった。

そこで、北海道小学生連盟の強化策として、日本のトップの指導方法を学ぼうと、日本小学生バドミントン連盟の指導育成部が行う「指導者講習会」に手を挙げ何度も指導者に来ていただいた。また、北海道の中だけでは強くなれないと感じ、「東北交流大会」「関東オープン」の仲間に入れてもらい、たくさんの試合をさせていただく機会を得た。そんな中、旭川地区の光島理貴・坂牧大地組が全小男子ダブルスで 4 年、5 年、6 年と３連勝を果たした。また、北海道としては団体戦で初めての優勝を北北海道（旭川）が果たした。この 2 つの感動で、第 18 回の千葉大会は私にとって忘れられない大会となった。

【北海道で育った選手の活躍に期待】

最近、小学校を卒業して中学校へ進学するときに、北海道を離れ他県へ行ってしまう子が多く見られるようになった。「もっと強くなりたい！バドミントンを一生懸命がんばりたい！」と子どもも親も悩んだ末に選んだ道であるので、私がどうこう言え

ることではない。そのような高い志をもった選手が、親元を離れてがんばる中でたくましい人間となり、全国で活躍できる選手になってほしい。北海道の大自然の中で育ったこと、たくさんの方々にお世話になって今の自分があることを忘れずに、大きく羽ばたいていってほしい。

20周年の迎える今年の記念大会は、北海道釧路で開催される。この大会でも北海道の選手が、自分の力を信じ、最後まで元気よく戦ってくれることを信じている。

東北ブロック担当理事　今野　末治

連盟設立20周年おめでとうございます

平成23年3月11日に発生いたしました、東北地方太平洋沖地震の際につきましては、全国の皆様からの暖かい励ましのお言葉等を多数いただき厚く御礼を申し上げます。

太平洋沿岸の激しい地震と津波による、大きな被害がありましたが、被災地の方々は地震津波に負けず少しずつ立ち上がっています。

『がんばろう!東北』を合言葉に東北小学生バドミントン連盟一致協力し、小学生及び地域のために微力ですが頑張りますので今後とも宜しくお願い致します。

東北ブロックとしては、全国小学生バドミントン大会東北地区予選会、東北県対抗団体戦、東北小学生強化合宿を各県持ちまわりにて年間行事として開催しております。

県対抗団体戦は、東北地区のレベルアップの為、全国大会団体戦オーダーで総当り戦を行っています。

東北地区以外の県選抜チームも参加いただき、全国大会上位入賞を目標に約1ヶ月前に開催、その後各県で微調整を行い全国大会に臨みます。

全国大会東北ブロックの成績は確実に現れていますが、日頃の県連盟及び各クラブ等の指導努力と思われます。

強化合宿については5・4年生対象に行っており、各県各学年男女別に各3名、各県の事情を考慮しながら1・2位の選手でなく3位以下の選手を対象に底上げをし、次年度に繋げるような方法を取りながら選手選考し、下位選手も選抜されて合宿に参加したいという目標になっています。選手、保護者も目標になるような行事を開催出来る連盟であること、これもひとえに東北地区小学生連盟役員の協力が有ることが最大の力だと思います。

設立当時から「東北からオリンピック選手」を目標に役員、クラブ指導者、保護者と一致協力し今後とも、子供達のため頑張って行きたいと思います。

関東ブロック元担当理事　小山　義夫

２０周年にあたり

2011年４月21日上海の自宅でテレビ中継2011アジアバドミントン選手権大会の男子シングルス２回戦佐々木翔対陳金の試合を見た。試合は佐々木が世界選手権王者の陳金をファイナルの激戦をものにして３回戦へ駒を進めた。

佐々木選手はもうベテランに属する選手だが私にとっては思い出深い選手だ、平成６年８月千葉県で第10回東日本小学生大会が開催され佐々木選手は北海道からただ一人参加してくれた選手として記憶に残っている。同時に当時の小学生バドミントン界の状況が思い出される。

平成４年１月６日からは第４回東西交流小学生バドミントン中央大会が京都府立体育館で開催されるのを機に京都の大前、東京の平川両氏が東西の代表として呼びかけ日本ジュニアバドミントン連盟設立発起人会が１月５日に開催され設立された。

当時は日本の東西で大会を開き上位の選手が集まり中央交流大会を開催していた、そのころの小学生バドミントン界は完全に西高東低で１回戦を終わると東の選手はほとんど残っておらずあたかも西日本大会の様相で悔しい思いをしたのを今でも思い出す。

関東地区では東京都ジュニア連盟が比較的早くから活動をしており昭和６１年ごろにはすでにジュニアクラブ対抗戦などを開催し各地区でバドミントンをしている小学生が交流を始めていた。

私の千葉でもこのころ千葉県協会の指導の下第１回小学生大会が開催され平成元年に県協会傘下の下部組織として千葉県小学生バドミントン連盟が発足している。多分このころに各県で小学生連盟が組織されているのではないかと推測する。

そのころの世界のバドミントン界では中国の台頭著しく昭和40年から３連覇、昭和52年から２連覇と５度もユーバ杯を獲得した日本だが今では中国のレベルに届かない。日本ジュニアバドミントン連盟もこの状況を踏まえて発足した。設立から20年最近では国際大会上位に日本人選手が名前を出すようになり成果が少しずつ出ているのではないかと思う。しかしながら韓国、マレーシア、タイ、台湾など各国もジュニア強化に努めており小学生連盟の役割はこれからますます重くなってくる。

日本小学生連盟の役員をはじめ各県指導者、父兄、選手一丸となってバドミントンを普及させどんどん世界に通用する選手を送り出し続けて欲しいと願う。

北信越ブロック担当理事　西本　幸夫

ブロック一丸となって

北信越小学生バドミントン連盟は平成16年4月1日に発足いたしました。

私自身、当連盟の設立にかかわる機会を与えていただき、現日小連副理事長の松田先生（石川県）をはじめ各県の理事長、役員の皆さんと長野県において連盟規約等について話し合ったことが、つい先日のように思えます。

発足後7年という短い間ではありますが、当連盟では、理事会や総会の場で『ブロック一丸』ということをモットーに事業のあり方などについて、忌憚の無い話し合いを進めてきました。

全国選手権大会のブロック予選、連盟主催の強化合宿という強化主体の事業もありますが、当連盟の特色として、選手が中学校に進学するまで少しでもバドミントンを続けてもらうため、また、目標を持ってバドミントンに取り組んでもらうため、年度の終わりとなる3月に学年ごと（6年生、5年生、4年生）の団体戦を開催しています。各県で予選会も行われますし、6年生にとっては、小学生最後の大会ということで目標にもなります。また、この大会は、交流ということに重きを置いていますので、全国大会に出場できなかった選手も大勢参加し、交流の輪を広げています。

これからも、北信越5県が一丸となって、小学生のバドミントン競技の普及・発展に努力していきたいと思います。

東海ブロック担当理事　高橋　克彦

東海ブロックのあゆみ

日本小学生連盟が20周年を迎えたことを、ともに心より喜びたいと思います。思い起こしますと、約20年前国分寺市にある勤労福祉会館に集まったメンバーは、わずか10名足らずでしたが、その時、五十棲会長が、「若葉カップと同じように、小学生のチャンピオンを目指すことによってバドミントン競技の普及とレベルアップを図りたい。」と熱く語られ、それに対して「課題はたくさんあるが、同じ思いで応えていこう。」と話し合ったことが、確実に実を結んできたことに感慨もひとしおです。こ

れからも、連盟が、バドミントン競技のさらなるレベルアップとグローバルな人間育成に尽力されることを祈念いたします。

さて、東海ブロックの小学生のバドミントンのあゆみは、1986年春日井市で開催されたスポーツ少年団の交歓大会から始まります。初年度は、女子のみで、愛知県・岐阜県・三重県の参加でしたが、やがて静岡県も参加するようになり、４県持ち回りの男女の充実した大会になり、多いときは、男女で８０チームを超えるまでになりました。その大会が1997年に発展解消して、東海小学生バドミントン大会団体戦として１５回目をむかえます。また、個人戦は、学年別大会として1989年に始まり、23回目になります。全国大会の予選として開催していますが、各種目とも各県4位まで出場させることで、経験の場を与えるようにしています。東海小学生連盟は、起案以来10年を要して2008年に設立しました。東海４県の連携と東海地区からオリンピック選手を送り出すことを大きな目標に掲げ、年に２回の大会と４回の強化合宿練習会を主催しています。

次に、東海４県のそれぞれのあゆみを紹介します。

愛知県では、一番古くから活動しているチームは、北山・東山ファミリースポーツ少年団、くすのきスポーツ少年団、石ヶ瀬スポーツ少年団で、1972年に少年団体制が整い、活動を始めました。県小連の結成は1996年で、加盟12団体でした。組織数はどんどん増えていますが、目標は、今も「打倒！岐阜・三重　めざせ日本一」で年数回の強化練習会を行っています。

岐阜県では、一番古いチームが笠松バドミントン少年団（旧笠松版ビーズ）・綾里バドミントン少年団ですが、創部年度は不明です。分かる範囲では、1979年に創部された神戸ジュニアバドミントンクラブです。県小連の結成は1989年で、ジュニアバドミントンの普及・強化を目指して岐阜オープンを開催し、近隣の県から参加をいただいています。また、連盟旗を作成し、委員会等の組織運営とホームページを活用した情報発信をしています。

静岡県では、1996年に小学生連盟を設立した富士宮スポーツ少年団が、一番古いチームです。広い県内を一つにまとめ、加盟団体・全体参加による連盟運営を実施し、連盟内を専門部化して事業の推進を図っています。現在、来年度開催予定の第21回全国小学生バドミントン大会の成功に向けて、各種目の選手強化と気持ち良く参加いただけるよう準備に邁進しています。

三重県では、1970年に志摩町全体での活動がありましたが、チームとしては、1972年頃に設立した磯部町バドミントンスポーツ少年団が一番古いようです。県の個人戦は1982年、団体戦は1986年から行っていますが、県小連は、規約の整理等整えて1997年の設立です。バドミントン活動が、より強靭な精神力を持った人間育成になればと願っています。

近畿ブロック担当理事　松村　宏則

連盟設立20周年おめでとうございます

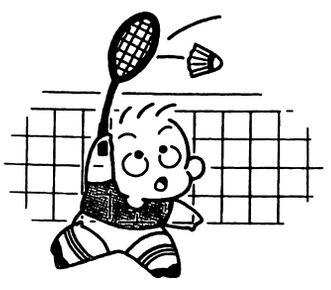
思い起こせば、私が小学生のバドミントンに関わりを持ち出したのは平成５年４月に京都の長岡京で若葉カップが開催されており、知人に進められ見学に行ったのがきっかけでした。
個人としてもこの大会の雰囲気を子供達に味合わせてやりたいと思いスポーツ少年団的なクラブをも手がけましたが実際にはクラブを作るのに６年もかかりました。
そして周りの方々にも助けて頂きながら次第に大所帯に選手人数の方も膨れあがって基盤が出来上がりました。

当初は全国大会なども関わるわけもなく練習に明け暮れていたわけですが、次第に選手達の頑張りで１人かかり２人かかりする中で私自身の意識も自ずと変わってまいりました。
また、近畿ブロックで勝ち上がっていく難しさ、いやというほど味わいました。

当時、私の知る限り、大阪・瓜破西SSC・大東ジュニア、兵庫・ひよどりジュニア、京都・長岡京ジュニア・京都ジュニア、滋賀・坂本倶楽部・滋賀ベイシック、奈良・鴻の池スポーツ少年団・高田クラブ、和歌山・岩出ジュニア等など強豪ぞろいでした。

その中、近畿小学生バドミントン連盟が発足し運営当初からの小国理事長（現在も）を中心に近畿はひとつをスローガンに近畿２府４県まとまってまいりました。
近年においては全国小学生選手権大会を平成１７年に奈良県で、平成 19 年には大阪でと、たて続けに大きな規模での全国大会を開催させていただいたのも記憶に新しいところです。
また、成功裡に終えることができましたことも、この場を借りて感謝申し上げます。
このように近畿小学生バドミントン連盟は多くの方々の支援により支えられております。

今後とも皆様のご理解、ご協力のもと役員一同がんばって運営に取り組んで参りますのでかわらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。



中国ブロック担当理事　山下　新一

中国地区小学生バドミントン連盟の歩み

昭和60年3月に中国地区協会主催で第1回ヨネックスカップ中国大会が「わかとり国体200日前大会」と銘打って鳥取県大栄町で開催された。当時は学年フリーの単・複の種目のみであった。以後各県順繰りで開催し、平成11年の第16回大会からは全国大会予選も兼ねることになり競技レベルは一段と向上した。平成14年7月27日に中国地区小学生連盟が設立され、普及と強化を目的に中国地区大会、中国地区選抜大会、4年生以下合宿、秋期選抜大会等を毎年開催している。また全国大会優勝者には中国地区連盟として表彰し選手の励みとなっている。こういった諸施策の中で全国トップクラスの選手も育ってきており、また近年各クラブ等で交流活動やオープン大会も活発に行われるようになり、徐々にではあるが底辺の拡大と競技力の向上につながってきている。初代理事長は鳥取の幸田英俊(H14年度)が就任し、以降、岡山の中島英喜(H15～16年度)、広島の下岡丈次(H17～19年度)、山口の山下新一(H20～現在)へと受け継がれている。

○鳥取県小学生バドミントン連盟（平成22年度登録者508名）
鳥取県小学生連盟は昭和54年度に「小体連」として発足し、平成60年に「鳥取県小学生連」と改称した。目的は県内の小学生に興味を持たせることと優秀な選手を育成するためである。
現在選手として、日野由希江(鳥取県教育委員会)、藤原由衣(三洋電機CE)、長谷川和己(トヨタ自動車)、山崎裕太(日本大学)などが活躍している。会長（川上 義博）　理事長（西田 隆志）　事務局長（清水 美典）

○島根県バドミントンジュニア連盟（平成22年度登録者253名）
昭和63年島根県協会小学生部会が中学生を含め「島根県ジュニア連盟」を設立した。平成17年には「おろちクラブ」が若葉カップで全国優勝した。また平成19年度には第17回全国小学生選手権大会を出雲市で開催した。活躍選手は、松本　岳(中央大学)、塚本好喜(日本体育大学)、土江奈津子(筑波大学)など大学で活躍している。会長（多々納 剛人）　理事長（木元 和也）　事務局長（安達 信之）

○広島県小学生バドミントン連盟（平成22年度登録者351名）

平成 7 年に広島県協会小学生部会が承認され、平成 14 年には広島県小学生連盟と改称した。
小学生が生涯スポーツとして親しんでほしいことと強い精神力をもってほしい。現在選手として前田園美（広島ガス）、米元小春(パナソニック)、米元陽花(NTT 東日本)が活躍している。会長（中本 和成）　理事長（山下 智子）　事務局長（山崎 雅典）

○岡山県小学生バドミントン連盟（平成 22 年度登録者３３３名）
昭和 58 年に「第 1 回岡山県小学生大会」が県協会主催で開催され、その後平成 4 年に「岡山県協会小学生部会」が承認される。平成 13 年に「岡山県小学生連盟」として発足した。現在日本リーグ等で活躍している出身選手で佐伯浩一(ＮＴＴ東日本)、佐伯祐行(日本ユニシス)、浅原さゆり(日本ユニシス)等がいる。会長（片岡　光）　理事長（松本 哲也）　事務局長（松本 哲也）

○山口県小学生バドミントン連盟（平成 22 年度登録者２３５名）
昭和 59 年に山口県協会に小学生担当常務理事が設置され、「山口県ジュニア連盟」が発足した。その後平成 14 年に「山口県小学生連盟」と改称した。強さと道徳心をもった選手育成をめざした活動をしている。今年の山口国体出場の地元選手に厚いエールを送りたい。現在選手として山平直輝(宇部興産)、松尾光平(同)等が活躍している。
会長（林　芳正）　理事長（山下 新一）　事務局長（大崎 充晴）

四国ブロック担当理事　吉川　和孝

四国４県の歴史

執筆に当たり、この機会を頂いた日本小学生バドミントン連盟に感謝いたします。
四国ブロックは、日本ジュニア連盟（現日本小学生連盟）発足に合わせ、香川県が先導し四国小学生連盟が発足。当初（平成４年から１１年）までは、香川県に事務局を置いていました。現在は２年ごとにブロック長が４県で交代しながら運営する。現在は、四国４県で近県の小学生を招待して合同合宿を行い、四国から世界チャンピオンをスローガンに頑張っています。

香川県

執筆者　吉川和孝

発足は1986年秋に6団体によって、香川ジュニアバドミントン連盟として発足。東四国国体開催決定を機に、県内の有志が集まり、国体時の高校3年生になる予定の小学4年生の強化を兼ね、連盟主催大会として、4年生の強化を兼ね、3月に第1回学年別大会を開催し、翌年度に3大会を開催する。県内で一番古い飯野クラブ（葛原氏）の刺激を受けながら、高松市内の3クラブで、高松ジュニアバドミントンスクール（高松JBC）を結成し技術向上を図る。

その一方で県内クラブを増やすため、各地域の小学校でクラブを作り、1年後に地域の協力者に委託し、現在は27団体になりました。

徳島県

執筆者　藤本　伸

徳島県ジュニアバドミントン連盟は、日本ジュニアバドミントン連盟が発足したことを受け、平成9年4月1日に設立された。

発足当時の加盟クラブ数は10クラブで、登録人数は104名（平成9年4月現在）であった。加盟クラブの所在地は県内でも二極化され、徳島市および藍住町といった徳島市内周辺地域と須賀郡および海部郡日和佐町（現在の美波町）といった県南部で連盟が発足する以前から盛んに活動が行われていた。

平成10年度には、日本小学生バドミントン連盟と改称したことにより、本県でも平成11年度より徳島県小学生バドミントン連盟と改称し、現在に至っている。

高知県

執筆者　岡上和実

最初、高知県バドミントン協会普及部により、小学生の普及や大会開催を運営していた。

しかし、四国の3県に小学生連盟があり、毎年四国大会を持ち回りで開催していくので、高知県にも小学生連盟を設立して欲しいとの他県からの要望で、平成11年に設立し、同年高知県小学生連盟による初めての四国大会を開催した。設立当初は、登録団体は6団体、登録選手は50名足らず。会長・副会長・理事長を置くも、理事の数も少なく、運営は6名で行っていた。徐々に団体数も増え、現在の登録団体数は10団体、選手は120名を超え、選手強化を図っている。組織も審判部・競技部・強化部、そして総務と会計を担当する事務局の4部門で構成し、組織力の充実を図り現在に至っている。

愛媛県

執筆者　黒光律子

愛媛県小学生バドミントン連盟は、平成8年4月に誕生し、それ以来、よちよち歩きの当連盟は、意欲的に活動している連盟を参考に、他県の後から歩み始め、前を歩

く他県を追いつき追い越そうと会長以下全役員が一丸となり、普及と発展、技術力の発展に邁進し、会員数も増え全国大会に選手を派遣しても、ベスト８に入賞できるようになりました。

そして更なる目標は、2014年の愛媛開催の全中大会、2017年の愛媛国体で上位入賞ができる選手の育成だけでなく、中学、高校、一般と長い目で見据えて、いま、小学生に必要な指導は何なのかを会員とともに研究し、追求し、日々遭遇しています。

媛（こども）を愛し、媛のための活動をして行きたいと思っています。

九州ブロック担当理事　稲津　悟

九州小学生バドミントン連盟のあゆみ

日本小学生バドミントン連盟創立20周年おめでとうございます。

九州での小学生バドミントンの組織は、昭和60年2月、九州バドミントン連盟理事長会において、ジュニアの競技力向上のため九州小学生大会を創設するということで動き始めました。第1回大会開催に向け、熊本県で大会要項案を至急作成し九州連盟指導委員会に提案するように指示を受けました。シングルスが6年、5年、4年以下の男女6種別、ダブルスは代表男女2種別、計8種別とし、使用球はナイロン、5年生、4年生以下のシングルスは半面で実施するということが了承され、昭和60年12月に熊本市で第1回大会が開催されました。小学生のブロック大会を九州連盟という公式な組織が主催して開催することは全国で最も早かったのではないかと思います。（現在では、種目、使用球などすべて全国大会に準じて行っています）この背景には、昭和50年代、陣内貴美子、権藤浩二選手をはじめ、インターハイで大活躍した九州の高校生のレベルが下降線をたどり始めたことにありました。九州各県の小学生が一堂に会し、競い合うことで徐々に競技力向上につながり、若葉カップを始め、全国規模の大会で九州地区の小学生の活躍が始まりました。日本小学生バドミントン連盟発足後、九州地区の代表者を出して欲しいとの連絡がありましたが、しばらくは静観することになり、熱心な一部のクラブだけが全国大会に参加しておりました。九州小学生大会は、九州バドミントン連盟が主催（指導委員会が管轄）し各県バドミントン協会が主管することになっていたので、九州大会での会議でも九州代表を正式に決めようという意見が出ませんでした。

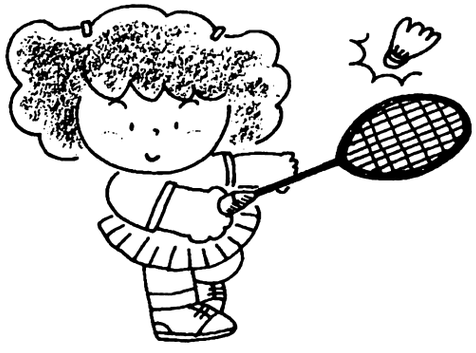
九州小学生バドミントン連盟の設立は、日本小学生連盟が日本バドミントン協会に正式に認められ、全国小学生大会が日バ1種大会になるということを受け、九州バドミントン

連盟の理事長会で、九州小学生バドミントン連盟を立ち上げることが決定されました。平成15年10月、佐賀県で開催された九州小学生大会にあわせて、九州小学生バドミントン連盟の設立総会が、九州バドミントン連盟理事長、各県バドミントン協会理事長、各県小学生担当者が参加して開催され、遅ればせながら九州地区の小学生の代表者が決定し、12月に宮城県仙台市で開催された日本小学生バドミントン連盟理事会に、初めて正式な代表として参加しました。

九州は、日本小学生バドミントン連盟登録者の4分の1以上に当たる6，700名以上が加盟し、全国大会個人戦の出場枠も3年越しの要望が通り5枠となりました。全国小学生大会が始まってから昨年の第19回大会までの結果でも、九州8県すべてから優勝者を出しております。これも、どこよりも早く、ブロック大会を立ち上げ開催してきた成果が出てきたのではないかと思います。

近年、有力選手が中学校進学から県外（九州外）への流出が多く見られるようになってきていることは残念ですが、ルネサスSKYの末綱・前田選手のように地方にいてもオリンピックに出場できるということを手本にして「九州は一つ」を合い言葉に選手の強化、普及発展に努力していきたいと考えています。

おわりに、日本小学生バドミントン連盟の今後益々の発展を祈念いたします。



競技部のあゆみ

部長　**小国　俊之**

全国の小学生バドミントン競技愛好者に夢と希望を与える日本最高峰の大会として三つの大会を開催している。これは、公益財団法人日本バドミントン協会の発展に寄与するとともに、各主管の都道府県協会・連盟に大いなる敬意を表し、そして子どもたちの健全な育ちに最大の期待をし、以下の大会を開催しているものである。

1．若葉カップ全国小学生バドミントン大会（平成23年度：第27回）主催：(公財)日本バドミントン協会・日本小学生バドミントン連盟・長岡京市
時期：７月下旬から８月上旬（４日間)
会場：京都府長岡京市西山公園体育館
内容：団体戦（男女別クラブ対抗)

2．全国小学生ＡＢＣバドミントン大会　（平成23年度：第12回）主催：(公財) 日本バドミントン協会・日本小学生バドミントン連盟
特別協賛：ヨネックス株式会社
時期：８月中旬（３日間)
会場：平成19年度～（10年間)
熊本県八代市　総合体育館他
内容：シングルス個人戦（男女別・グループ（学年）別)

3．全国小学生バドミントン選手権大会　（平成23年度：第20回)
主催：(公財) 日本バドミントン協会・日本小学生バドミントン連盟
特別協賛：ヨネックス株式会社
時期：12月下旬又は１月上旬（5日間)
会場：各ブロック持ち回り
内容：＊団体戦（男女別都道府県対抗)
＊シングルス・ダブルス個人戦（男女別・学年別)

以上の大会運営に際して、出場枠の拡大等の要項改正等を重ね、充実した大会へと変遷している。

また、日バの平成18年度からのレフェリー制度の導入に伴い、当連盟関係者の資格取得者２名により、日小連として競技会運営（組み合わせを含む進行・審判等の全て）に全面的に関わってきている。したがって、年々のルール改正等に速やかに対応した最新の審判技術等により運営ができており、大会の権威と安定が図られている。

医科学研究部の歩み

部長　**北山　吉明**

日本小学生バドミントン連盟に医科学研究部が発足したのは、平成 12 年に日本体育協会公認スポーツドクターの北山吉明が副会長に就任したことがきっかけである。平成 11 年に当時理事長の平川卓弘氏に請われて連盟役員につく際に、小学生バドミントン領域にスポーツ医科学の導入を是非実現して欲しいとの強い要請があったためである。

平成 12 年の北山副会長就任と同時に、連盟内に新しい専門部として医科学研究部が設立され、初代部長を北山吉明が併人した。

医科学研究部として最初に取り組んだ事業は、ジュニアのための指導教本の原稿執筆であった。これからのジュニア指導者のバイブルとなるべき教本の出版が急務であるとの、平川氏の発案に、日本バドミントン協会の遠井稔男専務理事が賛同し、㈶日本バドミントン協会編「バドミントン教本ジュニア編」が刊行された。この教本の中には、「こどもの身体発育と運動機能の発達」、「発育期のバドミントン選手に多いスポーツ障害・外傷の起こり方と対策」、「ジュニア選手のための栄養学」、「ジュニアバドミントンクラブのスポーツ医科学環境作り」の４つの章が盛り込まれ、ジュニア指導に必要な医科学的知識の普及には十分な内容となった。

ジュニア教本の発刊に続いて、指導者が抱えている具体的な問題の解決を目指し、全国都道府県への巡回指導を開始した。この際に、ジュニア教本を教科書として使用することとした。既に巡回指導を実施していた、普及指導部と連携し実技と講習を組み合わせた指導を行った。

巡回指導の要請数が増加してきたこともあり、平成 19 年に部員として、スポーツドクターの置塩良政が加入した。さらに平成 21 年には、管理栄養士の高畠朋子氏、日本体育協会公認アスレチックトレーナーの片山敬太郎氏、スポーツ歯科医の板東陽月氏の参加を得て医科学研究部の陣容が整えられた。これにより、スポーツ医科学に関する殆どの、講義及び実習が可能になった。

さて、本連盟の会員である小学生は、身体的に発育期にあるため、成人を対象としたトレーニングや練習方法をそのまま当てはめるわけにはいかない。また、スポーツ障害や外傷も、発育期に特徴的なものもあり、指導者や保護者は、この年代の身体構造の特殊性や、それを扱う際の注意に精通していなければならない。その点では、小学生の指導者は、他の年代を扱う指導者に比べて、多種多様の知識を必要とする。その、特殊性を指導者に認識してもらうと同時に、必要な情報を速やかに提供することが医科学研究部の使命と考えている。

小学生バドミントンプレーヤーが、効果的で安全なトレーニングを行い、技術を磨き、併せて健全な身体発育をとげることができれば、日本のバドミントン振興と同時に、ジュニアの強化、ひいては世界に羽ばたく選手の育成につながるものと信じ、活動を続けている。



強化部の歩み

強化部長　**中口　直人**

日本小学生バドミントン連盟20周年に当たり、強化部の歩みを振り返り今後の発展に繋がる思いを確認したいと思います。

2011年現在、日小連強化部の活動として、以下５つがあります。

①日本協会ジュニア強化部への役員派遣

②ナショナルジュニア選手選考会への選手推薦

③海外遠征（2008年～）

④パナソニック合宿（旧サンヨー合宿）

⑤全国選手強化合宿

①については日本協会強化部員として、強化合宿への参加が主でした。小（U－13）、中（U－15）、高（U－17）とカテゴリー別に役員配置されました。2004・2005年頃からは、海外交流、海外遠征の引率などの大きな仕事も増え、選手共々これらの経験を今後にどう生かすか見聞を広げる事に必死でした。小学生にも様々なチャレンジが与えられる事で選手選考への関心も高まりまし

た。

②の選手選考会への推薦は大きな注目を浴びました。年間の成績、合宿、試合などの成果やそれらをもとに推薦選手を決めます。その後のナショナルジュニアを見つけ出す作業は簡単ではありませんが、強化部の最重要な仕事になりました。

③の海外遠征は、2008年、籾井会長の就任とともにスタートし第1回は会長、日本ユニシスの多大なる援助のもとでベトナムに行くことになりました。その後、2009年韓国、2010年イスラエルと行われました。魅力的な事業で今後の継続が、切望されるものです。

④のパナソニック合宿は2010年までサンヨー合宿として開催され、2011年第17回よりパナソニック合宿に改まり、ますます盛んに行われています。ここへの参加は、日小連20年の内、17年にわたるもので、強化事業として最長であり、現在の日本のナショナル選手のみならず、高校、大学、実業団の中心的な選手の登竜門として位置づけることができるでしょう。初期の若葉カップとサンヨー合宿の連結に続き、強化策のひとつとしてスタートしたＡＢＣ大会に連結されたのが、⑤の選抜強化合宿です。もともと別日程をひとつの事業としてまとめあげましたが、選手役員ともに大きな負担はありますが、大会から次を目指す切り口を掴む合宿に位置づけされました。

④のパナソニック合宿は、トップチーム選手からの直接指導という大きな刺激的な経験を、⑤の選抜強化合宿は海外コーチの指導をいただき、２つで夏休みの記憶に残る事業となり得ています。有力選手が集まる事で全体の技術水準の向上に一役かって事も事実です。

日小連20年の内、前半の10年では、強化意識の芽生えと具体性の向上に手弁当と情熱をもって体当たりで道筋をつけるべき仕事に全力であたられたスタッフがあり、おかげを持って、次の10年には、あらかたの道筋を持って、本筋を全力で突っ走る体制が、出来つつあると思います。強化事業はかかるものが多く、他の事業の協力の下、そのスケールを維持、拡張してきました。これらの活動が、世界に飛び出すプレーヤーのスタートラインをはっきり見えるものにしてきたと思います。

次の10年、20年は最初の大きな花を咲かすのではないでしょうか。このことが、日本小学生バドミントン連盟の大きな望みと信じます。

指導育成部の歩み

部長　**松田　新二郎**

日本小学生バドミントン連盟の組織が徐々に充実しはじめた時期に、全国の指導者の皆様の指導力向上と児童をいかに募集し、底辺の拡大を図るクラブ運営の方法を指導する目的で、平成12年度より指導育成部の名称で巡回指導を実施しました。

初年度は4県からの依頼があり、当時の強化部副部長、吉川和孝氏と共に巡回指導を始めました。翌14年には6県の依頼があり、上田敏之氏を副部長に迎えて一層の充実を計りました。

平成14年に日本小学生バドミントン連盟の組織変更に伴い、指導育成部として専門部会を発足。同年には7県の依頼があり、翌15年11県、16年9県の申し込みと、広く全国に指導部の活動を理解していただけるようになると同時に、この年に日本バドミントン協会よりバドミントン教本ジュニア編が発刊され、翌17年には強化部より再度、吉川和孝氏を迎え、ジュニア教本を教材として講義をし、指導実技の充実を計りました。その結果、平成17・18年度は11県、同19年12県、20年14県、21・22年12県と毎年10県以上の申し込みがありました。

平成18年8月にはラリーポイント制のルール改正があり、指導方法にも若干の変更を加え、現在に至っております。

全国の指導者の皆様の熱い情熱がある限り、我々指導部の役割が大切になり、より一層勉強し、益々の発展を期す所存であります。今後10年、20年と指導部として全国の指導者の皆様のお手伝いが出来るよう、努力を続ける所存です。

指導部を預かり10年が過ぎ、我々部員にとっても随分と充実した10年間となりました。全国の指導者の皆様の熱い情熱がひしひしと身にしみる感覚があり、大変嬉しく思っています。

指導者にとっては、児童が主役です。その主役をいかに輝かせるかは、我々指導者の能力にかかっているといっても過言ではありません。今後ますますその能力を開発し続ける事を期待します。

ここ数年の全国大会の試合を見ても、全国の格差がなくなり、一回戦から好試合が展開され、手に汗握る試合が多く見られるようになりました。これもひとえに、指導者のレベルアップがなされた証だと思います。我々指導部の巡回指導が全国の指導者の意識改革に繋がっていると信じ、部員一同、より一層の勉強を図り、皆様の要望にお答えしていく所存です。

歴代本部役員 …… 47

歴代ブロック担当理事 …50

歴代本部役員

	年度	名誉会長	会　長	副会長	常任理事						監事	参与	顧問
					理事長	副理事長	事務局長	常任理事	若葉担当	会計			
1	1992 平4		五十棲辰男		平川卓弘	川本末夫	藤川俊雄	増田英男　福田晴世 大前　茂　御前龍雄	藤田都志夫	福田晴世			
2	1993 平5		五十棲辰男		平川卓弘	川本末夫	藤川俊雄	増田英男　福田晴世 大前　茂　御前龍雄	藤田都志夫	福田晴世			
3	1994 平6		五十棲辰男	川本末夫	平川卓弘	尾藤宏治	藤川俊雄	湯村治夫　小山義夫 増田英男　大前　茂 矢橋良栄　永井　孝 吉川和孝	清水貞雄	増田英男	御前龍夫 福田晴世		関根義雄 小野　理
4	1995 平7		五十棲辰男	川本末夫	平川卓弘	尾藤宏治	藤川俊雄	湯村治夫　小山義夫 増田英男　大前　茂 矢橋良栄　永井　孝 吉川和孝	清水貞雄	増田英男	御前龍夫 福田晴世		関根義雄 小野　理
5	1996 平8		五十棲辰男	川本末夫	平川卓弘	尾藤宏治 湯村治夫	藤川俊雄	小山義夫　佐藤俊夫 増田英男　大前　茂 永井　孝	清水貞雄	野呂瀬武彦	福田晴世		関根義雄 小野　理
6	1997 平9		五十棲辰男	川本末夫	平川卓弘	尾藤宏治 湯村治夫	藤川俊雄	小山義夫　佐藤俊夫 増田英男　大前　茂 永井　孝	清水貞雄	野呂瀬武彦	福田晴世		関根義雄 小野　理
7	1998 平10	五十棲辰男	小澤　潔	川本末夫	平川卓弘	尾藤宏治 湯村治夫	藤川俊雄	小山義夫　佐藤俊夫 大前　茂　永井　孝	塩谷和昌	毛利満里子	増田英男 野呂瀬武彦		関根義雄 小野　理
8	1999 平11	五十棲辰男	小澤　潔	川本末夫	平川卓弘	尾藤宏治 湯村治夫	藤川俊雄	小山義夫　佐藤俊夫 大前　茂　永井　孝	塩谷和昌	毛利満里子	増田英男 野呂瀬武彦		関根義雄 小野　理

9	2000 平12	五十棲辰男	小澤　潔	川本末夫 北山吉明 平川卓弘	尾藤宏治	湯村治夫 能登則男 小国俊之	高橋光雅	藤川俊雄　小山義夫 佐藤俊夫　松田新二郎	木村俊祐	福永正弘	増田英男 大前　茂	関根義雄	神沢　暁 小野　理
10	2001 平13	五十棲辰男	小澤　潔	川本末夫 北山吉明 平川卓弘	尾藤宏治	湯村治夫 能登則男 小国俊之	高橋光雅	藤川俊雄　小山義夫 佐藤俊夫　永井　孝 松田新二郎	木村俊祐	福永正弘	増田英男 大前　茂	関根義雄	神沢　暁 小野　理
11	2002 平14	五十棲辰男	小澤　潔	北山吉明 平川卓弘	尾藤宏治	湯村治夫 能登則男 小国俊之	高橋光雅	藤川俊雄　小山義夫 佐藤俊夫　永井　孝 松田新二郎	藤田都志夫	福永正弘	増田英男 大前　茂	関根義雄	神沢　暁 小野　理
12	2003 平15	小澤　潔	橋本龍太郎	北山吉明 平川卓弘	尾藤宏治	湯村治夫 能登則男 小国俊之	高橋光雅	小山義夫　松田新二郎 白浜義次　上田敏之	藤田都志夫	福永正弘	増田英男 大前　茂	関根義雄 神沢　暁	五十棲辰男 川本末夫 藤川俊雄 佐藤俊夫 椙山松良
13	2004 平16	小澤　潔	橋本龍太郎	北山吉明 平川卓弘	尾藤宏治	湯村治夫 能登則男 小国俊之	高橋光雅	小山義夫　松田新二郎 白浜義次　上田敏之	藤田都志夫	福永正弘	増田英男 大前　茂	関根義雄 神沢　暁	五十棲辰男 川本末夫 藤川俊雄 佐藤俊夫 椙山松良
14	2005 平17	小澤　潔	橋本龍太郎	北山吉明 平川卓弘 尾藤宏治	湯村治夫	能登則男 小国俊之 松田新二郎	高橋光雅	白浜義次　高橋光雅 福永正弘　上田敏之 吉川和孝　中口直人 田所光男	岩崎義典	福永正弘	増田英男 小山義夫	関根義雄	川本末夫 藤川俊雄 佐藤俊夫 椙山松良 大前　茂
15	2006 平18	小澤　潔	橋本龍太郎	北山吉明 平川卓弘 尾藤宏治	湯村治夫	能登則男 小国俊之 松田新二郎	高橋光雅	白浜義次　高橋光雅 福永正弘　上田敏之 吉川和孝　中口直人 田所光男	岩崎義典	福永正弘	増田英男 小山義夫	関根義雄	川本末夫 藤川俊雄 佐藤俊夫 椙山松良

													大前　茂
16	2007 平19	小澤　潔	籾井勝人	北山吉明 平川卓弘 尾藤宏治	湯村治夫	能登則男 小国俊之 松田新二郎	高橋光雅	白浜義次　福永正弘 上田敏之　吉川和孝 中口直人	森元　洋	福永正弘	増田英男	関根義雄	川本末夫 藤川俊雄 佐藤俊夫 椙山松良 大前　茂
17	2008 平20	小澤　潔	籾井勝人	北山吉明 平川卓弘 尾藤宏治	湯村治夫	能登則男 小国俊之 松田新二郎	高橋光雅	白浜義次　福永正弘 上田敏之　吉川和孝 中口直人	森元　洋	福永正弘	増田英男	関根義雄	川本末夫 藤川俊雄 佐藤俊夫 椙山松良 大前　茂
18	2009 平21	小澤　潔	籾井勝人	北山吉明 平川卓弘 尾藤宏治 湯村治夫	能登則男	小国俊之 松田新二郎 中口直人	（事務局） 下野和義	白浜義次　上田敏之 吉川和孝 熊谷敏夫（ブロック） 山下新一（ブロック）	立野誠次	福永正弘	増田英男 小山義夫	関根義雄	川本末夫 藤川俊雄 椙山松良 大前　茂
19	2010 平22	小澤　潔	籾井勝人	北山吉明 平川卓弘 尾藤宏治 湯村治夫	能登則男	小国俊之 松田新二郎 中口直人	（事務局） 下野和義	白浜義次　上田敏之 吉川和孝 熊谷敏夫（ブロック） 山下新一（ブロック）	立野誠次	福永正弘	増田英男 小山義夫	関根義雄	川本末夫 藤川俊雄 椙山松良 大前　茂
20	2011 平23	小澤　潔	籾井勝人	北山吉明 平川卓弘 尾藤宏治 湯村治夫	能登則男	小国俊之 松田新二郎 中口直人	（事務局） 下野和義	白浜義次　上田敏之 吉川和孝 熊谷敏夫（ブロック） 稲津　悟（ブロック）	立野誠次	福永正弘	増田英男 小山義夫	関根義雄	川本末夫 藤川俊雄 椙山松良 大前　茂
21	2012 平24	小澤　潔	籾井勝人	北山吉明 平川卓弘 尾藤宏治 湯村治夫	能登則男	小国俊之 松田新二郎 中口直人	（事務局） 下野和義	白浜義次　上田敏之 吉川和孝 熊谷敏夫（プロック） 稲津　悟（ブロック）	立野誠次	福永正弘	増田英男 小山義夫	関根義雄	川本末夫 藤川俊雄 椙山松良 大前　茂

歴代ブロック担当理事

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州
1994									
1995									
1996 平8	尾張健一 (釧路)	今野末治 (宮城)	小山義夫 (千葉)	松井　登 (福井)	高橋克彦 (三重)	大前　茂 (京都)	永井　孝 (岡山)	白浜義次 (香川)	永井(代) (岡山)
1997 平9	尾張健一 (釧路)	今野末治 (宮城)	小山義夫 (千葉)	松井　登 (福井)	高橋克彦 (三重)	大前　茂 (京都)	永井　孝 (岡山)	白浜義次 (香川)	永井(代) (岡山)
1998 平10	尾張健一 (釧路)	今野末治 (宮城)	能登則男 (埼玉)	松田新二郎 (石川)	高橋克彦 (三重)	大前　茂 (京都)	岡野圭典 (岡山)	白浜義次 (香川)	古賀　正 (福岡)
1999 平11	尾張健一 (釧路)	今野末治 (宮城)	能登則男 (埼玉)	松田新二郎 (石川)	高橋克彦 (三重)	大前　茂 (京都)	岡野圭典 (岡山)	白浜義次 (香川)	古賀　正 (福岡)
2000 平12	尾張健一 (釧路)	今野末治 (宮城)	椙山松良 (東京)	灘　宏昌 (富山)	高橋克彦 (三重)	友田　節 (奈良)	竹中勝利 (鳥取)	白浜義次 (香川)	村尾　隆 (福岡)
2001 平13	尾張健一 (釧路)	今野末治 (宮城)	椙山松良 (東京)	灘　宏昌 (富山)	高橋克彦 (三重)	友田　節 (奈良)	竹中勝利 (鳥取)	白浜義次 (香川)	村尾　隆 (福岡)
2002 平14	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	椙山松良 (東京)	倉科儀男 (長野)	高橋克彦 (三重)	友田　節 (奈良)	幸田英俊 (　)	中江重樹 (愛媛)	村尾　隆 (福岡)
2003 平15	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	吉田智彦 (埼玉)	倉科儀男 (長野)	高橋克彦 (三重)	友田　節 (奈良)	中島英喜 (岡山)	上松芳則 (高知)	稲津　悟 (熊本)
2004 平16	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	吉田智彦 (埼玉)	倉科儀男 (長野)	高橋克彦 (三重)	友田　節 (奈良)	中島英喜 (岡山)	上松芳則 (高知)	稲津　悟 (熊本)
2005 平17	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	吉田智彦 (埼玉)	高野　豊 (新潟)	高橋克彦 (三重)	友田　節 (奈良)	下岡丈治 (広島)	上松芳則 (高知)	稲津　悟 (熊本)
2006 平18	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	佐倉和明 (千葉)	寺杣茂和 (福井)	高橋克彦 (三重)	伊佐恒範 (滋賀)	下岡丈治 (広島)	中江重樹 (愛媛)	稲津　悟 (熊本)
2007 平19	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	佐倉和明 (千葉)	寺杣茂和 (福井)	高橋克彦 (三重)	伊佐恒範 (滋賀)	山下新一 (山口)	藤本　伸 (徳島)	稲津　悟 (熊本)
2008 平20	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	佐倉和明 (千葉)	寺杣茂和 (福井)	高橋克彦 (三重)	伊佐恒範 (滋賀)	山下新一 (山口)	藤本　伸 (徳島)	稲津　悟 (熊本)
2009 平21	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	佐倉和明 (千葉)	森田　均 (石川)	高橋克彦 (三重)	松村宏則 (奈良)	山下新一 (山口)	浮橋隆二 (愛媛)	稲津　悟 (熊本)
2010 平22	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	佐倉和明 (千葉)	森田　均 (石川)	高橋克彦 (三重)	松村宏則 (奈良)	山下新一 (山口)	浮橋隆二 (愛媛)	稲津　悟 (熊本)
2011 平23	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	佐倉和明 (千葉)	西元幸夫 (富山)	高橋克彦 (三重)	松村宏則 (奈良)	山下新一 (山口)	岡上和実 (高知)	稲津　悟 (熊本)
2012 平24	熊谷敏夫 (札幌)	今野末治 (宮城)	佐倉和明 (千葉)	西元幸夫 (富山)	高橋克彦 (三重)	松村宏則 (奈良)	山下新一 (山口)	岡上和実 (高知)	稲津　悟 (熊本)
2013									

栄光の記録

全国小学生バドミントン選手権大会

団体戦　男　子 …… 51
　　女　子 …… 54
個人戦 …… 57

ＡＢＣバドミントン大会 …… 62

若葉カップ全国小学生バドミントン大会

（クラブ対抗団体戦） …… 66

全国小学生バドミントン選手権大会（団体戦）

（男子の部）

大会名	優勝	準優勝	3位		5位
	富山県	東京都	石川県	千葉県	
第１回	藤田　真平	土田　匡泰	村上　　亮	新井　克己	栃木県
神奈川大会	中西　　亮	佐々木公一	山下　幸司	岡田　秀樹	岩手県
1997. 2. 8～9	中島　秀人	森川　政人	高塚　大輔	中西　雄希	北北海道
日本体育大学	小川　勝弘	宮村　政広	宮川　郁也	大西　友和	埼玉県
健志台体育館	水上　貴史	青山　天将			
	東京都	石川県	埼玉県	富山県	
第２回	青山　天将	山田　一哉	高木　洋平	黒瀬　尊敏	新潟県
神奈川大会	刀祢　俊介	宮村　順也	鳥井　雄羽	伊原　慶祐	長野県
1998.2.14～15	入月　康浩	羽野　亮平	松田　正輝	奥野　静修	福岡県
日本体育大学	藤田　真生	山口　　俊	遠藤　大由		千葉県
健志台体育館	宮村　俊宏	熊田　有希	岩田　翔舞		
	埼玉県	石川県	富山県	福岡県	
第３回	遠藤　大由	山口　　俊	吉田　　剛	阿部　陽輔	岡山県
神奈川大会	岩田　翔舞	安藤　総兵	山下　茂喜	山口　雄基	福井県
1999.2.13～14	馬場　達也	伊東　克範	大沢　包人	小林　淳司	滋賀県
日本体育大学	斉藤　祐太	豊島　俊樹	中西　和樹	垰畑　陽平	南北海道
健志台体育館					
	岡山県	東京都	石川県	熊本県	
第４回	三宅　達也	宮村　俊宏	安藤　総兵	田辺　義貴	沖縄県
群馬大会	佐伯　祐行	山田　雄一	牧畠　正樹	宮本　昴樹	香川県
2000.2.13～14	石井　敏之	上田　拓馬	伊東　克範	黒田　直樹	埼玉県
群馬アリーナ	東山　勇樹	本田　　純	堂谷内　剛	沖中　俊樹	栃木県
		青山　将道			
	福岡県	広島県	滋賀県	岡山県	
第５回	和田　力也	川下　剛士	山本　啓奨	逢澤　宏亮	福井県
広島大会	和田　真弥	大田　圭祐	森澤　　聡	中野　良祐	石川県
2001.2.10～11	玉井　皓也	猫本　竜也	宇野　賢人	松本　寛史	岐阜県
広島県立総合体育館	近藤　早寿	石川　直哉	矢部　拓也	川上　佑輔	大阪府
		岩見　隆広	村上　　俊		

（男子の部）

大会名	優勝	準優勝	3位		5位
	福岡県	広島県	鳥取県	佐賀県	
第10回全小	和田　力也	岩見　隆広	山崎　裕太	武下　利一	石川県
広島大会	和田　真弥	北島　翔太	仲井　佑太	大野　潤也	埼玉県
2002.1.4～5	藤原　達矢	坂本　賢宏	森本　貴則	嘉村　健士	島根県
広島県立総合体育館	原田　和憲	鈴山　貴史	森本　智則	円城寺尚人	富山県
	北野　　圭	前川　賢人	斉尾　聡宏	嘉村　昌俊	
		宮野　一樹			
	福岡県	滋賀県	埼玉県	香川県	
第11回全小	吉岡　直敏	矢部　拓也	和田　　周	木場　勇介	大阪府
福岡大会	下村　和馬	宇野　賢人	滝内　　亮	長谷川智也	佐賀県
2003.1.4～5	原田　和憲	村上　　俊	青木　康友	田中　章吾	鹿児島県
北九州市立総合体育館	宮原　一馬	桂　　大晃	北林　　悠	平澤　優一	奈良県
	小木　啓太	松原　　司	北林　　峻	栗田　純貴	
	末松　　純	平井　優也		井上謙一郎	
	富山県	岡山県	新潟県	宮城県	
第12回全小	星野　翔平	高地　修史	廣川　拓巳	太田　　卓	大阪府
宮城大会	佐伯　優人	逢澤　良亮	伊藤　朋大	伊藤　芳晃	長野県
2003.12.20～23	辻　　大貴	安田　　僚	砂井　良介	佐々木　望	栃木県
仙台市体育館	山口　容正	中野　大輝	米田　健司	高橋　　悠	奈良県
	谷村　　学	高月　佑斗	原　　健大	岡元　唯純	
		渡辺　尊之		中田　和希	
	福岡県	香川県	石川県	愛知県	
第13回全小	大塚　悟司	木村健太朗	竹田　大介	山口　勇気	埼玉県
愛知大会	東久保　貴	喜岡　侑亮	南　　淳也	山本　茂人	南北海道
2005.1.4～8	延吉　弘孝	鎮田　頼宣	西村　　匠	藤田　康史	大阪府
名古屋市	古賀　　輝	鎮田　頼直	細野　真吾	浅井　豪太	熊本県
中村スポーツセンター	吉岡　知浩	山中　一浩	荒木　隆宏	松木　　光	
東スポーツセンター		片岡　勇雄		船木　健吾	
	大阪府	東京都	南北海道	埼玉県	
第14回全小	佐々木　崇	大森　悠馬	小坂　一貴	中山　祐希	福岡県
奈良大会	佐々木健斗	千葉　　常	松尾　龍斗	山本　秀弥	熊本県
2005.12.22～26	河合　勇飛	平田　　昇	吉川　大智	金子　祐樹	福井県
大和郡山市総合公園	荒井　一希	大野　翔一	清本　　樹	川島　　恭	佐賀県
多目的体育館	金田　京大	栗俣　知弥	松谷龍之介	和田　征大	
奈良市中央体育館	松本　康平	斎藤　謙太	宇野　友規		
	石川県	滋賀県	香川県	北北海道	
第15回全小	松居圭一郎	三津川　剛史	桃田　賢人	浅野　右京	岡山県
大分大会	荒井　大輝	河崎　駿輔	大江　直人	佐藤　満確	愛知県
2007.1.5～8	日光　　凌	西澤　康一	畠山　　工	溝口　祐太	南北海道
別府市総合体育館	毛利　一穂	西川裕次郎	小西　遥介	岩鼻陽太郎	大阪府
（べっぷアリーナ）	丸山諒一郎	坂本　智耶	木村大二朗	児玉　悠介	
	大町　康太	斉藤　淳史			

（男子の部）

大会名	優勝	準優勝	3位		5位
	大阪府	南北海道	茨城県	福岡県	
第16回全小	菊地　恭平	吉川　　改	稲光　勇太	馬場　湧生	熊本県
大阪大会	松本　康平	堀　　太一	仁平　隼人	古賀　　穂	宮城県
2007.12.22～26	森山　　翼	山口　友輔	岡野　伸哉	成富　勇太	愛知県
舞洲アリーナ	下農　　走	元田　浩太	林　　翔太	荒木　　惇	埼玉県
	曽根　雄太	片桐　悠輔	青木浩太郎	藤　　慶行	
	松浦　拓巳			田中　佑弥	
	鹿児島県	東京都	南北海道	栃木県	
第17回全小	笹川　大志	市川　和洋	柏原　剛毅	田崎　真吾	茨城県
島根大会	篠原麟太郎	山田　悠起	塚本　光希	篠崎　孝浩	埼玉県
2009.1.3～7	下川　大樹	宮崎　滉太	西方　優馬	高橋　歩夢	熊本県
島根県立浜山公園体育館	釘崎　　椋	仁井　政希	三浦慎太郎	甲賀　優希	石川県
	長濱　健太	渡辺　勇太	渡辺　一平	鈴木　孝太	
	日高　　輝	小倉　由嵩		鈴木　　諄	
	東京都	愛知県	南北海道	宮城県	
第18回全小	小倉　由嵩	安藤　大地	中道　脩斗	小林　大吾	奈良県
千葉大会	渡辺　勇大	可児　駿弥	菊地　佑太	曽根　天	岡山県
2009.12.25～28	渡辺　俊和	間瀬　幸之介	日詰　晴輝	植松　康輝	大阪府
千葉ポートアリーナ	岩元　ミライ	北村　颯悟	植村　瑠太	齋藤　拓実	新潟県
	田村　優典	上田　琢真	奥芝　悠平	野村　拓海	
	大平　洸輝		菊池　正樹	佐藤　雄輝	
	東京都	山形県	北北海道	南北海道	
第19回全小	大平　洸輝	渋谷　光希	小野寺　泰雅	浦田　皓平	熊本県
愛媛大会	柴田　一樹	大島　千聖	高橋　慶	遠藤　真彦	愛知県
2010.12.25～28	小野寺　雅之	鈴木　遊	高見　亮佑	金山　柾斗	福井県
愛媛県武道館	斉藤　結一	後藤　駿斗	髙橋　大輝	高尾　直佑樹	岡山県
松山市総合コミュニティセンター体育館	田代　瑚	小野　優真	蝦夷森　駿	野内　龍	
	山田　尚輝			渡辺　一平	

（女子の部）

大会名	優勝	準優勝	3位		5位
	福岡県	宮城県	岐阜県	南北海道	
第１回	樽野　有希	佐藤　美紗	後藤　　舞	安井　千紘	東京都
神奈川大会	和田真以子	長沢　美佳	林　　裕佳	阿野加代子	新潟県
1997. 2. 8～9	風間　ゆり	桜井　温子	脇田　　侑	後藤　佳代	愛媛県
日本体育大学	武田千恵子	平山　　優	三輪紗弥可	内山　麻美	富山県
健志台体育館			刈谷　育子	内山　寛美	
	福岡県	宮城県	富山県	千葉県	
第２回	樽野　有希	桜井　温子	成川可奈子	小柳　知子	東京都
神奈川大会	和田真以子	平山　　優	富樫　理奈	大竹　萌華	香川県
1998.2.14～15	小野　智子	古山　菜採	井上美紗子	蔵本　麻子	神奈川県
日本体育大学	坂本　明子	渡辺ちひろ	酒井かおり	高須賀未央	鳥取県
健志台体育館				小山　　藍	
	福岡県	富山県	徳島県	石川県	
第３回	久野　納菜	太田　麻衣	井村　佳子	西村　紗希	広島県
神奈川大会	竹田亜由美	高野　愛理	兼市　加奈	興津　由佳	千葉県
1999.2.13～14	渡辺　有紀	江渕　愛美	原野安由美	南出なつき	滋賀県
日本体育大学	高村　英梨	五十嵐由香		村上　夏樹	栃木県
健志台体育館					
	石川県	滋賀県	富山県	香川県	
第４回	興津　由佳	田中　千晴	江淵　愛美	長野亜沙美	北海道
群馬大会	水口さゆり	高倉　まみ	小西　美香	多田　彩華	栃木県
2000.2.13～14	南出なつき	垣岩　令佳	富山智恵美	岸本　真美	宮城県
群馬アリーナ	浜中麻亜子	北村　綾子	金山　友萌		愛媛県
		鳥本　美沙	佐々木悠乃		
	福岡県	石川県	北海道	香川県	
第５回	樽野　　恵	沢本奈津紀	佐々木理恵	藤澤　香織	宮城県
広島大会	原田　麻未	南出　さき	八木麻由加	岩崎　千愛	新潟県
2001.2.10～11	田村　千秋	木村　唯菜	岩田　　静	中西　希衣	奈良県
広島県立総合体育館	井上　莉沙	村上　　彩	石川　綾華	平野加奈子	鹿児島県

（女子の部）

大会名	優勝	準優勝	3位		5位
	石川県	滋賀県	千葉県	奈良県	
第10回全小	村上　彩	垣岩　令佳	笹間なつき	深田　実世	群馬県
広島大会	桜井みどり	坂本　由衣	鈴木　梢	西川真奈美	大阪府
2002.1.4～5	畑　安紗美	村上　陽子	木村　有花	高橋　礼華	東京都
広島県立総合体育館	室達　茜	三津川清子	小山　文萌	北　はるな	愛知県
	駒木　友紀	上田　洋子	大日向　美弥子	西　友里	
		仲川志都香	浦井　美和	賓田　ひかり	
	奈良県	愛知県	福岡県	岐阜県	
第11回全小	高橋　礼華	高野　萌	石川　ゆい	前田　莉紗	広島県
福岡大会	北　はるな	清水　綾	真鍋　里美	小窪千香子	兵庫県
2003.1.4～5	西　友里	野口世莉菜	松井　翔子	遠藤　紗葉	宮城県
北九州市立総合体育館	宝田ひかり	坂野ゆりか	牧野　美咲	大橋　諒子	富山県
	坂倉　彩	西村　美穂	兼光　沙紀	大橋　知紗	
	高橋紗也加	藤井　珠生	森山　葉月	野原　麻未	
	徳島県	岡山県	千葉県	宮城県	
第12回全小	松友美佐紀	逢澤　舞	若松　優子	八島　里穂	愛知県
宮城大会	神原　靖奈	植木実璃奈	青木　優子	今野あゆみ	香川県
2003.12.20～23	水口　愛梨	河野　菜月	木村　瞳	小松　千洋	南北海道
仙台市体育館	藤本　香那	河田　千穂	佐藤　楓	熊谷早也佳	栃木県
	宮崎　友望	中永　彩夏	柳　麻美	和島　恵愛	
	田上　祐子	角田　佳穂	大島　唯	木戸よし美	
	愛知県	鹿児島県	滋賀県	宮城県	
第13回全小	興猶くるみ	脇野　利奈	浦谷　夏未	和島　恵愛	千葉県
愛知大会	峰　歩美	篠原　早貴	木村　仁葉	木戸よし美	岐阜県
2005.1.4～8	城口優里花	牧之瀬絵理	安居　里彩	佐藤　深雪	奈良県
名古屋市	野中　優	中村ゆり絵	玉木沙也華	今野あゆみ	東京都
中村スポーツセンター	坂　奈美樹	長野　愛菜	木村　友都	菊地なつみ	
東スポーツセンター	森山ゆいか	肥後明日香			
	千葉県	熊本県	愛知県	東京都	
第14回全小	高瀬　秀穂	山本明希歩	森山ゆいか	今村　碧	神奈川県
奈良大会	飯高　沙彩	福島　由紀	篠谷　菜留	市川　笑里	富山県
2005.12.22～26	俣野　愛実	北森　加菜	斉藤　優菜	秋山　薫理	佐賀県
大和郡山市総合公園	菅　由里子	石村　美貴	浜島　優美	早田　紗希	兵庫県
多目的体育館	柳　郁美	伊藤　月規	加藤里恵子	荒木　真倫	
奈良市中央体育館	鳥居　彩乃	寄田　朱里	小池　紗葉	小橋　霞	
	千葉県	岡山県	福岡県	北北海道	
第15回全小	鳥居　彩乃	小見山　彩	中村　麻裕	牧野　怜奈	石川県
大分大会	柳　郁美	岡﨑　梨紗	吉野　沙希	鈴木　麻友	栃木県
2007.1.5～8	原田なつみ	秋田　知咲	入江　志歩	船崎　彩音	東京都
別府市総合体育館	角田　英里	加藤　美幸	櫻本　絢子	佐々木柚里菜	熊本県
（べっぷアリーナ）	石田　光枝	赤沢　夏希	池田佳奈美	菊池このみ	
	飯島　真依	池田　美鈴			

（女子の部）

大会名	優勝	準優勝	3位		5位
	岡山県	千葉県	福岡県	宮城県	
第16回全小	岡本　紗季	飯島　真依	櫻本　絢子	菅田愛結果	石川県
大阪大会	中野みさと	石田　光枝	西尾　千空	佐藤恵里香	岩手県
2007.12.22～26	赤沢　夏季	佐藤のぞみ	井上　美沙	足利　倭瑚	南北海道
舞洲アリーナ	加藤　美幸	石橋美咲子	松岡　英美	曽根　里紗	東京都
	石田　　愛	中平　瑞希	大野　　瞳	鈴木いよ乃	
	大谷　紗代	堀内　優衣			
	鹿児島県	東京都	香川県	埼玉県	
第17回全小	中村　優花	仲井由希乃	木場　叶華	荒木　茜羽	大阪府
島根大会	長野　来夢	福本　万結	西村　愛里	川島　里羅	愛媛県
2009.1.3～7	中村　優里	山岸　麻生	梶内　彩理	粂谷　百香	茨城県
島根県立浜山公園体育館	園田絵里奈	平田　結夏	新延　彩音	尾崎　沙織	熊本県
	引地由希奈	井部恵理香	青野　志帆	齊藤　　栞	
	児玉実知花	宇都　　璃	十河　茉由	久喜　梨香	
	北北海道	石川県	埼玉県	東京都	
第18回全小	佐藤　唯	吉浦　鈴夏	齋藤　栞	宇都　璃	神奈川県
千葉大会	野村　奈央	藤村　沙妃	上村　琴音	井部　恵理香	千葉県
2009.12.25～28	北口　棒花	東　久留望	重松　花苗	石原　優美	福井県
千葉ポートアリーナ	舟橋　佳歩	小野　菜保	荒木　萌恵	岩谷　果歩	高知県
	藤井　春那	坂東　茉耶	久喜　梨香	村井　陽香	
		大家　夏稀	吾妻　咲弥	有賀　玲奈	
	埼玉県	岡山県	香川県	新潟県	
第19回全小	川島　美南	若林　真名	喜岡　奈美	小菅　留実	千葉県
愛媛大会	吾妻　咲弥	青山　栞子	山野　遙加	栃本　ゆき乃	奈良県
2010.12.25～28	池澤　みずほ	金田　明香里	田中　ちひろ	目崎　澪	福井県
愛媛県武道館	鈴木　成美	野島　心	漆原　三姫	長谷川　ときわ	広島県
松山市総合コミュニティセンター体育館	古閑　鈴香	香山　未帆	磯村　紗那	鷲尾　夕夏	
	有川　友理奈	武田　莉奈	平野　紗妃	永井　瀬雰	

全国小学生バドミントン選手権大会（個人戦）

第1回京都大会　1992. 11. 23～24　京都府立体育館

種目	優勝	準優勝	3位	4位	5位			
男子単	茶谷 徳靖 石川・金沢ジュニア	橋村 竜彦 岡山・永井BC	柴田 善夫 大阪・瓜破西SSC					
男子複	梅本 上田 三重・高茶屋	案徳 平見 香川・香川スクール	高尾 橋本 大阪・瓜破西SSC					
女子単	安城 美華 大阪・瓜破西SSC	速水 永子 奈良・高田クラブ	坂口 実都 奈良・高田クラブ					
女子複	上田 上田 奈良・高田クラブ	中江 三原 滋賀・坂本スポ少	前田 媚山 新潟・新潟ジュニア					

第2回岡山大会　1993.12.25～26　倉敷中央体育館

種目	優勝	準優勝	3位	4位	5位			
男子単	前田 文博 香川・香川スクール	二宮 和哲 香川・高松JBS	橋本 悠司 大阪・瓜破西SSC	生田 篤 大阪・瓜破西SSC	佐野 祐樹 静岡・富士宮スポ少	山下 淳 石川・相馬クラブ	小国 祐亮 長岡京ジュニア	広瀬 雅士 石川・相馬クラブ
男子複	永谷 彰平 瀬上 浩司 大阪・瓜破西SSC	向井 俊介 高野 善幸 大阪・瓜破西SSC	近藤 晃仁 小林 弘明 東京・オーム	稲田 耕治 佐伯 浩一 岡山・永井BC	柴田 貴之 柴田 石川・相馬クラブ	窪田 基弘 西野 元先 岡山・永井BC	酒井 垣内 栃木・上戸祭スポ少	高宮 関野 栃木・上戸祭スポ少
女子単	浜口 有里 香川・香川スクール	田辺 理絵 福岡・福岡京都	寺本 悦子 宮城・あおば	守屋 仁美 岡山・永井BC	萩原 麻美 埼玉・チャレンジャー	谷口 貴美 岡山・太伯BC	炭井 千春 香川・香川スクール	大橋 美香 茨城・恋南スポ少
女子複	岸田 垣井 香川・香川スクール	深貝 尚子 堀江 祐香 岐阜・岐阜ジュニア	小松 留美子 西田 麻衣子 香川・高松JBS	佐竹 由衣 東原 結衣 香川・香川スクール	小畑 友希 舟越 友希 東京・小平ジュニア	印宮 亜希 長峰 亜季子 埼玉・チャレンジャー	中川 小泉 新潟・新潟ジュニア	遠田 有香 桜井 里恵 宮城・塩竈ジュニア

第3回岐阜大会　1994.12.24～25　岐阜メモリアルセンター

種目	優勝	準優勝	3位	4位	5位			
男子単	佐藤 翔治 東京・小平ジュニア	新開 裕介 大阪・瓜破西SSC	川前 直樹 奈良・鴻ノ池	諸多 大輔 奈良・鴻ノ池	佐々木 翔 北海道・上磯ジュニア	草場 利貞 佐賀・玄海ジュニア	米 隆夫 富山・福野ジュニア	佐竹 一希 香川・香川スクール
男子複	伊藤 博哲 足袋抜 雅史 大阪・瓜破西SSC	稲田 耕治 佐伯 浩一 岡山・永井BC	植田 篤史 竹川 慶二 香川・高松JBS	竹林 太造 大庭 政範 香川・香川スクール	車 淳史 京徳 昭 石川・鹿島ジュニア	大野 泰治 土田 匡泰 東京・小平ジュニア	谷口 俊明 尾崎 真介 岡山・太伯BC	西峰 大輔 金子 久倫 岡山・永井BC
女子単	園山 香織 大分・別府フレンド	福本 弥生 福岡・福岡京都	三根 久美子 福岡・福岡京都	炭井 千春 香川・香川スクール	門 節子 奈良・高田倶楽部	桜井 里恵 宮城・塩竈ジュニア	鬼木 笑 東京・小平ジュニア	戯内 香奈子 奈良・高田倶楽部
女子複	阿部 純子 原 真理世 宮城・塩竈ジュニア	我妻 奈穂子 菊池 里江 宮城・塩竈ジュニア	吉岡 久美子 米田 友香 奈良・高田クラブ	大谷 香 本間 瑞穂 新潟・新潟ジュニア	柳 真利子 吉田 奈央 香川・高松JBS	八草 麻依子 蓮井 淳子 香川・香川スクール	前原 ゆり 太田 麻美子 香川・高松JBS	吉岡 末希 小桜 紗織 富山・破波東部

第4回石川大会　1995.12.23～24　金沢市総合体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	5年	新開 慎士 大阪・瓜破西SSC	池田 雄一 福岡・岡垣ジュニア	下向 祥悟 大分・別府フレンド	土田 匡泰 東京・小平ジュニア	高岡 聖 愛媛・UBC	辻田 嘉章 滋賀・坂本スポ少	大庭 隆徳 香川・香川スクール	数野 健太 滋賀・坂本スポ少
	6年	左村 正和 長崎・村松小	大滝 祐紀 大阪・瓜破西SSC	佐伯 浩一 岡山・永井BC	西浦 和広 奈良・桜井ジュニア	松尾 信幸 大阪・瓜破西SSC	大野 泰治 東京・小平ジュニア	小池 孝幸 群馬・神明ジュニア	北山 順平 石川・中央ジュニア
男子複	5年	山口 公洋 早川 賢一 滋賀・坂本スポ少	確井 太基 田仁 貴也 北海道・壮瞥町スポ少	宮村 政宏 藤田 真生 東京・小平ジュニア	新田 隆 山端 康裕 石川・下甘田ジュニア	伊東 裕也 吉田 清香 埼玉・チャレンジャー	佐々木 公一 森川 政人 東京・練馬ジュニア	西田 浩之 大山 拓朗 香川・高松JBS	吹田 倫明 山田 純平 富山・南条ジュニア
	6年	穴吹 康隆 西村 祥一 香川・香川スクール	山浦 尚仁 斉藤 篤史 福岡・海老津クラブ	小西 智之 小西 広晃 奈良・桜井ジュニア	東原 輔俊 天野 真一 香川・高松JBS	柴崎 浩一 吉田 祐功 埼玉・チャレンジャー	広中 良章 好村 正輝 山口・柳井日積ジュニア	有田 友紀 奥村 仁尚 福岡・JBC	広瀬 宜之 藤井 拓海 石川・相馬クラブ
女子単	5年	岩田・新菜 香川・香川スクール	佐藤 美沙 宮城・塩竈ジュニア	宮村 美紀 東京・小平ジュニア	北村 梢 滋賀・ベイシックジュニア	伊東 可奈 石川・大徳ジュニア	矢野 智子 京都・長岡京JR	安井 千絵 北海道・壮瞥町スポ少	岡野 あゆみ 岡山・永井BC
	6年	安城 由紀子 大阪・瓜破西SSC	早川 由希子 滋賀・坂本スポ少	丸岡 智子 香川・香川スクール	潮田 玲子 福岡・京都クラブ	広岡 まり香 埼玉・チャレンジャー	刀祢 絢子 東京・小平ジュニア	今井 幸代 富山・破波東部スポ少	小椋 久美子 三重・川越町スポ少
女子複	5年	小池 由子 明石 光世 香川・香川スクール	目黒 香菜 伊藤 麻子 奈良・橿原ジュニア	梅野 有希 和田 真以子 福岡・北九州ジュニア	平山 優 桜井 温子 宮城・塩竈ジュニア	林 裕佳 脇田 侑 岐阜・川島ジュニア	森 昭子 臼井 裕子 岐阜・大垣安井スポ少	清水 陽子 森 裕美 茨城・石小地区スポ少	阿野 加代子 後藤 佳代 北海道・壮瞥町スポ少
	6年	赤松 郁美 中西 佑季 香川・香川スクール	河原 智美 千田 真実 富山・砺波東部スポ少	佐々木 愛子 桜井 ちひろ 宮城・塩竈ジュニア	楠原 順民 井本 久美子 香川・高松JBS	川原 千佳 山本 祐美子 富山・破波東部スポ少	岩元 悠子 松崎 法子 大阪・瓜破西SSC	赤 恵美 松本 美樹 奈良・大和高田	安藤 千恵美 千葉 仁美 宮城・塩竈ジュニア

第5回東京大会　1996.12.26～27　葛飾区総合スポーツセンター

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	5年	青山 天将 東京・国立ジュニア	早川 賢一 滋賀・坂本スポ少	数野 健太 滋賀・坂本スポ少	黒瀬 尊敬 富山・呈星スポ少	佐々木 広幸 福島・福島ジュニア	田中 陽一 愛知・大府ジュニア	高木 洋平 埼玉・チャレンジャー	遠藤 大由 埼玉・チャレンジャー
	6年	新開 慎士 大阪・瓜破西SSC	土田 匡泰 東京・小平ジュニア	下向 祥悟 大分・別府フレンド	池田 雄一 福岡・岡垣ジュニア	小川 勝弘 富山・婦中ジュニア	秀賀 涼 宮城・仙台東部ジュニア	宮村 政宏 東京・小平ジュニア	辻田 嘉章 滋賀・坂本スポ少
男子複	5年	藤田 真生 刀弥 俊介 東京・小平ジュニア	大野 友和 篠﨑 成志 千葉・千葉クラブ	山本 道雄 長尾 孝哲 石川・相馬クラブ	岡 吉隆 土居 陽介 香川・香川スクール	堀 真人 松本 裕平 岡山・永井BC	加納 翼 高階 知也 北海道・壮瞥少年団	大野 真治 前仏 慶介 北海道・旭川ジュニア	北村 圭佑 森山 敦史 鳥取・美保クラブ
	6年	佐々木 公一 森川 政人 東京・練馬ジュニア	確井 太基 田仁 貴也 北海道・壮瞥町スポ少	中西 亮 藤田 真平 富山・富山羽球クラブ	吉田 康範 多谷 公志 滋賀・坂本スポ少	上原 慎吾 古賀 恭介 佐賀・佐賀ジュニア	安楽 翔一 鮫島 良太 鹿児島・桜ヶ丘東スポ少	太田 翔 吉新 昌弘 栃木・上戸祭スポ少	安田 啓太 出石 哲也 鳥取・美保クラブ
女子単	5年	吉村 征美 熊本・YYC	梅野 有希 福岡・北九州ジュニア	長原 靖子 北海道・旭川ジュニア	小柳 知子 千葉・市原JBC	西村 紗希 石川・金沢ジュニア	中村 百合 滋賀・ベイシックジュニア	宮村 美紀 東京・小平ジュニア	桜井 温子 宮城・塩竈ジュニア
	6年	岩田 新菜 香川・香川スクール	広瀬 栄理紗 兵庫・ひよどりジュニア	武田 千江美 福岡・岡垣ジュニア	佐藤 美沙 宮城・塩竈ジュニア	後藤 舞 岐阜・岐阜東	内山 麻美 北海道・久根別小	中山 奈都幸 石川・金沢ジュニア	杉谷 淳美 静岡・富士宮スポ少
女子複	5年	浅原 さゆり 藤原 三恵 岡山・永井BC	坂本 明子 小野 智子 福岡・岡垣ジュニア	髙橋 怜子 三浦 彩 香川・木太JBC	伊藤 麻衣子 秋本 美樹 富山・砺波北部スポ少	末原 千穂 土居 亜美 大阪・瓜破西SSC	清水 景子 木村 友香梨 茨城・石岡小地区	今井 香莉 関戸 美聡 石川・芦城JCB	藤沢 美佑紀 蔵本 瑠衣子 香川・香川スクール
	6年	岡野 あゆみ 岡本 望良 岡山・永井BC	田崎 真由美 高野 敬子 熊本・小浦田クラブ	相山 紗季江 桔梗 美香 富山・水橋西部スポ少	清水 陽子 森 裕美 茨城・石岡小地区ク	日髙 香菜 古田 景子 奈良・橿原ジュニア	阿野 加代子 後藤 佳代 北海道・壮瞥町少年団	小池 由子 明石 光世 香川・香川スクール	三家 幸菜 冨川 千智 滋賀・坂本スポ少

第6回香川大会　1997.12.26～27　高松市総合体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	5年	早川 賢一 滋賀・坂本スポ少	黄倉 英 栃木・御幸スポ少	山口 俊 石川・下甘田ジュニア	浦窪 文也 奈良・鴻ノ池中央	遠藤 大由 埼玉・チャレンジャー	藤田 真生 東京・小平ジュニア	福田 真也 香川・香川スクール	岩田 翔舞 埼玉・チャレンジャー
	6年	青山 天将 東京・国立ジュニア	数野 健太 滋賀・坂本スポ少	那須 良太 熊本・熊本ジュニア	中尾 祐介 岡山・永井BC	山田 一哉 石川・東浅川少連	大岡 兄昌 福井・足羽ジュニア	那須 良太 熊本・熊本ジュニア	小森 祐輝 富山・鵜坂スポ少
男子複	5年	埒畑 中務 福岡・岡垣ジュニア	増渕 佐藤 栃木・梁瀬スポ少	野村 佐々木 福井・社南スポ少	中西 和樹 山下 包人 富山・富山羽球クラブ	福富 中村 栃木・雀宮南小スポ少	千葉 佐藤 宮城・塩竈ジュニア	高畠 鶴間 北海道・小樽鳥牧小	中園 中嶋 福岡・京都クラブ
	6年	松本 裕平 堀 真人 岡山・永井BC	岡 吉隆 土居 陽介 香川・香川スクール	石橋 吉田 大分・朝日ジュニア	大野 友和 篠﨑 成志 千葉・千葉クラブ	伊原 奥野 富山・富山羽球クラブ	岩本 稲垣 三重・高茶屋	大杉 渡部 北海道・旭川嵐山小	熊田 鳥山 石川・湊ジュニア
女子単	5年	今別府 香里 奈良・大和高田市	垣岩 真未 滋賀・坂本スポ少	渡辺 ちひろ 宮城・塩竈ジュニア	岡野 由有佳 岡山・永井BC	永野 陽子 北海道・札幌藤の沢小	横井 のぞみ 香川・香川スクール	川西 ゆかり 香川・香川スクール	三枝 舞 山梨・勝沼町スポ少
	6年	吉村 征美 熊本・YYC	梅野 有希 福岡・北九州ジュニア	鶴田 愛美 長崎・矢上小	長原 靖子 北海道・旭川ジュニア	臼井 裕子 岐阜・大垣安井	宮村 美紀 東京・小平ジュニア	別所 美穂 三重・楠形	小柳 知子 千葉・市原ジュニア
女子複	5年	白山 白山 長崎・矢上小	山口 田崎 熊本・小田浦小	名越 久野 福岡・北九州ジュニア	太田 髙野 富山・堀川南ジュニア	中山 加隈 奈良・大和高田	松原 五島 岐阜・岐南東	原野 兼市 徳島・赤松スポ少	髙井 工藤 北海道・大同サークル
	6年	桜井 温子 平山 優 宮城・塩竈ジュニア	藤沢 蔵本 香川・香川スクール	前原 髙橋 香川・木太ジュニア	坂本 明子 小野 智子 福岡・岡垣ジュニア	浅原 さゆり 藤原 三恵 岡山・永井BC	武下 椛島 佐賀・佐賀ジュニア	金森 村松 静岡・富士宮	賀集 下村 北海道・十勝池田小

第7回広島大会　1998.12.12～13　広島県立総合体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	5年	佐伯　祐行 岡山・永井BC	伊東　克範 石川・大徳ジュニア	長谷川　聡 新潟・塚山JBC	須賀　亮 北海道・上磯ジュニア	宮村　俊宏 東京・小平ジュニア	本田　純 東京・荒川JB	池沢　佑介 千葉・α岩名ジュニア	門屋　晃貴 栃木・省宮中央小スポ少
	6年	川口　謙太郎 熊本・植柳クラブ	早川　賢一 滋賀・坂本スポ少	山口 石川・志賀ジュニア	黄倉　英 栃木・御幸スポ少	浦窪　文也 奈良・洞ノ池中央	埒畑　陽平 福岡・岡垣ジュニア	田村　潤 岡山・永井BC	川崎　裕司 広島・広島ジュニア
男子複	5年	荒木　雄介 星野　健太朗 富山・上市ジュニア	東山　勇樹 石井　敏之 岡山・永井BC	高島　雅彦 鶴間　拓也 北海道・島牧JBC	宮川　慶七斗 中島　忠昭 神奈川・下麻生BC	髙階 斉藤 北海道・壮瞥少年団	山田　雄一 石川　直樹 東京・シャトラーズ深川	黒須 会澤 栃木・粟瀬小	嶋田　哲也 鹿野　晃良 福井・足羽ジュニア
	6年	野村 佐々木 福井・社南スポ少	中園 船内 福岡・京都クラブ	昌山 船内 香川・木太南スポ少	中西　和樹 山下　包人 富山・富山羽球クラブ	矢倉 森山 鳥取・飛鳥ジュニア	島津 遠藤 新潟・神山スポ少	千葉 佐藤 宮城・塩竈ジュニア	森田 森田 奈良・大和郡山市昭和
女子単	5年	浜中　麻亜子 石川・加賀市ジュニア	川西　ゆかり 香川・香川スクール	興津　田佳 石川・ひまわり	高野　聖子 鹿児島・大明丘スポ少	北川　由香 岡山・豊体協	福森　絵理菜 京都・京都ジュニア	藤井　瑞希 熊本・湯浦小	河端　菜美 北海道・恋南スポ少
	6年	西村　沙希 石川・森本ジュニア	松尾　静香 大阪・瓜破西SSC	岡野　由有佳 岡山・永井クラブ	垣岩　真未 滋賀・坂本スポ少	今別府　香里 奈良・大和高田市	楠井　のぞみ 香川・香川スクール	渡辺　ちひろ 宮城・塩竈ジュニア	白山　愛子 長崎・矢上小
女子複	5年	江渕　愛美 金山　友萌 富山・和合ジュニア	三宅 西山 岡山・永井BC	下崎 谷口 福岡・海老津クラブ	恵良 木本 大阪・瓜破西SSC	矢倉 森山 鳥取・飛鳥ジュニア	島津 遠藤 新潟・神山スポ少	千葉 佐藤 宮城・塩竈ジュニア	森田 森田 奈良・大和郡山市昭和
	6年	白山 佐々木 富山・婦中ジュニア	谷内 工藤 北海道・大同ジュニア	高井 髙野　愛理 富山・堀川南ジュニア	太田　麻衣 安田　晴香 富山・堀川南ジュニア	中田 神原 北海道・島牧JBC	松本 舛田 徳島・平野	原野 兼市 徳島・赤松スポ少	曽田 清水 神奈川・下麻布BC

第8回三重大会　1999.12.25～26　三重県営サンアリーナ

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	5年	佐々木　啓 宮城・塩竈ジュニア	玉井　晴也 福岡・北九州ジュニア	上田　祐馬 東京・小平ジュニア	斉藤　壹太 北海道・壮瞥少年団	川下　剛士 広島・広島ジュニア	埒畑　亮太 福岡・岡垣ジュニア	松川　直弘 福井・勝山ジュニア	岩見　隆広 広島・広島ジュニア
	6年	佐伯　祐行 岡山・永井BC	東山　勇樹 香川・永井BC	岡田　裕之 奈良・桜井クラブ	安東　総兵 石川・大徳ジュニア	林　純司 三重・三重ジュニア	那須賀　亮 北海道・上磯ジュニア	伊東　克範 石川・大徳ジュニア	中嶋　諒太 福岡・京都クラブ
男子複	5年	逢澤　宏亮 中野　良祐 岡山・永井BC	松丸　一輝 田児　賢一 埼玉・太田ジュニア	菅原　毅士 飯田　雄介 大分・東大分ジュニア	瀬川　昌平 高嶋　淳平 富山・上市ジュニア	内田　諒 藤原　人 三重・三重ジュニア	松岡　大生 三好　耕二 香川・香川スクール	松口　和弘 堀内　祐人 埼玉・ビッキーズ	猪本　竜也 田上　圭佑 広島・広島ジュニア
	6年	三宅　達也 石井　敏之 岡山・永井BC	星野　健太朗 荒木　雄介 富山・上市ジュニア	嶋田　哲也 鹿野　晃良 福井・足羽ジュニア	高島　雅彦 鶴間　拓也 北海道・島牧JBC	石川　直樹 山田　雄一 東京・シャトラーズ深川	山口　耕平 羽石　直弥 栃木・上戸祭スポ少	宮川　慶七斗 中島　忠昭 神奈川・下麻生	杉本　祐斗 浜田　悠歩 奈良・橿原ジュニア
女子単	5年	樽野　恵 福岡・北九州ジュニア	藤井　瑞希 熊本・湯浦小学校	小川　貴代 富山・庄南スポ少	藤澤　香織 香川・香川スクール	浦窪　真代 奈良・洞ノ池中央	佐々木　悠乃 富山・婦中ジュニア	井上　莉沙 福岡・岡垣ジュニア	田村　千秋 福岡・椎田西ジュニア
	6年	濱島　未来 愛知・石ケ瀬スポ少	浜中　麻亜子 石川・加賀市JBC	清水　裕子 北海道・札幌手稲ジュニア	斉藤　智子 福井・社南ジュニア	大塚　小真姫 愛媛・中萩JBC	村山　麻希奈 東京・小平ジュニア	川西　ゆかり 香川・香川スクール	長野　亜沙美 香川・香川スクール
女子複	5年	伊牟田　詩織 大谷　瞳 新潟・新潟JBC	西谷　妙子 逸崎　あずさ 奈良・橿原ジュニア	岸本　可奈 木場　万里慧 香川・香川スクール	千崎　美穂 伊藤　小菜美 宮城・仙台東部ジュニア	村山　絵理花 佐藤　若菜 宮城・塩竈ジュニア	三田村　侑美 山口　由香 福井・味真野スポ少	旗生　夕姫 福島　瑞穂 福岡・海老津ジュニア	岡田　友梨 愛媛・東雲スポ少
	6年	江渕　愛美 金山　友萌 富山・和合ジュニア	三宅　司 西山　愛里 岡山・永井BC	渡部　葵 大塚　有加里 岐阜・大垣安井少年団	水口　さゆり 南出　なつき 石川・ひまわり	村松　彩乃 金森　享子 静岡・富士宮スポ少	多田　彩華 岸本　真美 香川・香川スクール	谷口　智美 下崎　彩 福岡・海老津ジュニア	山中　亜理沙 上田　知里 熊本・高田小

第9回埼玉大会　2000.12.09～10　久喜市総合体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	宇野　賢人 滋賀・坂本スポ少	和田　周 埼玉・チャレンジャー	原田　和憲 福岡・北九州ジュニア	宮本　樹希 熊本・北部ジュニア	三浦　健豊 石川・大徳ジュニア	木場　勇介 香川・香川スクール	黒田　匠馬 岐阜・下羽栗スポ少	内藤　浩司 神奈川・串川育成会
	5年	三橋　将希 神奈川・横浜白山	三好　耕二 香川・香川スクール	小泉　秀登 香川・木太ジュニア	中村　雄喜 北海道・札幌大同少年団	水口　裕治 石川・ひまわり	鈴木　陵麻 北海道・岩見沢飛翔会	宮本　大地 福岡・ストリングス	野口　勝利 茨城・阿見スポ少
	6年	佐々木　啓 宮城・塩竈ジュニア	玉井　晴也 福岡・北九州ジュニア	川下　剛史 広島・大野ジュニア	松川　直弘 福井・勝山	近藤　早寿 福岡・海老津ジュニア	太田　圭祐 広島・広島ジュニア	竹内　裕也 新潟・塚山	小林　瑛二郎 東京・国分寺ジュニア
男子複	4年	矢部　拓也 村上　俊 滋賀・坂本スポ少	柿崎　渉 佐久間　浩平 北海道・岩見沢若松小	小川　直人 神内　勇樹 香川・木太南	関　真彦 浦　翔太 石川・Jcat's	諏訪内　翔太 浮須　慎太郎 北海道・上磯ジュニア	栗田　純貫 井上　謙一郎 香川・中央スポ少	平山　涼介 中井　翔太 広島・広島ジュニア	中野　斐 田岡　隼平 三重・有緝スポ少
	5年	田児　賢一 松丸　一輝 埼玉・太田ジュニア	松本　岳 小村　勇太 島根・おろちクラブ	嘉村　健士 円城寺　尚人 佐賀・七山モンキーズ	森本　貴則 森本　智則 鳥取・大栄クラブ	和田　力也 和田　真弥 福岡・北九州ジュニア	吉田　武弘 稲村　聡 群馬・桐生ジュニア	渡辺　礼 佐藤　優彦 群馬・桐生ジュニア	小櫻　寛 深川　直晶 富山・富山羽球
	6年	逢澤　宏亮 中野　良祐 岡山・永井BC	菅原　毅士 飯田　雄介 大分・東大分JBC	内田　諒 山崎　高広 三重・三重ジュニア	竹内　宏徳 竹内　啓哉 福井・勝山	内藤　徳亮 森下　卓哉 群馬・桐生ジュニア	中山　拓哉 中鉢　聖人 北海道・十勝ジュニア	千京　史知 片岸　史治 福井・勝山南部	松本　寛史 川上　佑輔 岡山・永井BC
女子単	4年	北　はるな 奈良・橿原ジュニア	井上　樹理 佐賀・玄海ジュニア	野口　世莉菜 愛知・北山東山ファミリ	橋本　由衣 岩手・ライスヒルズ	松原　怜美 北海道・十勝鈴蘭スポ少	原　香織 東京・小平ジュニア	土屋　美帆 福井・武生西	松友　美佐紀 徳島・藍住エンジェル
	5年	村上　彩 石川・鳴浦ジュニア	井巴　七都希 大分・春日ジュニア	桜井　みどり 石川・大徳ジュニア	笹間　なつき 千葉・柏南部ジュニア	西山　夕美子 東京・小平ジュニア	野尻野　匡世 愛知・はり～あっぷ	粟原　文音 福岡・北九州ジュニア	津村　優衣 大阪・瓜破西SSC
	6年	樽野　恵 福岡・北九州ジュニア	藤井　瑞希 熊本・湯浦小学校	藤澤　香織 香川・香川スクール	大阪　あや 徳島・内町ジュニア	奥　幸那 岐阜・池田少年団	中原　唯衣 群馬・太田ジュニア	佐々木　理恵 北海道・札幌白石ジュニア	北吉　穂香 京都・長岡京ジュニア
女子複	4年	佐々木　彩 東野　良美 大阪・瓜破西SSC	佐藤　詩織 猪股　祥 宮城・木ノ下ジュニア	玉木　絵里子 菅野　友 宮城・塩竈ジュニア	丸山　詩織 林田　夏奈 徳島・赤松スポ少	池田　千恵 東篠　彩香 鹿児島・西田スポ少	坂倉　彩 西　友理 奈良・橿原ジュニア	高野　萌 清水　綾 愛知・石ケ瀬スポ少	今　彩 名須賀　歩 北海道・上磯ジュニア
	5年	西川　真奈美 高橋　礼華 奈良・橿原ジュニア	木村　有花 鈴木　梢 千葉・柏南部ジュニア	裏　晴佳 奥井　智菜美 富山・豊田スポ少	工藤　香織 鵜飼　彩香 宮城・塩竈ジュニア	影山　尚香 松岡　真里枝 広島・広島ジュニア	室達　茜 畑　安沙美 石川・金沢ジュニア	坂中　夢 牧之瀬　みほ 鹿児島・皇徳寺少年団	鶴田　莉江 吉田　実紗 富山・砺波東部スポ少
	6年	伊牟田　詩織 大谷　瞳 新潟・新潟ジュニア	福島　瑞穂 旗生　有姫 福岡・海老津ジュニア	千崎　美穂 伊藤　小菜美 宮城・仙台東部ジュニア	西谷　妙子 逸崎　あずさ 奈良・橿原ジュニア	田崎　亜由美 山口　美穂 熊本・小田浦小	岩崎　千愛 中西　希衣 香川・香川スクール	山口　由香 三田村　侑美 福井・味真野スポ少	藤川　香菜 川田　実依 岡山・永井BC

第10回広島大会　2002.01.04～07　広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	尾野　祐郎 北海道・宮小牧リトル	坂中　賢太 鹿児島・皇徳寺少年団	井上　祐哉 熊本・植柳ジュニア	高地　修史 岡山・モアクラブ	藤巻　嵩寛 長野・大町南小	平井　優也 滋賀・坂本倶楽部	東野　圭悟 大阪・瓜破西SSC	辻　大貴 富山・富山クラブ
	5年	宇野　賢人 滋賀・坂本倶楽部	三浦　健豊 石川・大徳ジュニア	木場　勇介 香川・香川スクール	和田　周 埼玉・チャレンジャー	木戸　道治 宮城・あおばイーグルス	原田　和憲 福岡・北九州ジュニア	宮本　樹希 熊本・北部ジュニア	黒田　匠馬 岐阜・下羽栗スポ少
	6年	小泉　秀登 香川・木太ジュニア	園田　啓悟 熊本・植柳ジュニア	大野　潤也 佐賀・佐賀ジュニア	土居　寛人 香川・中央スポ少	仲井　佑太 鳥取・大栄町育成会	三好　耕二 香川・香川スクール	中山　健太郎 兵庫・SJBC	武下　利一 佐賀・佐賀ジュニア
男子複	4年	星野　翔平 佐伯　優人 富山・上市町ジュニア	権藤　太平 権藤　公平 熊本・八代ジュニア	中井　翔太 平山　涼介 広島・広島ジュニア	妙井　良介 米田　健司 新潟・小須戸町スポ少	福家　雄彦 長谷川　達也 香川・綾南ジュニア	畑本　康貴 小沢　拓 北海道・旭川東光小	下田　祥平 竹原　慧 鹿児島・皇徳寺スポ少	高山　大貴 丸尾　恭輔 大分・三芳ジュニア
	5年	村上　俊 矢部　拓也 滋賀・坂本倶楽部	鈴木　智也 富山　拓哉 栃木・上戸祭スポ少	田岡　隼平 中野　斐 三重・三重ジュニア	関　真彦 浦　翔太 石川・Jcat's	北林　峻 北林　悠 埼玉・川口クラブ	小川　直人 神内　勇樹 香川・木太南スポ少	山口・中山 山口・中山 佐賀・玄海ジュニア	吉岡　直敏 下村　和馬 福岡・岡垣ジュニア
	6年	和田　力也 和田　真弥 福岡・北九州ジュニア	森本　貴則 森本　智則 鳥取・大栄町育成会	嘉村　健士 円城寺　尚人 佐賀・七山モンキーズ	宮野　一樹 北島　翔太 広島・祇園クラブ	小村　勇太 松本　岳 島根・おろちクラブ	濱口　元気 志田　裕一郎 長崎・長与シャトルズ	堀内　祐人 八木　彬人 埼玉・チャレンジャー	太田　誠 青木　智之 富山・豊田スポ少
女子単	4年	松友　美佐紀 徳島・藍住エンジェル	平井　亜紀 香川・香川スクール	小松　千洋 宮城・塩竈ジュニア	三谷　美菜津 石川・OKジュニア	関羽　茜 広島・あかねジュニア	竜田　楓 神奈川・横須賀ジュニア	山中　千里 滋賀・リトルスマッシュ	浦谷　夏来 滋賀・坂本倶楽部
	5年	高橋　礼華 奈良・橿原ジュニア	北　はるな 奈良・橿原ジュニア	石川　ゆい 福岡・椎田クラブ	柚木　杏奈 兵庫・ひよどりジュニア	広畑　里江 岡山・永井BC	柏原　未久 埼玉・越ケ谷ジュニア	野口　世莉菜 愛知・N・B・C	橋本　由衣 岩手・ライスヒルズ
	6年	野尻野　匡世 愛知・はり～あっぷ	村上　彩 石川・鳴浦ジュニア	井巴　七都希 大分・春日ジュニア	垣岩　令佳 滋賀・坂本倶楽部	山口　佳恵 茨城・恋南スポ少	戸田　みよ子 広島・広島ジュニア	西山　夕美子 東京・小平ジュニア	永田　知里 岐阜・笠松スポ少
女子複	4年	山下　香利 森山　晴榛 鹿児島・皇徳寺少年団	水口　愛梨 藤本　佳那 徳島・藍住エンジェル	若松　優子 青木　優子 千葉・柏南部ジュニア	相沢　晴香 山本　希実 広島・祇園クラブ	芝野　広夏 山村　聡美 石川・中央ジュニア	米田　志帆 三住　優華 北海道・旭川東光小	松尾　寛乃 鐙　沙姫 北海道・若松子供会	折鷲　麻衣 末松　美聡 北海道・高砂同好会
	5年	佐々木　彩 東野　良美 大阪・瓜破西SSC	曽野　友 玉木　絵里子 宮城・塩竈ジュニア	高野　萌 清水　綾 愛知・石ケ瀬スポ少	内田　紗恵 清水　亜矢 三重・三重ジュニア	岩永　舞子 園田　ちひろ 鹿児島・皇徳寺スポ少	西　友理 曽田　ひかり 奈良・橿原ジュニア	神田　織恵 横山　祐美子 東京・国分寺ジュニア	福森　弥生 久保　遥 鹿児島・皇徳寺スポ少
	6年	坂中　夢 牧之瀬　みほ 鹿児島・皇徳寺少年団	石井　那実 矢野　智恵美 栃木・上戸祭スポ少	鈴木　禎 木村　有花 千葉・柏南部ジュニア	池田　未紀 安田　晴香 富山・砺波東部スポ少	浅沼　美樹 小泉　さやか 北海道・大川ベアーズ	裏　晴佳 奥井　智菜美 富山・豊田スポ少	松友　仁美 羽里　直緒 徳島・藍住エンジェル	日根野　光恵 徳島・藍住エンジェル

第11回福岡大会　2003.01.04～07　北九州市立総合体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	堀内 研人 埼玉・チャレンジャー	和田 治久 埼玉・チャレンジャー	中村 亮太 滋賀・ベイシックジュニア	竹内 宏気 大阪・柏原ジュニア	竹田 大介 石川・Jcat's	大橋 穣太郎 岐阜・大垣北少年団	島田 大輝 北海道・芽室少年団	山口 凌司 福島・長門石ジュニア
	5年	大滝 直人 大阪・瓜破西SSC	大島 智彦 栃木・雀宮中央	井上 拓哉 熊本・植柳ジュニア	高地 修史 岡山・モアクラブ	尾野 祐郎 北海道・苫小牧リトル	佐久間 浩平 北海道・若松子供会	藤巻 常寛 長野・大町南小	辻 大貴 富山・富山クラブ
	6年	佐藤 黎 宮城・あおばイーグルス	木戸 遼治 宮城・あおばイーグルス	原田 和宏 福岡・北九州ジュニア	宇野 賢人 滋賀・坂本倶楽部	円城寺 尚人 佐賀・七山モンキーズ	和田 周 埼玉・チャレンジャー	末瑪 勇介 香川・香川スクール	三浦 健豊 石川・金沢ジュニア
男子複	4年	藤井 佑介 住友 聡 北海道・SAWAジュニア	山口 勇気 山本 茂人 愛知・石ケ瀬スポ少	浅井 豪太 藤田 康史 愛知・はりーあっぷ	小沢 祐 畑本 康貴 北海道・旭川東光小	田中 遥 山口 貴之 熊本・久多良木小	松尾 龍斗 小坂 一貴 北海道・若松子供会	品川 武紀 清崎 元輝 福岡・甘朝あいしん	鈴木 大貴 広瀬 功樹 福井・フェニックス福井
	5年	星野 翔平 佐伯 優人 富山・上市町ジュニア	中井 翔太 平山 涼介 広島・広島ジュニア	妙井 良介 米田 健司 新潟・小須戸町スポ少	福家 雄彦 長谷川 達也 香川・綾南ジュニア	三浦 貴大 佐藤 一誠 山形・いつきスポ少	塚本 好喜 大塩 俊生 島根・おろちBC	穴見 正隆 蒲原 健太郎 福岡・山家ジュニア	権藤 太平 権藤 公平 熊本・八代ジュニア
	6年	村上 俊 矢部 拓也 滋賀・坂本倶楽部	吉岡 直敏 下村 和馬 福岡・岡垣ジュニア	志田 裕一郎 岩崎 龍馬 長崎・長与シャトルズ	山村 駿介 笹島 勇樹 富山・婦中ジュニア	山口 剛 中山 泰輔 佐賀・玄海ジュニア	茶園 結基 岩崎 正洋 香川・香川スクール	平池 淳希 駒井 亜星 北海道・登浦ファイターズ	鈴木 智也 冨山 拓哉 栃木・上戸祭スポ少
女子単	4年	高橋 沙也加 奈良・橿原ジュニア	浦谷 夏未 滋賀・坂本倶楽部	河村 美咲 山口・下松ジュニア	末松 美聡 北海道・高砂小同好会	中村 梨沙 埼玉・チャレンジャー	下鷹 麻結 大阪・大東ジュニア	大薗 祐佳幸 愛媛・中萩JBC	城口 優里花 愛知・大野スポ少
	5年	松友 美佐紀 徳島・藍住エンジェル	神原 靖奈 徳島・藍住エンジェル	森山 晴穂 鹿児島・皇徳寺スポ少	遠澤 舞 岡山・永井BC	関羽 茜 広島・あかねジュニア	篭田 礒 神奈川・横須賀協会	中野 由美 和歌山・衣奈ジュニア	平井 亜紀 香川・香川スクール
	6年	高橋 礼華 奈良・橿原ジュニア	北 はるな 奈良・橿原ジュニア	井上 樹理 佐賀・玄海ジュニア	土谷 美帆 福井・武生西スポ少	豊田 希美 広島・呉昭和ジュニア	合田 侑希 愛媛・中萩JBC	古田 麻衣子 埼玉・所沢ジュニア	前田 莉沙 岐阜・松枝スポ少
女子複	4年	石崎 智絵理 伊藤 友香 新潟・新潟ジュニア	嶌 歩美 興猶 くるみ 愛知・はりーあっぷ	市丸 美里 上田 ちなつ 佐賀・唐津ジュニア	山谷 めぐみ 小野寺 萌子 北海道・森少年団	牧之瀬 絵里 中村 ゆり絵 鹿児島・皇徳寺スポ少	篠田 未来 柳 有紗 群馬・強戸ジュニア	秋元 直美 原島 幸希 東京・貫梅ジュニア	今野 あゆみ 佐藤 深雪 宮城・あおばイーグルス
	5年	若松 優子 青木 優子 千葉・柏南部ジュニア	山本 希実 山田 真央 広島・広島ジュニア	松尾 廣乃 鎧 沙姫 北海道・若松子供会	伊藤 賢子 村内 美紀 富山・富山クラブ	水口 愛梨 藤本 佳那 徳島・藍住エンジェル	谷口 有沙 稲見 梢 栃木・益子ジュニア	伊藤 友紀 竹内 千晶 福井・勝山ジュニア	山下 杏利 柏木 七 鹿児島・皇徳寺スポ少
	6年	佐々木 彩 東野 良美 大阪・瓜破西SSC	菅野 友 玉木 絵里子 宮城・塩竈ジュニア	岩永 舞子 園田 ちひろ 鹿児島・皇徳寺スポ少	高野 萌 清水 綾 愛知・石ケ瀬スポ少	米元 陽花 米元 小春 広島・あかねジュニア	井筒 恵里子 渡辺 みどり 埼玉・所沢ジュニア	福森 弥生 久保 遥 鹿児島・皇徳寺スポ少	神田 鐘恵 横山 祐美子 東京・国分寺ジュニア

第12回宮城大会　2003.12.20～23　仙台市体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	佐々木 崇 大阪・瓜破西SSC	近藤 祐未 新潟・佐渡オールアタック	豊島 大地 鹿児島・吉野スポ少	島田 航 北海道・札幌遊羽	斉藤 太一 千葉・市川ジュニア	濟崎 元輝 福岡・甘朝クラブ	大森 悠馬 東京・小平ジュニア	新垣 秀治 沖縄・越来ドリームズ
	5年	和田 治久 埼玉・チャレンジャー	堀内 研人 埼玉・チャレンジャー	染木 俊寛 鹿児島・吉野スポ少	竹内 宏気 大阪・瓜破西SSC	美波 直哉 奈良・桜井クラブ	藤田 悠佑 宮城・高鍋ジュニア	島田 大輝 北海道・芽室町少年団	南 淳也 石川・埴浦ジュニア
	6年	大滝 直人 大阪・瓜破西SSC	蓬澤 良亮 岡山・永井BC	井上 拓哉 熊本・植柳小	大島 智彦 栃木・雀宮中央	藤巻 常寛 長野・大町南	尾野 祐郎 北海道・苫小牧リトル	高地 修史 岡山・永井BC	坂中 賢太 鹿児島・皇徳寺スポ少
男子複	4年	松尾 龍斗 小坂 一貴 北海道・若松子供会	中山 祐希 金子 祐樹 埼玉・出羽バドミンタン	三津川 剛史 河崎 駿輔 滋賀・坂本倶楽部	古賀 輝 森田 浩平 福岡・岡垣ジュニア	神田 遼 松居 圭一郎 石川・大徳ジュニア	林 昴宏 間瀬 亮介 愛知・はりーあっぷ	松本佑大 山口 北斗 佐賀・玄海ジュニア	石黒 賢司 森元 大祐 奈良・橿原ジュニア
	5年	山口 勇気 山本 茂人 愛知・石ケ瀬スポ少	藤田 康史 浅井 豪太 愛知・はりーあっぷ	小沢 祐 畑本 康貴 北海道・旭川東光小	藤井 佑介 住友 聡 北海道・SAWAジュニア	名田 康平 佐々木 健斗 大阪・瓜破西SSC	鈴木 大貴 広瀬 功樹 福井・社南ジュニア	竹内 義憲 渡部 茂太 埼玉・チャレンジャー	吉岡 知浩 川上 甚 福岡・岡垣ジュニア
	6年	中井 翔太 平山 涼介 広島・広島ジュニア	中野 大輝 高月 佑人 岡山・永井BC	佐々木 望 高橋 悠 宮城・塩竈ジュニア	浦井 唯行 村瀬 聖 千葉・α野田ジュニア	竹原 慎 満園 智彬 鹿児島・皇徳寺スポ少	日谷 健 小林 翔太郎 福井・フェニックス福井	塚本 好喜 大塩 俊生 島根・おろちクラブ	北谷 祐太 藤谷 和輝 香川・綾南ジュニア
女子単	4年	福永 彩 大分・東大分ジュニア	山家 ゆりか 北海道・若松子供会	高瀬 秀穂 千葉・α野田ジュニア	長野 愛菜 鹿児島・皇徳寺スポ少	遠藤 麻奈美 兵庫・ひよどりジュニア	木村 百花 石川・加賀ジュニア	水野 愛実 岐阜・池田少年団	倉本 実歩 愛媛・大生院JBC
	5年	末松 美聡 北海道・高砂小同好会	木戸 よし美 宮城・あおばイーグルス	高橋 沙也加 奈良・橿原ジュニア	脇野 利奈 鹿児島・皇徳寺スポ少	伊藤 美紗 岩手・都南ジュニア	田中 志穂 熊本・久多良木クラブ	広瀬 優 岐阜・池田少年団	阪口 智郁 大阪・大東ジュニア
	6年	松友 美佐紀 徳島・藍住エンジェル	藤井 珠生 愛知・はりーあっぷ	遠澤 舞 岡山・永井BC	関羽 茜 広島・あかねジュニア	木村 瞳 千葉・柏南部ジュニア	森山 晴穂 鹿児島・皇徳寺スポ少	小松 千洋 宮城・塩竈ジュニア	神原 靖奈 徳島・藍住エンジェル
女子複	4年	三木 江里子 柏原 奈弥 埼玉・出羽バドミンタン	斎藤 優菜 篠谷 菜留 愛知・北山東山ファミリー	長 真由子 河原市 澪 石川・大徳ジュニア	堂山 友里愛 市津 愛理 福岡・岡垣ジュニア	石戸谷 友香 鈴木 杏佳音 北海道・旭川東光小	高松 美穂 法師人 麻里 栃木・益子ジュニア	園安 涼可 山本 桜子 徳島・助任ジュニア	大澤 萌梨 井上 亜沙美 香川・中央スポ少
	5年	市丸 美里 上田 ちなつ 佐賀・唐津ジュニア	中村 ゆり絵 牧之瀬 絵里 鹿児島・皇徳寺スポ少	篠田 未来 安野 仁美 群馬・強戸ジュニア	伊藤 友香 石崎 智絵理 新潟・新潟ジュニア	今野 あゆみ 佐藤 深雪 宮城・あおばイーグルス	小野寺 萌子 山谷 めぐみ 北海道・森少年団	嶌 歩美 興猶 くるみ 愛知・はりーあっぷ	稲葉 まゆ 添崎 真子 兵庫・バルーンジュニア
	6年	山下 杏利 柏木 七 鹿児島・皇徳寺スポ少	若松 優子 青木 優子 千葉・柏南部ジュニア	伊藤 賢子 村内 美紀 冨山・富山クラブ	水口 愛梨 藤本 佳那 徳島・藍住エンジェル	大迫 晴加 田辺 あい 岐阜・安井少年団	足島 千奈美 三納 恵莉佳 石川・OKジュニア	田中 杏奈 土居 未紗 香川・木太ジュニア	谷口 有沙 稲見 梢 栃木・益子ジュニア

第13回愛知大会　2005.01.04～08　名古屋市中村スポーツセンター・東スポーツセンター

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	井上 拓斗 佐賀・玄海ジュニア	藤野 琢人 神奈川・NECジュニア	河崎 駿輔 滋賀・坂本倶楽部	松居 圭一郎 石川・大徳ジュニア	桃田 賢斗 香川・吉津クラブ	三浦 光將 青森・常盤ジュニア	金子 祐樹 埼玉・出羽バドミンタン	福田 卓郎 岡山・永井BC
	5年	佐々木 崇 大阪・瓜破西SSC	豊島 大地 鹿児島・吉野スポ少	大森 悠馬 東京・小平ジュニア	古賀 輝 福岡・岡垣ジュニア	神田 遼 石川・大徳ジュニア	飛高 健太郎 山口・下松ジュニア	森田 浩平 福岡・岡垣ジュニア	近藤 祐未 新潟・佐渡オールアタック
	6年	竹内 宏気 大阪・瓜破西SSC	堀内 研人 埼玉・チャレンジャークラブ	和田 治久 香川・中央スポ少	木村 健太朗 香川・中央スポ少	藤田 康史 愛知・大府ジュニア	南 淳也 石川・埴浦ジュニア	藤田 悠佑 宮崎・高鍋ジュニア	美波 直哉 奈良・桜井クラブ
男子複	4年	貝志堅 興祐 上原 仁維斗 沖縄・西原シャトル	藤 慶行 藤 正博 福岡・香住ケ丘ジュニア	成富 勇太 山崎 諒介 福岡・八幡西ジュニア	小川 光明 増田 康平 東京・練馬ジュニア	牧冨 秀樹 丸山 諒一郎 石川・中央ジュニア	大江 直人 大江 工 香川・香川スクール	浅野 右京 佐藤 満確 北海道・旭川東光小	佐伯 研介 畠中 重義 北海道・朝里JBC
	5年	森元 大祐 石黒 賢司 奈良・橿原ジュニア	林 昴宏 間瀬 亮介 愛知・大府ジュニア	佐々木 健斗 河合 勇飛 大阪・瓜破西SSC	中村 和広 谷本 真人 広島・広島ジュニア	清本 樹 小川 祐輔 北海道・Team OKABE	下河 勇雅 木村 大二朗 香川・中央スポ少	斉藤 太一 佐藤 俊介 千葉・市川ジュニア	渡部 克栄 東 凌輔 愛媛・川内JBC
	6年	藤井 佑介 住友 聡 北海道・SAWAジュニア	大塚 悟司 東久保 貴 福岡・バドキッズ	山口 勇気 山本 茂人 愛知・大府ジュニア	吉岡 知浩 川上 甚 福岡・岡垣ジュニア	竹内 義憲 渡部 茂太 埼玉・チャレンジャー	畑本 康貴 小沢 祐 北海道・旭川東光小	草嶺 逸斗 吉原 康司 北海道・札幌遊羽ジュニア	鈴木 大貴 広瀬 功樹 福井・社南ジュニア
女子単	4年	名田 千晶 大阪・吹田ジュニアコンドル	柏原 奈弥 埼玉・出羽バドミンタン	板垣 春花 新潟・新潟ジュニア	牧野 怜奈 北海道・旭川東光小	柳 郁美 千葉・α野田ジュニア	今林 里沙 鹿児島・伊敷台小	大堀 優 福島・オレンジジュニア	嶌 郁美 愛知・大府ジュニア
	5年	伊藤 里菜 北海道・旭川愛宕東スポ少	福永 彩 大分・東大分JBC	高瀬 秀穂 千葉・α野田ジュニア	村瀬 真祐 福井・武生ジュニア	森山 ゆいか 愛知・大府ジュニア	藤野 未紗子 岐阜・大垣北スポ少	木村 友都 滋賀・坂本倶楽部	飯高 沙彩 埼玉・庄和シャトルズ
	6年	浦谷 夏未 滋賀・坂本倶楽部	田中 志穂 熊本・久多良木小	高橋 沙也加 奈良・橿原ジュニア	河村 美咲 山口・下松ジュニア	城口 優里花 愛知・大野スポ少	古西 佳那子 冨山・上市スクール	中村 梨沙 埼玉・チャレンジャークラブ	末松 美聡 北海道・高砂小
女子複	4年	角田 英里 鳥居 彩乃 千葉・松戸六実ジュニア	林 望美 藤川 美寿季 岐阜・大垣北スポ少	笹川 美彩子 杉本 彩華 鹿児島・皇徳寺スポ少	吉野 里彩 小坂 美怜 冨山・婦中ジュニア	下鍵 広 中村 真瑠美 奈良・橿原ジュニア	渡辺 あかね 六倉 密 埼玉・出羽バドミンタン	原田 なつみ 大幡 晴佳 栃木・益子ジュニア	小川 由香 西川 菜月 愛知・大府ジュニア
	5年	篠谷 菜留 斉藤 優菜 愛知・大府ジュニア	鈴木 萌 川岸 由布子 北海道・旭川北光小	佐藤 加奈 森川 聖良 大分・植田ジュニア	佐々木 優実 千葉 雪乃 北海道・旭川嵐山小	俣野 愛美 菅 由里子 千葉・柏南部ジュニア	園安 涼可 山本 桜子 徳島・助任ジュニア	榎本 優美 石橋 千実美 千葉・松戸六実ジュニア	高松 美穂 法師人 麻里 栃木・益子ジュニア
	6年	篠田 未来 安野 仁美 群馬・強戸ジュニア	市丸 美里 上田 ちなつ 佐賀・唐津ジュニア	嶌 歩美 興猶 くるみ 愛知・大府ジュニア	今野 あゆみ 佐藤 深雪 宮城・あおばイーグルス	平野 華梨 中谷 容子 冨山・富山クラブ	山本 由里耶 荒川 実南 奈良・橿原ジュニア	中村 ゆり絵 牧之瀬 絵里 鹿児島・皇徳寺スポ少	伊藤 友香 石崎 智絵理 新潟・新潟ジュニア

第14回奈良大会　2005.12.22～26　大和郡山市総合公園多目的体育館・奈良市中央体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	木村 大二朗 香川・中央スポ少	古賀 穂 福岡・岡垣ジュニア	山角 太佑 和歌山・高松ジュニア	中里 裕貴 栃木・宇都宮ダッシング	藤 慶行 福岡・SSスポーツ	三島 優 島根・子川クラブ	山村 祐樹 富山・婦中ジュニア	森田 慎司 鳥取・飛鳥クラブ
	5年	金子 祐樹 埼玉・出羽バドミントンクラブ	桃田 賢斗 香川・吉津クラブ	井上 祐斗 佐賀・玄海ジュニア	福田 卓郎 岡山・永井BC	松居 圭一郎 石川・大徳ジュニア	藤野 琢人 神奈川・ジュニアBirds	三浦 光将 青森・常盤ジュニア	河崎 駿輔 滋賀・坂本倶楽部
	6年	大森 悠馬 東京・小平ジュニア	佐々木 崇 大阪・瓜破西SSC	豊島 大地 鹿児島・吉野スポ少	古賀 輝 福岡・岡垣ジュニア	近藤 祐来 新潟・佐渡オールアタック	小坂 一貴 南北海道・若松子供会	中山 祐希 埼玉・出羽バドミントン	櫻井 恵介 茨城・守谷withスポ少
男子複	4年	松本 康平 下農 走 大阪・瓜破西SSC	植木 祐太 手塚 大輔 神奈川・横浜白山スポ少	中島 未公 平井 貴大 富山・婦中ジュニア	上原 正太 西平 賢矢 沖縄・糸満ジュニア	目野 暁大 馬場 湧生 福岡・古賀ジュニア	前田 賢史朗 青山 駿平 福井・足羽ジュニア	上野 貴弘 上山 竜之介 栃木・益子ジュニア	米田 耕司 松本 多聞 千葉・松戸六実ジュニア
	5年	眞志堅 興祐 上原 仁維斗 沖縄・西原シャトル	竹田 直高 藤澤 智司 愛知・ウイスタリア	牧畠 秀樹 丸山 諒一郎 石川・中央ジュニア	浅野 石京 佐藤 満確 北北海道・東光少年団	駒井 砂竜 羅津 勝太 南北海道・豊浦ファイターズ	大屋 幸生 玉城 一星 沖縄・糸満ジュニア	米持 雄貴 山崎 諒介 福岡・八幡西ジュニア	村瀬 夢之介 高野 陽介 愛知・ウイスタリア
	6年	佐々木 健斗 河合 勇飛 大阪・瓜破西SSC	清本 樹 松谷 龍之介 南北海道・TeamOKABE	林 鼎宏 間瀬 飛介 愛知・大府ジュニア	斉藤 太一 佐藤 俊介 千葉・市川ジュニア	濱崎 元輝 森田 浩平 福岡・岡垣ジュニア	森元 大祐 石黒 貴司 奈良・橿原ジュニア	村井 祐朗 甲谷 望 秋田・八郎潟レイク	中村 和広 谷本 真人 広島・広島安佐ジュニア
女子単	4年	加藤 美幸 岡山・TOYO体協BC	岸澤 妃那子 静岡・御殿場ジュニア	松岡 英美 福岡・シャトルハウス	鳴海 愛結果 宮城・塩竈ジュニア	小川 由香 愛知・大府ジュニア	松田 彩 大阪・吹田ジュニアコンドル	山口 茜 福井・勝山南部ジュニア	疋田 真美 奈良・鴻池中央スポ少
	5年	髙居 彩乃 千葉・柏南部ジュニア	柳 郁美 千葉・α野田ジュニア	柏原 奈弥 埼玉・出羽バドミントン	名田 千晶 大阪・吹田ジュニアコンドル	奥原 希望 長野・大町キッズ	牧野 怜奈 北北海道・東光少年団	小見山 彩 岡山・ミッキーズ	今林 里沙 鹿児島・伊敷台小
	6年	髙瀬 秀穂 千葉・α野田ジュニア	伊藤 里菜 北北海道・愛宕東小学校	福永 彩 大分・東大分ジュニア	村瀬 真祐 福井・武生ジュニア	久保 汐莉那 山口・周南ジュニア	川崎 実奈子 奈良・鴻池中央スポ少	木村 友都 滋賀・坂本倶楽部	森山 ゆいか 愛知・大府ジュニア
女子複	4年	西尾 千空 櫻本 絢子 福岡・海老津ジュニア	星 千智 吉森 朱里 石川・松任ジュニア	中西 理緒 中村 恭子 三重・小俣町スポ少	塚本 あゆみ 石澤 未夢 南北海道・大同ジュニア	森 瑞希 山岸 麻生 東京・サザンウイングス	小松田 莉菜 髙田 結衣 岐阜・大垣安井BSS	多田 百花 林 瑞希 香川・花園ジュニア	大野 瞳 西坂 はるな 福岡・満石ジュニア
	5年	渡辺 あかね 六倉 密 埼玉・出羽バドミントン	原田 なつみ 大幡 晴佳 栃木・益子ジュニア	吉野 里彩 小坂 美怜 富山・婦中ジュニア	林 望美 藤川 美寿季 岐阜・大垣北BSS	杉本 彩華 笹川 美彩子 鹿児島・皇徳寺スポ少	大塚 蛍 宮園 このみ 福井・武生ジュニア	我妻 美沙紀 本間 千秋 宮城・塩竈ジュニア	平野 利江子 中西 優子 香川・香川スクール
	6年	堂山 友里愛 藤原 沙也加 福岡・岡垣ジュニア	佐々木 優実 千葉 雪乃 北北海道・嵐山小学校	斉藤 美紀 関根 由美花 埼玉・出羽バドミントン	佐野 百花 山口 ソヨカ 富山・富山和合クラブ	鈴木 萌 川岸 由布子 北北海道・北光少年団	斉藤 優菜 浜島 優美 愛知・大府ジュニア	井上 朋美 山本 麹花 福岡・満石ジュニア	俣野 愛実 菅 由里子 千葉・柏南部ジュニア

第15回大分大会　2007.01.04～08　別府市総合体育館（べっぷアリーナ）

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	玉手 勝輝 宮城・横倉ジュニア	古賀 穂 福岡・岡垣ジュニア	下農 走 大阪・瓜破西SSC	田崎 真吾 栃木・宇都宮ダッシング	中原 祐也 鳥取・箕蚊屋ジュニア	小川 桂汰 静岡・大井川ジュニア	大西 翔太 愛媛・ジュニアスクール松山	常山 幹太 滋賀・草津ジュニア
	5年	松本 康平 大阪・瓜破西SSC	中里 裕貴 栃木・宇都宮ダッシング	木村 大二朗 香川・中央スポ少	小林 優吾 宮城・塩竈ジュニア	藤 慶行 福岡・SSスポーツ	五十嵐 優 山形・鶴岡城北スポ少	西川 裕次郎 滋賀・坂本倶楽部	保末 卓朗 山口・旭ヶ丘JBC
	6年	桃田 賢斗 香川・三豊ジュニア	髙田 晃 群馬・桐生川内ジュニア	井上 祐斗 佐賀・玄海ジュニア	金子 祐樹 埼玉・出羽バドミントン	松居 圭一郎 石川・大徳ジュニア	後藤 圭亮 岐阜・リバース	藤野 琢人 神奈川・ジュニアBirds	河崎 駿輔 滋賀・坂本倶楽部
男子複	4年	塚本 光希 西方 優馬 南北海道・大同ジュニア	笹川 大志 篠原 醐太郎 鹿児島・皇徳寺少年団	佐藤 圭太 山崎 慎也 千葉・α野田ジュニア	米田 耕司 松本 多聞 千葉・松戸六実ジュニア	梅本 隆誠 吉村 徳仁 奈良・橿原ジュニア	岩田 知大 松瀬 隼斗 長野・南木曽ジュニア	酒井 順平 菊池 要助 佐賀・鳥栖ジュニア	竹内 裕哉 西部 凌太 福井・咸新スポ少
	5年	山崎 諒介 成冨 勇太 福岡・八幡西ジュニア	谷口 友章 弓長 英博 富山・上市ジュニア	植木 祐太 手塚 大輔 神奈川・横浜白山スポ少	馬場 湧生 田中 佑弥 福岡・岡垣ジュニア	菊地 燕平 森山 篤 大阪・瓜破西SSC	上原 正太 西平 賢矢 沖縄・糸満ジュニア	宮丸 祐海 西山 貴裕 兵庫・TOMOジュニア	佐藤 宏亮 一瀬 舜 大分・植田ジュニア
	6年	眞志堅 興祐 上原 仁維斗 沖縄・西原シャトル	吉田 尚弥 水間 陽介 南北海道・TeamOkabe	浅野 石京 佐藤 満確 北北海道・東光小	駒井 砂竜 羅津 勝太 南北海道・豊浦ファイターズ	大場 雷 小川 耕汰 静岡・大井川ジュニア	髙木 一 武井 佑希哉 岡山・永井BC	大屋 幸生 玉城 一星 沖縄・糸満ジュニア	細田 慎二 渡部 廉 島根・大東JBC
女子単	4年	山口 茜 福井・勝山南部ジュニア	髙瀬 妃奈子 栃木・宇都宮ダッシング	勝俣 莉里香 静岡・御殿場ジュニア	大堀 彩 福島・GloryClub	荒木 茜羽 埼玉・春日部白翔	中村 幸 北北海道・釧路ジュニア	仲井 由希乃 東京・練馬ジュニア	濱北 もも 大阪・四條畷学園小
	5年	松岡 英美 福岡・北九州スピリッツ	加藤 美幸 岡山・TOYO体協BC	赤沢 夏希 岡山・ミッキーズ	菅田 愛結果 宮城・塩竈ジュニア	松田 彩 大阪・吹田ジュニアコンドル	石田 光枝 千葉・松戸六実ジュニア	芹澤 妃那子 静岡・御殿場ジュニア	小川 由香 愛知・はりーあっぷ
	6年	柏原 奈弥 埼玉・出羽バドミントン	小見山 彩 岡山・ミッキーズ	柳 郁美 千葉・α野田ジュニア	牧野 怜奈 北北海道・旭川OneSide	奥原 希望 長野・大町キッズ	名田 千晶 大阪・吹田ジュニアコンドル	中村 朱里 滋賀・ベイシックジュニア	髙居 彩乃 千葉・柏南部ジュニア
女子複	4年	園田 絵里奈 中村 優里 鹿児島・皇徳寺少年団	長野 来夢 中村 優花 鹿児島・皇徳寺少年団	金城 悠姫 玉城 菜々 沖縄・糸満ジュニア	桶田 彩乃 當山 朝子 埼玉・蓮田サウスシャトラーズ	大槻 由衣 笠間 里咲 宮城・横倉ジュニア	小林 礼佳 山田 真実 広島・フェニックス	山岸 麻生 福本 万結 東京・サザンウイングス	野尻 未優 山腰 留伽 岐阜・高山ジュニア
	5年	西尾 千空 櫻本 絢子 福岡・海老津ジュニア	星 千智 吉森 朱里 石川・松任ジュニア	大野 瞳 西坂 はるな 福岡・満石ジュニア	中西 理緒 中村 恭子 三重・小俣町スポ少	老本 美和子 老本 美奈子 富山・水橋ジュニア	曾根 里紗 足利 倭瑚 宮城・塩竈ジュニア	小松田 莉菜 高田 結衣 岐阜・大垣安井BSS	飯島 真依 中平 瑞希 千葉・柏南部ジュニア
	6年	渡辺 あかね 六倉 密 埼玉・出羽バドミントン	小野寺 玲華 佐藤 千穂 宮城・塩竈ジュニア	原田 なつみ 角田 英里 千葉・松戸六実ジュニア	岡崎 梨紗 秋田 知咲 岡山・ミッキーズ	伊藤 月規 斎田 朱里 熊本・鏡小学校	杉本 彩華 笹川 美彩子 鹿児島・皇徳寺少年団	我妻 美沙紀 本間 千秋 宮城・塩竈ジュニア	小坂 美侑 小坂 里彩 富山・婦中ジュニア

第16回大阪大会　2007.12.22～26　舞洲アリーナ

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	小川 桂汰 静岡・大井川ジュニア	三橋 健也 群馬・前橋東クラブ	安藤 大地 愛知・にこにこ北城	中村 友哉 石川・中央ジュニア	小倉 由嵩 東京・小平ジュニア	小林 大吾 宮城・塩竈ジュニア	渡辺 勇大 東京・小平ジュニア	上原 尚仁 沖縄・糸満ジュニア
	5年	古賀 穂 福岡・岡垣ジュニア	玉手 勝輝 宮城・横倉ジュニア	下農 走 大阪・瓜破西SSC	田崎 真吾 栃木・宇都宮ダッシング	細川 雄司 富山・上市ジュニア	常山 幹太 滋賀・育成ジュニア	近藤 峻矢 愛知・師勝ジュニア	下川 大樹 鹿児島・樋城小学校
	6年	松本 康平 大阪・瓜破西SSC	中里 裕貴 栃木・バンテック	桶川 勇太 茨城・明野ちびバド	五十嵐 優 山形・鶴岡城北スポ少	山角 太佑 和歌山・高松ジュニア	山村 祐樹 富山・婦中ジュニア	馬場 湧生 福岡・岡垣ジュニア	小野寺 祐介 東京・田無マックス
男子複	4年	光畠 理貴 坂牧 大地 北北海道・東光小少年団	渡辺 俊和 岩元 ミライ 東京・青梅ジュニア	田村 幸大 佐藤 楓 東京・田無マックス	中川 寛樹 川原 聡麿 佐賀・川上ジュニア	千葉 一孝 米村 祐 青森・常盤ジュニア	露上 雄一 春成 星哉 宮崎・フレームクラブ	尾崎 公哉 鈴木 駿介 石川・大徳ジュニア	佐藤 侑紀 新田 将大 徳島・藍住エンジェル
	5年	松本 多聞 米田 耕司 千葉・松戸六実ジュニア	西 豊 菅原 栄史 宮城・塩竈ジュニア	塚本 光希 西方 優馬 南北海道・大同ジュニア	山崎 慎也 佐藤 圭太 千葉・α野田ジュニア	酒井 順平 菊地 要助 佐賀・鳥栖ジュニア	竹内 裕哉 西部 凌太 福井・咸新スポ少	伊藤 伸悟 岡田 直樹 鳥取・西郷ジュニア	岩田 知大 松瀬 隼斗 長野・南木曽ジュニア
	6年	谷口 友章 弓長 英博 富山・上市ジュニア	手塚 大輔 植木 祐太 神奈川・横浜白山スポ少	袋井 由樹 堂本 裕人 石川・バドミントンクラブかしま	南京 孝実 辻 直輝 福井・Dream・Jr	関 樹 小松原 竜弥 鳥取・箕蚊屋ジュニア	前田 賢史朗 青山 駿平 福井・足羽ジュニア	原口 祐巳 古川 倫也 熊本・玉東ジュニア	石川 登誠 中山 喬由 南北海道・島牧JBC
女子単	4年	山口 茜 福井・勝山南部ジュニア	上原 和子 沖縄・糸満ジュニア	安田 美空 大阪・シャトルクラブ	志田 千陽 秋田・八郎潟レイクジュニア	樋口 奈津樹 佐賀・玄海ジュニア	山中 菜乃子 香川・香川スクール	山森 真凛 富山・富山和合	吉浦 鈴夏 石川・大徳ジュニア
	5年	大堀 彩 福島・GLORYCLUB	濱北 もも 大阪・四條畷学園小	川島 里羅 埼玉・出羽バドミントン	東野 有紗 南北海道・TeamOKABE	仲井 由希乃 東京・練馬ジュニア	中村 幸 北北海道・釧路ジュニア	堂山 美羽 福岡・岡垣ジュニア	甲斐 妃美子 神奈川・Jr. Birds
	6年	加藤 美幸 岡山・TOYO体協BC	菅田 愛結果 宮城・塩竈ジュニア	石田 光枝 千葉・柏南部ジュニア	松岡 英美 福岡・北九州スピリッツ	塚本 あゆみ 南北海道・大同ジュニア	斉藤 優菜 富山・富山和合	赤沢 夏希 岡山・ミッキーズ	小川 由香 愛知・はりーあっぷ
女子複	4年	石橋 舞 重田 美空 福岡・岡垣ジュニア	引地 由希奈 児玉 実知花 鹿児島・皇徳寺少年団	齋藤 優衣 佐久間 芽依 宮城・横倉ジュニア	小田 菜摘 上杉 夏美 広島・広島安佐ジュニア	中野 三恵子 長江 瑠佳 富山・高岡ジュニア	上村 琴音 重松 花苗 埼玉・チャレンジャー	鈴木 優香 松本 未玖 北北海道・釧路ジュニア	末次 真菜 貴綿 夏実 奈良・橿原ジュニア
	5年	園田 絵里奈 中村 優里 鹿児島・皇徳寺少年団	鈴木 いよ乃 櫻井 沙来 宮城・塩竈ジュニア	大槻 由衣 笠間 里咲 宮城・横倉ジュニア	野尻 未優 山腰 留伽 岐阜・高山ジュニア	久保田 菜南 稲辺 まや 北北海道・東光小少年団	小林 礼佳 山田 真実 広島・フェニックス	桶田 彩乃 當山 朝子 埼玉・蓮田サウスシャトラーズ	長野 来夢 中村 優花 鹿児島・皇徳寺少年団
	6年	西尾 千空 櫻本 絢子 福岡・海老津ジュニア	中村 恭子 中西 理緒 三重・小俣町スポ少	小松田 莉菜 髙田 結衣 岐阜・大垣安井BSS	西坂 はるな 大野 瞳 福岡・満石ジュニア	長嶺 仁美 加藤 智香 埼玉・出羽バドミントン	三津川 有美 山本 瑠香 滋賀・坂本倶楽部	老本 美奈子 老本 美和子 富山・水橋ジュニア	木戸地 梨奈 南 麻乃 和歌山・新宮少年団

第17回島根大会　2009.01.03～07　島根県立浜山公園体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	山下 恭平 岡山・PEACEジュニア	山澤 直貴 大阪・AJBC	川原 聡麿 佐賀・川上ジュニア	佐藤 雄輝 宮城・あおばイーグルス	本田 大樹 京都・ビスコムジュニア	川波 篤史 香川・木太ジュニア	森永 雅弘 山口・光ジュニア	山元 祐麿 鹿児島・田崎少年団
	5年	三橋 健也 群馬・前橋東クラブ	小林 大吾 宮城・塩竈ジュニア	小倉 由嵩 東京・小平ジュニア	小川 桂汰 静岡・大井川ジュニア	上原 尚仁 沖縄・糸満ジュニア	中村 友哉 石川・中央ジュニア	広瀬 有規 福井・安永スクール	渡辺 勇大 東京・小平ジュニア
	6年	古賀 穂 福岡・岡垣ジュニア	玉手 勝輝 宮城・横倉ジュニア	常山 幹太 滋賀・育成ジュニア	下麗 走 大阪・瓜破西SSC	西村 運也 新潟・五泉バンビーノ	近藤 峻矢 愛知・師勝ジュニア	西 豊 宮城・塩竈ジュニア	下川 大樹 鹿児島・榕城小学校
男子複	4年	岡本 優幹 佐藤 晴彦 香川・香川スクール	久場 圭祐 河野 敦紘 福岡・岡垣ジュニア	新里 智司 田場 盛吾 沖縄・糸満ジュニア	岡田 竜征 伏見 勇真 石川・中央ジュニア	上田 竜也 福嶋 壮太 埼玉・所沢ジュニア	小野寺 泰雅 山下 瑠紀哉 北北海道・高台少年団	大那 慎 小林 隆作 新潟・白根エンゼルス	富井 俊輝 林 貴光 福井・EAST-KIDS
	5年	光島 理貴 坂牧 大地 北北海道・東光小少年団	千葉 一孝 米村 祐 青森・常盤ジュニア	鷲上 雄一 春成 星哉 宮崎・フレームクラブ	葛葉 朋彦 谷口 雄祐 福井・EAST-KIDS	相馬 匠 大沼 琢弥 山形・山口スポ少	後藤 亮貴 小高 一純 埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	尾崎 公哉 鈴木 駿介 石川・大徳ジュニア	中川 賢樹 野田 悠斗 佐賀・川上ジュニア
	6年	小森園 隆平 山下 京 宮崎・西池ジュニア	服部 秀治 近藤 隼人 福井・足羽ジュニア	山本 航輝 佐藤 康平 島根・おろちクラブ	嶋 崇志 西嶋 眞太郎 石川・金沢鴎浦Wings	牛尾 祐貴 中山 大輔 兵庫・NAKAOジュニア	中嶋 信太朗 中島 健汰 南北海道・SAWAジュニア	浅尾 峰作 峯 幸佑 熊本・南阿蘇ジュニア	笹川 大志 篠原 醐太郎 鹿児島・皇徳寺スポ少
女子単	4年	仁平 菜月 茨城・恋南少年団	谷水 亜里紗 三重・小俣町スポ少	舟橋 佳歩 北北海道・忠和クラブ	吾妻 咲弥 埼玉・チャレンジャー	喜岡 奈美 香川・花園ジュニア	青山 菜子 岡山・ミッキーズ	川島 美南 埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	和田 毬代 奈良・WhiteRabbit
	5年	山口 茜 福井・勝山南部ジュニア	斉藤 ひかり 南北海道・SAWAジュニア	志田 千陽 秋田・八郎潟レイクジュニア	齋藤 栞 埼玉・ 鳩ヶ谷ウイングス	川上 紗恵奈 京都・長岡京市スポ少	安田 美空 大阪・吹田ジュニアコンドル	山中 菜乃子 香川・香川スクール	上原 和子 沖縄・糸満ジュニア
	6年	仲井 由希乃 東京・練馬ジュニア	大堀 彩 福島・GLORYCLUB	荒木 茜羽 埼玉・春日部白翔	川島 里羅 埼玉・チャレンジャー	中村 幸 北北海道・銅路ジュニア	甲斐 妃美子 神奈川・Jr. Birds	濱北 もも 大阪・四條畷学園小	東野 有紗 南北海道・TeamOKABE
女子複	4年	小田 菜摘 上杉 夏美 広島・広島安佐ジュニア	花田 麻由 片桐 麻友花 南北海道・若松子供会	大家 夏稀 婁山 綾乃 石川・OKジュニア	乾 英奈 二村 ひとみ 神奈川・横浜白山スポ少	川上 めぐ 米田 愛弥 奈良・橿原ジュニア	野島 心 森川 紗彩華 岡山・PEACEジュニア	大槻 紗希 沼倉 樹奈 宮城・横倉ジュニア	足利 祐稀乃 鈴木 ゆうき 宮城・塩竈ジュニア
	5年	石橋 舞 重田 美空 福岡・岡垣ジュニア	齋藤 優香 佐久間 芽依 宮城・横倉ジュニア	鈴木 優香 松本 未玖 北北海道・銅路ジュニア	引地 由希奈 児玉 実知花 鹿児島・皇徳寺スポ少	高島 亜美 林 茉里奈 香川・中央スポ少	金子 茉鈴 志波 綾香 佐賀・川上ジュニア	重松 花苗 上村 琴音 埼玉・チャレンジャー	石橋 麻美子 木曽 七海 千葉・鎌ヶ谷ジュニア
	6年	中野 愛美 若林 杏佳 福岡・海老津ジュニア	大槻 由衣 笠間 里咲 宮城・横倉ジュニア	西村 愛里 梶内 彩理 香川・香川スクール	小林 礼佳 山田 真実 広島・フェニックス	茂野 みゆき 手塚 蘭 群馬・藪塚ジュニア	尾崎 沙織 桑谷 百香 埼玉・蓮田サウスシャトラーズ	桶田 彩乃 富山 朝子 埼玉・蓮田サウスシャトラーズ	大畑 愛 中村 伽菜 静岡・羽球大井川友の会

第18回千葉大会　2009.12.26～28　千葉ポートアリーナ

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	高上 顗龍 福島・GPWジュニア	吉田 昇永 千葉・市原ジュニア	山田 尚輝 東京・小平ジュニア	小本 大佑 熊本・北部ジュニア	鈴木 雄治 栃木・御幸小	友金 利玖斗 兵庫・TOMOジュニア	森田 新太郎 宮崎・西池ジュニア	齊藤 巧 富山・滑川ジュニア
	5年	山澤 直貴 大阪・瓜破西SSC	山下 恭平 岡山・PEACEジュニア	川原 聡麿 佐賀・川上ジュニア	佐藤 雄輝 宮城・あおばイーグルス	中川 正麻 愛媛・ジュニアスクール松山	吉岡 光一 香川・香川スクール	川波 篤史 香川・木太ジュニア	本田 大樹 京都・ビスコムジュニア
	6年	三橋 健也 群馬・前橋東クラブ	小倉 由嵩 東京・小平ジュニア	小川 桂汰 静岡・大井川ジュニア	渡辺 勇大 東京・小平ジュニア	広瀬 有規 福井・安永スクール	中村 友哉 石川・中央ジュニア	藤田 将徳 福岡・山家ウイングス	小林 大吾 宮城・塩竈ジュニア
男子複	4年	山内 恭弥 奈良岡 功大 青森・浪岡ジュニア	家藤多 慶太 露原 哲平 兵庫・ぐるぐるパンチ	佐野 大地 妹尾 陸史 島根・おろちクラブ	石橋 陸 田島 醍哉 福岡・岡垣ジュニア	上田 竜也 福嶋 壮太 埼玉・所沢ジュニア	渡辺 大祐 近藤 直希 山形・米沢南部JBC	川本 虎之介 岡崎 凜太郎 大阪・瓜破西SSC	田中 啓一朗 安部 颯人 神奈川・横浜白山スポ少
	5年	岡本 優幹 佐藤 晴彦 香川・香川スクール	岡田 竜征 伏見 勇真 石川・中央スポ少	井上 健太 樋口 知成 岡山・PEACEジュニア	久場 圭祐 河野 敦紘 福岡・岡垣ジュニア	大滝 聖矢 宇高 友輔 南北海道・刈田ジュニア	大那 慎 小林 隆作 新潟・白根エンゼルス	新里 智司 田場 盛吾 沖縄・糸満ジュニア	堂本 侑也 土平 孟 石川・クラブかしま
	6年	光島 理貴 坂牧 大地 北北海道・東光小少年団	興石 悠 古屋 樹 山梨・勝沼ジュニア	相馬 匠 大沼 琢弥 山形・山口スポ少	後藤 亮貴 小高 一純 埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	渡辺 俊和 岩元 ミライ 東京・青梅ジュニア	中川 賢樹 野田 悠斗 佐賀・川上ジュニア	葛葉 朋彦 谷口 雄祐 福井・大野ジュニア	鷲上 雄一 春成 星哉 宮崎・フレームクラブ
女子単	4年	平野 紗妃 香川・飯野スポ少	由良 なぎさ 群馬・強戸ジュニア	鈴木 ゆうき 宮城・塩竈ジュニア	永井 瀬羽 新潟・小野Jr	森本 暁音 熊本・久多良木BC	小西 春七 香川・飯野スポ少	川村 芽生奈 群馬・大泉ジュニア	杉原 早紀 広島・フェニックス
	5年	仁平 菜月 茨城・恋南少年団	川島 美南 埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	吾妻 咲弥 埼玉・チャレンジャー	舟橋 佳歩 北北海道・忠和クラブ	岡部 天 千葉・α野田ジュニア	古賀 菜々子 佐賀・佐賀サンライズ	藤井 春那 北北海道・高台少	松山 奈未 福岡・岡垣ジュニア
	6年	山口 茜 福井・勝山南部ジュニア	川上 紗恵奈 京都・長岡京市スポ少	齋藤 栞 埼玉・ 鳩ヶ谷ウイングス	安田 美空 大阪・瓜破西SSC	田島 優乃華 福岡・岡垣ジュニア	上原 和子 沖縄・糸満ジュニア	吉浦 錦夏 石川・大徳ジュニア	小林 愛佳 福井・安永スクール
女子複	4年	古川 恵 髙橋 綾貴 兵庫・西神ジュニア	吉川 真白 橋本 颯希 香川・香川スクール	木村 茉梨奈 中村 風月 福井・勝山ジュニア	小泉 愛奈 山崎 杏菜 島根・おろちクラブ	秋元 未幸 大野 真美 東京・青梅ジュニア	内山 実久 村端 菜央 福井・EAST-KIDS	髙橋 佑妃 松島 悠希 福岡・北九州スピリッツ	韮澤 美羽 石田 有彩 新潟・小野Jr
	5年	小田 菜摘 上杉 夏美 広島・広島安佐ジュニア	乾 英奈 二村 ひとみ 神奈川・NP神奈川	川上 めぐ 米田 愛弥 奈良・橿原ジュニア	坂野 泰恵 縄田 佳子 広島・フェニックス	大林 智代 渕上 泰良 福岡・北九州ジュニア	徳能 あすか 繁田 みほ 宮城・仙台大和ジュニア	志波 寿奈 村岡 彩香 佐賀・川上ジュニア	漆原 三姫 田中 ちひろ 香川・香川スクール
	6年	石橋 麻美子 木曽 七海 千葉・鎌ヶ谷ジュニア	重田 美空 石橋 舞 福岡・岡垣ジュニア	上村 琴音 重松 花苗 埼玉・チャレンジャー	金子 茉鈴 志波 綾香 佐賀・川上ジュニア	引地 由希奈 落司 実瑠 鹿児島・皇徳寺少	池内 萌絵 山本 海帆 島根・おろちクラブ	清田 琴乃 藤本 楓香 熊本・玉東ジュニア	林 茉里奈 髙島 亜美 香川・中央スポ少

第19回愛媛大会　2010.12.24～28　愛媛県武道館・松山市総合コミュニティセンター体育館

種目		優勝	準優勝	3位		5位			
男子単	4年	蝦夷森 駿 北北海道・忠和クラブ	奈良岡 功大 青森・浪岡ジュニア	緑川 大輝 埼玉・所沢ジュニア	川原 怜也 佐賀・川上ジュニア	髙木 凱登 熊本・玉東ジュニア	河村 翼 大阪・南郷キュービット	層口 祐弥 福井・金井学園	加藤 太基 南北海道・豊浦ファイターズ
	5年	吉田 昇永 千葉・市原ジュニア	鈴木 雄治 栃木・御幸小	友金 利玖斗 兵庫・TOMOジュニア	髙上 顗龍 福島・GPWジュニア	筑後 恵太 岩手・湯本クラブ	小本 大佑 熊本・北部ジュニア	山田 尚輝 東京・小平ジュニア	齊藤 巧 富山・滑川ジュニア
	6年	山澤 直貴 大阪・瓜破西SSC	山元 祐麿 鹿児島・田崎スポ少	佐藤 雄輝 宮城・あおばイーグルス	山下 恭平 岡山・PEACEジュニア	仁平 滉也 福嶋・白河シャトル	川原 聡麿 佐賀・川上ジュニア	渡邉 航貴 埼玉・出羽バドミントン	吉岡 光一 香川・香川スクール
男子複	4年	岡田 侑生 伏見 和真 香川・中央スポ少	柏原 迅 曽根原 唱 長野・チームNABA	鈴木 翔馬 松本 哲弥 埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	西林 政樹 島田 淳生 奈良・橿原ジュニア	武井 優太 松永 那津央 東京・青梅ジュニア	黒川 秀平 鎌田 雄太 愛媛・ジュニアスクール松山	齋藤 晃輝 伴野 匠 宮城・横倉ジュニア	佐藤 幹紀 捻原 将太 香川・香川スクール
	5年	山内 恭弥 有馬 尭嗣 青森・浪岡ジュニア	上田 竜也 福嶋 壮太 埼玉・所沢ジュニア	家藤多 慶太 露原 哲平 兵庫・ぐるぐるパンチ	古賀 健太郎 荒谷 亮 佐賀・多久スポーツピア	川本 虎之介 岡崎 凜太郎 大阪・瓜破西SSC	南茂 蓮太 斉藤 楓 福井・勝山南部ジュニア	柴田 陽登 田口 陽征 東京・小平ジュニア	田島 醍哉 伊藤 良樹 福岡・岡垣ジュニア
	6年	岡本 優幹 佐藤 晴彦 香川・香川スクール	岡田 竜征 伏見 勇真 石川・中央スポ少	久場 圭祐 河野 敦紘 福岡・岡垣ジュニア	井上 健太 樋口 知成 岡山・PEACEジュニア	宮城 更応 田中 貫大 鳥取・米里ジュニア	新里 智司 田場 盛吾 沖縄・糸満ジュニア	長谷川 貴士 中野 崇人 福井・勝山南部ジュニア	大那 慎 小林 隆作 新潟・白根エンゼルス
女子単	4年	水井 ひらり 奈良・WhiteRabbit	小西 春七 香川・飯野スポ少	吉川 真白 香川・香川スクール	吉田 瑠実 栃木・小山ジュニア	西村 彩花 熊本・八代ジュニア	髙橋 未羽 埼玉・所沢ジュニア	五十嵐 温 新潟・白根エンゼルス	若山 愛依 滋賀・坂本倶楽部
	5年	髙橋 明日香 栃木・足利ジュニア	平野 紗妃 香川・飯野スポ少	由良 なぎさ 群馬・強戸ジュニア	永井 瀬羽 新潟・小野Jr	杉原 早紀 広島・フェニックス	岩永 鈴 山口・柳井JBC	小野 美来 大阪・瓜破西SSC	森本 暁音 熊本・久多良木BC
	6年	仁平 菜月 茨城・恋南少年団	川島 美南 埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	中島 朱音 福井・安永スクール	吾妻 咲弥 埼玉・チャレンジャー	松山 奈未 福岡・岡垣ジュニア	藤井 春那 北北海道・高台少	曽根 夏姫 青森・七戸ジュニア	大家 夏稀 石川・OKジュニア
女子複	4年	韮澤 美羽 石田 有彩 新潟・小野Jr	曽根 結子 福本 真恵七 大阪・瓜破西SSC	江里口 梨奈 田中 果帆 佐賀・多久スポーツピア	海老原 香澄 土屋 芽依美 栃木・小山ジュニア	幸 凪紗 福崎 咲記子 大分・上人ジュニア	光岡 涼風 村岡 遥 佐賀・川上ジュニア	佐藤 灯 鈴木 陽向 埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	今滝 空 今滝 彩羽 岡山・レインボー☆119
	5年	木村 茉梨奈 中村 風月 福井・勝山ジュニア	髙橋 佑妃 松島 悠希 福岡・北九州スピリッツ	石村 亜美 山口 貴子 熊本・久多良木BC	佐久間 璃子 塩飽 真夕 愛知・北山・東山ファミリー	林 巣 平田 燈 東京・練馬ジュニア	吉田 実央 須田 琹菜 群馬・桐生川内ジュニア	光川 瑠乃 伊藤 遥 北北海道・芽室町少年団	井上 未鈴 山本 一葉 福岡・須恵ジュニア
	6年	小田 菜摘 上杉 夏美 広島・広島安佐ジュニア	川上 めぐ 米田 愛弥 奈良・橿原ジュニア	谷水 亜里紗 関矢 夕芽 三重・小俣町スポ少	可野 安純 宮田 弥杏 大阪・四條畷学園小	足利 祐稀乃 保原 彩夏 宮城・塩竈ジュニア	志波 寿奈 村岡 彩香 佐賀・川上ジュニア	池澤 みずほ 鈴木 成美 埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	目崎 澪 栃木 ゆき乃 新潟・小野Jrクラブ

ＡＢＣバドミントン大会

第1回　栃木大会　2000. 8. 26～27

栃木県体育館・宇都宮市体育館・宇都宮市清原体育館・栃木県トレーニングセンター

		優　勝	準優勝	第三位		第五位			
	男	玉井 皓也	佐々木 啓	斉藤 章太	川下 剛士	三橋 将希	小嶋 謙一	逢澤 宏亮	松川 直弘
A		福岡・北九州ジュニア	宮城・塩竈ジュニア	北海道・北野少年団	広島・広島ジュニア	神奈川・横浜白山	岐阜・静里少年団	岡山・永井BC	福井・勝山ジュニア
	子	6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年	6年
5・6年	女	樽野 恵	奥　幸那	北吉 穂香	藤澤 香織	大場　素	小川 貴代	佐々木 理恵	大阪 あや
		福岡・北九州ジュニア	岐阜・池田少年団	京都・長岡京ジュニア	香川・香川スクール	宮城・木ノ下ジュニア	富山・庄南スポ少	北海道・札幌白石ジュニア	徳島・内町ジュニア
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
	男	原田 和憲	宮本 樹希	和田 周	円城寺 尚人	徳田 允	木戸 道治	柿崎　渉	鍋田 駿
B		福岡・北九州ジュニア	熊本・北部ジュニア	埼玉・チャレンジャー	佐賀・七山モンキーズ	石川・徳田	宮城・あおばイーグルス	北海道・岩見沢若松小	富山・鍋田
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
3・4年	女	高橋 礼華	石川 ゆい	橋本 由衣	土谷 美帆	猪股 祥	東野 良美	野口 世莉菜	松友 美佐紀
		奈良・橿原ジュニア	福岡・椎田クラブ	岩手・ライスヒルズジュニア	福井・武生西	宮城・木ノ下ジュニア	大阪・瓜破西SSC	愛知・北山東山ファミリ	徳島・藍住エンジェル
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	3年
	男	和田 治久	大橋 擁太郎	勝俣 政季	上野 浩平	住友 聡	島田 大輝	丹波 優介	山口 凌司
C		埼玉・チャレンジャー	岐阜・大垣北少年団	静岡・御殿場ジュニア	栃木	北海道・小樽SAWAジュニア	秋田	群馬	福岡・長門石ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
1・2年	女	大條 祐佳希	高橋沙也加	砂川 侑里美	漆崎 真子	和島 恵愛	中井川 夏美	清水 麻穂	伊藤 友香
		愛媛・中萩JBC	奈良・橿原ジュニア	沖縄	兵庫・バルーンジュニア	岩手	東京・練馬ジュニア	三重	新潟・新潟ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第2回　埼玉大会　2001. 8. 25～26

久喜市総合体育館・久喜市勤労者体育館・アスカル幸手

		優　勝	準優勝	第三位		第五位			
	男	三橋 将希	武下 利一	三好 耕二	田児 賢一	宇田 淳一	和田 力也	中山健太郎	岩見 隆広
A		神奈川・横浜白山	佐賀・佐賀ジュニア	香川・香川スクール	埼玉・太田ジュニア	大阪・瓜破西SSC	福岡・北九州ジュニア	兵庫・SJBC	広島・広島ジュニア
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
5・6年	女	野尻野 匡世	栗原 文音	垣岩 令佳	西山 夕美子	升巴 七都希	村上 彩	土井 杏奈	笹間 なつき
		愛知・はり一あっぷ	福岡・北九州ジュニア	滋賀・坂本倶楽部	東京・小平ジュニア	大分・春日ジュニア	石川・崎浦ジュニア	大阪・大東ジュニア	千葉・柏南部ジュニア
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
	男	高地 修史	井上 拓哉	尾野 拓郎	星野 翔平	平野 裕隆	佐久間 浩平	伊藤 朋大	高岡 透平
B		岡山・モアクラブ	熊本・植柳ジュニア	北海道・苫小牧リトル	富山・上市町ジュニア	香川・香川スクール	北海道・若松小	新潟・白根エンゼルス	東京・シャトラーズ深川
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
3・4年	女	松友 美佐紀	三谷 美菜津	亀田 楓	小松 千洋	平井 亜紀	上村 麻衣	大崎 華	浦谷 夏未
		徳島・藍住エンジェル	石川・OKジュニア	神奈川・横須賀ジュニア	宮城・塩竈ジュニア	香川・香川スクール	沖縄・城西小	北海道・東光ジュニア	滋賀・坂本倶楽部
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	3年
	男	佐々木 崇	松尾 龍斗	新垣 秀治	近藤 拓未	小玉 泰之	豊島 大地	沢田 悟	谷村 高宏
C		大阪・瓜破西SSC	北海道・若松子供会	沖縄・越来ドリームズ	新潟・佐渡オールアタック	群馬	鹿児島・吉野スポ少	兵庫・ひよどりジュニア	広島・広島ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
1・2年	女	遠藤 麻奈美	倉本 実歩	高瀬 秀穂	川崎 実奈子	山家 ゆりか	西澤 美冴	桂巻 久美乃	齋藤 えりか
		兵庫・ひよどりジュニア	愛媛・大生院JBC	千葉・α野田ジュニア	奈良・鴻池中央スポ少	北海道・若松子供会	北海道・島牧JBC	静岡	神奈川・横浜白山
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第3回　香川大会　2002. 8. 23～25

高松市総合体育館・香川町総合体育館

		優　勝	準優勝	第三位		第五位			
	男	和田 周	木場 勇介	宇野 賢人	三浦 健豊	佐藤 黎	千京 尚将	宮本 樹希	円城寺 尚人
A		埼玉・チャレンジャークラブ	香川・香川スクール	滋賀・坂本倶楽部	石川・金沢ジュニア	宮城・あおばイーグルス	6年/福井県	6年/熊本県	佐賀・七山モンキーズ
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
5・6年	女	高橋 礼華	石川 ゆい	土谷 美帆	柏原 未久	松原 怜美	松友 美佐紀	原 香織	坂井 莉野
		奈良・橿原ジュニア	福岡・椎田クラブ	福井・武生西	埼玉・出羽バドミントン	北海道・士別錦湖少年団	徳島・藍住エンジェル	東京・小平ジュニア	北海道・函館こわら少年団
	子	6年	6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年
	男	堀内 研人	藤田 康史	山口 凌司	竹内 宏気	新垣 秀治	西条 賢也	大角 哲也	竹田 大介
B		埼玉・チャレンジャー	愛知・はり一あっぷ	福岡・長門石ジュニア	大阪・柏原ジュニア	沖縄・越来ドリームズ	北海道・帯広ジュニア	愛媛	石川・Jcat's
	子	4年	4年	4年	4年	3年	4年	4年	4年
3・4年	女	浦谷 夏未	田中 志穂	高橋 沙也加	河村 美咲	下農 麻結	伊藤 友香	和島 恵愛	玄行 由未
		滋賀・坂本倶楽部	熊本・久多良木小学校	奈良・橿原ジュニア	山口・下松ジュニア	大阪・大東ジュニア	新潟・新潟ジュニア	宮城・塩竈ジュニア	島根・おろちクラブ
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
	男	井上 拓斗	金子 祐樹	斉藤 大輝	伊澤 侑馬	松居 圭一郎	三津川 剛史	木村 大二朗	細田 慎二
C		佐賀・玄海ジュニア	埼玉・出羽バドミントンクラブ	北海道・滝川フルール	北海道・小樽SAWA	石川・大徳ジュニア	滋賀・坂本倶楽部	香川・中央スポ少	島根・大東JBC
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	1年	2年
1・2年	女	柏原 奈弥	今林 里沙	名田 千晶	上野 亜実	谷口 静香	岡　佳恵	西村　結	柳　郁美
		埼玉・出羽バドミントンクラブ	鹿児島・伊敷台小	大阪・吹田コンドル	岐阜・池田SSC	富山・富山クラブ	香川・香川スクール	北海道・小樽SAWA	千葉・α野田ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第4回　石川大会　2003. 8. 22～24

美川町総合スポーツセンター・美川町民体育館・湊リフレッシュセンター

		優　勝	準 優 勝	第 三 位		第 五 位			
A	男	星野　翔平	尾野　拓郎	東野　圭悟	大滝　直人	大島　智彦	藤巻　嵩寛	飯島　冬嬉	堀内　研人
	子	富山・南加積小	北海道・苫小牧リトル	大阪・瓜破西SSC	大阪・瓜破西SSC	栃木・雀宮中央	長野・大町南	茨城・東少年スポ少	埼玉・チャレンジャー
5・6年		6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	5年
	女	松友　美佐紀	神原　靖奈	三谷　美菜津	森山　晴捺	浦谷　夏未	野原　麻未	谷口　有沙	亀田　楓
	子	徳島・藍住エンジェル	徳島・藍住エンジェル	石川・OKジュニア	鹿児島・皇徳寺スポ少	滋賀・坂本倶楽部	岐阜・池田町スポ少	栃木・益子ジュニア	神奈川・横須賀ジュニア
		6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年	6年
B	男	佐々木　崇	金子　祐樹	島田　航	現王園　琢磨	沢田　悟	豊島　大地	近藤　拓未	渡部　克栄
	子	大阪・瓜破西SSC	埼玉・出羽バドミンタン	北海道・札幌道羽ジュニア	千葉・α野田ジュニア	兵庫・ひよどりジュニア	鹿児島・吉野スポ少	新潟・佐渡オールアタック	愛媛
3・4年		4年	3年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
	女	遠藤　麻奈美	木村　百花	川崎　実奈子	石橋　みどり	高瀬　秀穂	水野　愛実	長野　愛菜	柏原　奈弥
	子	兵庫・ひよどりジュニア	石川・加賀ジュニア	奈良・鴻池中央スポ少	東京・練馬ジュニア	千葉・α野田ジュニア	岐阜・池田町スポ少	鹿児島・皇徳寺スポ少	埼玉・出羽バドミンタン
		4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	3年
C	男	山村　裕樹	木村　大二朗	西川　裕次郎	成富　勇太	五十嵐　優	清水　智彦	和田　征大	玉手　勝輝
	子	富山・婦中ジュニア	香川・中央スポ少	滋賀・坂本倶楽部	福岡・八幡西ジュニア	山形・鶴岡城北スポ少	京都・舞鶴ジュニア	埼玉・チャレンジャー	宮城・横倉ジュニア
		2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	1年
1・2年	女	桜本　絢子	星　千智	芹澤　妃那子	石田　光枝	武田　紗貴	望月　菜生	吉森　朱里	寺田　桃香
	子	福岡・海老津ジュニア	石川・松任ジュニア	静岡・御殿場ジュニア	千葉・柏南部ジュニア	東京・シャトラーズ深川	兵庫TOMOジュニア	石川・松任ジュニア	広島・広島安佐ジュニア
		2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第5回　岐阜大会　2004. 8. 20～22

岐阜メモリアルセンター　で愛ドーム・ふれ愛ドーム

		優　勝	準 優 勝	第 三 位		第 五 位			
A	男	竹内　宏気	山口　容正	和田　治久	堀内　研人	美波　直岐	藤田　康史	中村　亮太	植田　真生
	子	大阪・瓜破西SSC	富山・富山和合ジュニア	埼玉・チャレンジャー	埼玉・チャレンジャー	奈良・桜井クラブ	愛知・はり一あっぷ	滋賀・ベイシックジュニア	広島・長浜ジュニア
5・6年		6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
	女	高橋　沙也加	田中　志穂	脇野　利奈	末松　美聡	河村　美咲	中井川　夏美	伊藤　友香	坂口　智郁
	子	奈良・橿原ジュニア	熊本・久多良木小	鹿児島	南北海道・高砂小	山口・下松ジュニア	東京・練馬ジュニア	新潟・新潟ジュニア	大阪・大東ジュニア
		6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
B	男	金子　祐樹	三津川　剛史	松居　圭一郎	井上　拓斗	福田　卓郎	桃田　賢斗	木村　大二朗	三浦　光将
	子	埼玉・出羽バドミンタン	滋賀・坂本倶楽部	石川・大徳ジュニア	佐賀・玄海ジュニア	岡山・永井BC	香川・三豊ジュニアスポ少	香川・中央スポ少	青森・常盤ジュニア
3・4年		4年	4年	4年	4年	4年	4年	3年	4年
	女	名田　千晶	柏原　奈弥	奥原　希望	長谷川　由季	柳　郁美	上野　亜実	板垣　春花	布村　汐里
	子	大阪・吹田コンドル	埼玉・出羽バドミンタン	長野・大町キッズ	石川・OKジュニア	千葉・α野田ジュニア	岐阜・池田町スポ少	新潟・新潟ジュニア	富山・婦中ジュニア
		4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
C	男	古賀　穂	米田　耕司	玉手　勝輝	疋田　聖也	常山　幹太	松尾　一輝	上村　浩平	下農　走
	子	福岡・岡垣ジュニア	千葉・松戸六実ジュニア	宮城・横倉ジュニア	奈良・奈良ジュニア	滋賀・草津ジュニア	長崎・矢上小	沖縄・キクムラジュニア	大阪・瓜破西SSC
		2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
1・2年	女	山口　茜	上原　和子	園田　絵里奈	堂山　美羽	勝俣　莉里香	川島　里羅	朝岡　依純	大野　汐耶
	子	福井・勝山南部ジュニア	沖縄・糸満ジュニア	鹿児島・皇徳寺少年団	福岡・岡垣ジュニア	静岡・御殿場ジュニア	埼玉・出羽バドミンタン	熊本・タマナジュニア	新潟・越路JBC
		1年	1年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第6回　北海道大会　2005. 8. 19～21

北海道立総合体育センター　(きたえーる)

		優　勝	準 優 勝	第 三 位		第 五 位			
A	男	大森　悠馬	竹林　祐貴	豊島　大地	古賀　輝	中山　祐希	金子　祐樹	近藤　拓未	神田　遼
	子	東京・小平ジュニア	岡山・TOYO体協	鹿児島・吉野スポ少	福岡・岡垣ジュニア	埼玉・出羽バドミンタン	埼玉・出羽バドミンタン	新潟・佐渡オールアタック	石川・大徳ジュニア
5・6年		6年	6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年
	女	伊藤　里菜	高瀬　秀穂	村瀬　真祐	三木江里子	柏原　奈弥	浜野　夏実	森山ゆいか	木村　百花
	子	北海道・愛宕東小	千葉・α野田ジュニア	福井・武生ジュニア	埼玉・出羽バドミンタン	埼玉・出羽バドミンタン	秋田・八郎潟レイクジュニア	愛知・大府ジュニア	石川・加賀ジュニア
		6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年	6年
B	男	西川　裕次郎	笠谷　修吾	森田　慎司	保木　卓朗	玉手　勝輝	中里　裕貴	山村　祐樹	五十嵐　優
	子	滋賀・坂本倶楽部	南北海道・銭函JBC	鳥取・飛鳥ジュニア	山口・旭ヶ丘JBC	宮城・横倉ジュニア	栃木・バンテック	富山・婦中ジュニア	山形・鶴岡城北スポ少
3・4年		4年	4年	4年	4年	3年	4年	4年	4年
	女	櫻本　絢子	小川　由香	石田　光枝	鳴海　愛結果	大堀　彩	重山　智佳	田場　愛佳	星　千智
	子	福岡・海老津ジュニア	愛知・大府ジュニア	千葉・柏南部ジュニア	宮城・塩竈ジュニア	福島・Glory Club	新潟・新潟ジュニア	沖縄・糸満ジュニア	石川・松任ジュニア
		4年	4年	4年	4年	3年	4年	4年	4年
C	男	三橋　健也	光島　理貴	梅本　隆誠	森園　周冬	小川　桂汰	小倉　由嵩	上原　尚仁	藤田　将徳
	子	群馬・前橋東	北北海道・東光小少年団	奈良・橿原ジュニア	宮崎・大淀スポーツ	静岡・羽球友の会大井川	東京・小平ジュニア	沖縄・糸満ジュニア	福岡・スマッシュ玉満
		2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
1・2年	女	山口　茜	上原　和子	石橋　麻美子	引地　由希奈	吉川　正純	大野　弥子	中谷　奈緒	多田　愛利
	子	福井・勝山南部ジュニア	沖縄・糸満ジュニア	千葉・鎌ヶ谷ジュニア	鹿児島・皇徳寺少年団	神奈川・KSBC	北北海道・集亜町少年団	大阪・吹田コンドル	山形・米沢南部スポ少
		2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第7回　千葉大会　2006. 8. 18～20

千葉ポートアリーナ・千葉県総合スポーツセンター体育館

		優　勝	準 優 勝	第 三 位		第 五 位			
	男	井上　拓斗	高田　晃	具志堅　興祐	西村　拳太	保木　卓朗	海谷　慎吾	三浦　光將	福田　卓郎
A		佐賀・玄海ジュニア	群馬・桐生川内ジュニア	沖縄・西原シャトル	三重・小俣	山口・旭ヶ丘JBC	南北海道・森少年団	青森・常盤ジュニア	岡山・永井BC
	子	6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年	6年
5・6年	女	小見山　彩	奥原　希望	牧野　怜奈	鳥居　彩乃	柳　郁美	原田なつみ	柏原　奈弥	今林　里沙
		岡山・ミッキーズ	長野・大町キッズ	北北海道・One Side	千葉・柏南部ジュニア	千葉・α野田ジュニア	千葉・松戸六実ジュニア	埼玉・出羽バドミントン	鹿児島・伊敷台小
	子	6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年	6年
	男	玉手　勝輝	古賀　穂	常山　幹太	下農　走	田崎　真吾	常塚　光	大西　翔太	中原　拓也
B		宮城・横倉ジュニア	福岡・岡垣ジュニア	滋賀・草津ジュニア	大阪・瓜破西SSC	栃木・宇都宮ダッシング	京都・舞鶴ジュニア	愛知・シャトルスクール松山	鳥取・箕蚊屋ジュニア
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
3・4年	女	高瀬　妃奈子	山口　茜	川島　里羅	園田　絵里奈	大堀　彩	仲井　由希乃	鈴木　いよ乃	濱北　もも
		栃木・宇都宮ダッシング	福井・勝山南部ジュニア	埼玉・出羽バドミントン	鹿児島・皇徳寺少年団	福島・Glory Club	東京・練馬ジュニア	宮城・塩竈ジュニア	大阪・四條畷学園小
	子	4年	3年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
	男	仁平　澄也	山下　恭平	石坂　真洸	小野寺雅之	井上　博貴	小野寺　泰雅	友金　利玖斗	川原　聡磨
C		福島・白河シャトル	岡山・PEACEジュニア	富山・富山クラブ	東京・田無マックス	群馬・前橋東	北北海道・高台少年団	兵庫・TOMOジュニア	佐賀・川上ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	1年	2年
1・2年	女	谷水　亜里紗	喜岡　奈美	和田　毬代	川島　美南	仁平　菜月	松山　奈未	青山　栞子	二村　ひとみ
		三重・小俣	香川・花園ジュニア	奈良・當麻	埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	茨城・恋南	福岡・岡垣ジュニア	岡山・ミッキーズ	神奈川・厚木ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第8回　熊本大会　2007. 8. 17～19

八代市総合体育館・八代市立第二中学校

		優　勝	準 優 勝	第 三 位		第 五 位			
	男	松本　康平	木村　大二朗	稲光　勇太	中里　裕貴	玉手　勝輝	保木　卓朗	山角　太佑	西川　裕次郎
A		大阪・瓜破西SSC	香川・中央スポ少	茨城・明野ちびバド	栃木・バンテック	宮城・横倉ジュニア	山口・旭ヶ丘JBC	和歌山・高松ジュニア	滋賀・坂本倶楽部
	子	6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年	6年
5・6年	女	櫻本　絢子	松岡　英美	赤沢　夏希	飯島　真依	中村　恭子	小川　由香	重山　智佳	塚本　あゆみ
		福岡・海老津ジュニア	福岡・北九州スピリッツ	岡山・ミッキーズ	千葉・柏南部ジュニア	三重・小俣町スポ少	愛知・はり一あっぷ	新潟・新潟ジュニア	南北海道・大同ジュニア
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
	男	中村　友哉	小林　大吾	小川　桂汰	森園　周冬	藤田　将徳	三橋　健也	西野　勝志	広瀬　有規
B		石川・中央ジュニア	宮城・塩竈ジュニア	静岡・羽球友の会大井川	宮崎・川上ジュニア	福岡・スマッシュ宮満	群馬・前橋東	愛知・シャトルスクール松山	福井・安永スクール
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
3・4年	女	山口　茜	川上　紗恵奈	志田　千陽	三上　夏世	安田　美空	吉浦　鈴夏	髙園　杏莉沙	山本　海帆
		福井・勝山南部	京都・長岡京市スポ少	秋田・八郎潟レイク	南北海道・北斗七飯	大阪・シャトルクラブ	石川・大徳ジュニア	佐賀・川上ジュニア	島根・おろちクラブ
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
	男	小本　大佑	渡邊　きらり	矢島　浩司	友金　利玖斗	髙上　麟龍	森田　新太郎	後藤　海斗	川端　直人
C		熊本・北部ジュニア	南北海道・水元地区スポ少	岐阜・高山ジュニア	兵庫・TOMOジュニア	福島・GPWジュニア	宮崎・西池ジュニア	宮城・あおばイーグルス	埼玉・チャレンジャー
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
1・2年	女	岩永　鈴	鈴木　ゆうき	平野　紗妃	川村　芽生奈	布川　夢香	髙橋　明日香	平山　萌	黒岩　はるな
		山口・柳井JBC	宮城・塩竈ジュニア	香川・飯野スポ少	群馬・大泉ジュニア	北北海道・プログレス	栃木・足利ジュニア	千葉・柏南部ジュニア	佐賀・多久スポーツピア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第9回　熊本大会　2008. 8. 15～17

八代市総合体育館・八代市東陽スポーツセンター

		優　勝	準 優 勝	第 三 位		第 五 位			
	男	玉手　勝輝	古賀　穂	下農　走	山下　京	小林　大吾	柏原　剛毅	中永　大輝	小川　桂汰
A		宮城・横倉ジュニア	福岡・岡垣ジュニア	大阪・瓜破西SSC	宮崎・西池ジュニア	宮城・塩竈ジュニア	南北海道・札幌高田ジュニア	岡山・PEACEジュニア	静岡・羽球友の会大井川
	子	6年	6年	6年	6年	5年	6年	6年	5年
5・6年	女	山口　茜	仲井　由希乃	高瀬　妃奈子	大堀　彩	濱北　もも	森　隆子	木場　叶華	荒木　茜羽
		福井・勝山南部ジュニア	東京・練馬ジュニア	栃木・宇都宮ダッシングクラブ	福島・Glory Club	大阪・四條畷学園小	徳島・内町ジュニア	香川・香川スクール	埼玉・春日部白翔
	子	5年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
	男	山下　恭平	山澤　直貴	佐藤　雄輝	渡辺　航貴	川原　聡麿	森永　雅弘	久場　圭祐	山元　拓摩
B		岡山・PEACEジュニア	大阪・AJBC	宮城・あおばイーグルス	埼玉・出羽バドミントン	佐賀・川上ジュニア	山口・光ジュニア	福岡・岡垣ジュニア	鹿児島・田崎少年団
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
3・4年	女	谷水　亜里紗	小原　凛々子	仁平　菜月	和田　毬代	吾妻　咲弥	喜岡　奈美	古賀　菜々子	上杉　夏美
		三重・小俣町スポ少	宮城・あおばイーグルス	茨城・恋南	奈良・White Rabbit BC	埼玉・チャレンジャー	香川・花園ジュニア	佐賀・佐賀サンライズ	広島・広島安佐ジュニア
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
	男	石橋　陸	川原　怜也	寺島　颯大	江藤　佑太	河路　真巳	渡辺　一輝	伏見　和真	髙木　凱登
C		福岡・岡垣ジュニア	佐賀・川上ジュニア	宮城・仙台大和ジュニア	熊本・北部ジュニア	東京・杉並ジュニア	栃木・足利ジュニア	香川・中央スポ少	熊本・玉東ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
1・2年	女	上杉　杏	齋藤　夏	渡邉　ひらり	吉川　真白	西村　彩花	明地　七海	石田　有彩	吉田　瑠実
		広島・広島安佐ジュニア	埼玉・鳩ヶ谷ウィングス	岩手・前田ジュニア	香川・香川スクール	熊本・八代ジュニア	大阪・シャトルクラブJr	新潟・小野Jr	栃木・小山ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第10回 熊本大会 2009. 8. 14～16

八代市総合体育館・八代市東陽スポーツセンター

		優勝	準優勝	第三位		第五位			
A	男	三橋 健也	小倉 由嵩	小川 桂汰	藤田 将徳	広瀬 有規	中村 友哉	緒方 友哉	小林 大吾
		群馬・前橋東	東京・小平ジュニア	静岡・羽球友の会大井川	福岡・山家ウイングス	福井・安永SC	石川・中央ジュニア	宮崎・くれよんクラブ	宮城・塩竈ジュニア
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
5・6年	女	山口 茜	川上 紗恵奈	安田 美空	志田 千陽	谷澤 安衣	井部 恵理香	髙橋 英里	三上 香菜
		福井・勝山南部Jr	京都・長岡京市スポ少	大阪・瓜破西SSC	秋田・八郎潟レイクJr	神奈川・KSBC－Jr	東京・宝木塚ジュニア	宮城・仙台大和ジュニア	山形・山口バドスポ少
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
B	男	小本 大佑	後藤 海斗	髙上 麟龍	吉田 昇永	森田 新太郎	友金 利玖斗	齊藤 巧	鈴木 雄治
		熊本・北部ジュニア	宮城・あおばイーグルス	福島・GPWジュニア	千葉・市原ジュニア	宮崎・西池ジュニア	兵庫・TOMOジュニア	富山・滑川ジュニア	栃木・御幸小
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
3・4年	女	髙橋 明日香	永井 瀬雰	古川 恵	川村 芽生奈	平野 紗妃	黒岩 はるな	犬飼 萌々香	岡村 あみ
		熊本・定利ジュニアクラブ	新潟・小野Jr	兵庫・西神ジュニア	群馬・大泉JBC	香川・飯野スポ少	佐賀・・多久スポーツピア	岐阜・各務原ジュニア	愛知・ウィスタリアジュニア
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
C	男	奈良岡 功大	河村 翼	久慈 友也	山下 潤也	川本 拓真	田澤 秀磨	塩澤 慶郁	鎌田 雄太
		青森・浪岡ジュニア	大阪・南郷キューピット	岩手・南城小育成会	埼玉・鳩ヶ谷ウィングス	広島・広島安佐ジュニア	茨城・KidsMO	千葉・α野田ジュニア	愛媛・ジュニアスクール松山
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
1・2年	女	十亀 加奈江	藤本 未侑	宮﨑 淳美	内山 智尋	田中 果帆	吉浦 愛花	織田 遥	赤坂 玲奈
		愛媛・大生院JBC	大阪・吹田コンドル	東京・小平ジュニア	福岡・岡垣ジュニア	佐賀・多久スポーツピア	石川・大徳ジュニア	福井・松本Jr	青森・八戸ジュニア
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

第11回 熊本大会 2010. 8. 13～15

八代市総合体育館・八代市東陽スポーツセンター

		優勝	準優勝	第三位		第五位			
A	男	山澤 直貴	久場 圭祐	大平 洸輝	渡邉 航貴	山元 拓摩	川原 聡麿	佐藤 雄輝	渋谷 光希
		大阪・瓜破西SSC	福岡・岡垣ジュニア	東京・サザンウィングス	埼玉・由羽バドミンタン	鹿児島・田崎少年団	佐賀・川上ジュニア	宮城・あおばイーグルス	山形・鶴岡ジュニア
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
5・6年	女	川島 美南	二村 ひとみ	岡部 天	青山 栞	海老原 詩織	仁平 菜月	大家 夏稀	和田 毬代
		埼玉・鳩ヶ谷ウイングス	神奈川・NP神奈川	千葉・α野田ジュニア	岡山・ミッキーズ	栃木・小山ジュニア	茨城・恋南少年団	石川・OKジュニア	奈良・葛城市當麻
	子	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年	6年
B	男	奈良岡 功大	蝦夷森 駿	緑川 大輝	中山 裕貴	伏見 和真	西原 弘崇	寺島 颯大	永井 蛍
		青森・浪岡ジュニア	北北海道・旭川忠和クラブ	埼玉・所沢ジュニア	三重・有緝スポ少	香川・中央スポ少	鳥取・西郷ジュニア	宮城・仙台大和ジュニア	愛媛・ジュニアスクール松山
	子	3年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
3・4年	女	明地 七海	水井 ひらり	小西 春七	上杉 杏	吉田 瑠実	西村 彩花	斉藤 さくら	髙橋 未羽
		大阪・シャトルクラブ	奈良・WhiteRabbitBC	香川・飯野スポ少	広島・広島安佐ジュニア	栃木・小山ジュニア	熊本・八代ジュニア	愛媛・JBAC	埼玉・所沢ジュニア
	子	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年
C	男	内野 陽大	山崎 涼羽	八岩 慎之介	目崎 駿太郎	吉村 太成	宇治 夢登	池田 亘輝	毛利 隼人
		埼玉・鶴ヶ島angels	千葉・α野田ジュニア	福岡・海老津ジュニア	新潟・小野Jr	熊本・SC菊陽ジュニア	大阪・大東ジュニア	岡山・ABCJr	南北海道・壮瞥町スポ少
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
1・2年	女	郡司 莉子	横内 美梅	森山 紗帆	安東 紗弥	森川 すみれ	井手野 綾花	三好 蒼	奥本 真愛
		東京・t. ishibaJapan	埼玉・所沢ジュニア	熊本・SC菊陽ジュニア	北北海道・富原レッツ	秋田・八郎潟レイクジュニア	鳥取・久松ジュニアBC	静岡・伊東ワールド	広島・キティタイガー
	子	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

若葉カップ 全国小学生バドミントン大会

〈男子の部〉

第１回大会　昭和６０年８月２７～２８日
京都府立体育館他（出場数：１４）

優　勝　：登美ヶ丘スポーツ少年団（奈良県）
準優勝　：春山クラブ（福井県）
３　位　：崎津スポーツクラブ（鳥取県）
４　位　：成隣バドミントンクラブ（東京都）

第２回大会　昭和６１年８月　８～１０日
西山公園体育館他（出場数：１３）

優　勝　：山内西小バドクラブ（佐賀県）
準優勝　：登美ヶ丘スポーツ少年団（奈良県）
３　位　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）

第３回大会　昭和６２年８月　９～１１日
西山公園体育館他（出場数：１３）

優　勝　：山内西小バドクラブ（佐賀県）
準優勝　：彦根城西ジュニアクラブ（滋賀県）
３　位　：鹿島ジュニア（石川県）

第４回大会　昭和６３年８月　６～８日
西山公園体育館他（出場数：１８）

優　勝　：鹿島ジュニア（石川県）
準優勝　：彦根城西ジュニアクラブ（滋賀県）
３　位　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
４　位　：鴻ノ池中央スポーツ少年団（奈良県）

第５回大会　平成　元年８月　５～　７日
西山公園体育館（出場数：１７）

優　勝　：彦根ジュニア（滋賀県）
準優勝　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
３　位　：岡垣ジュニアクラブ（福岡県）
　　鴻ノ池中央スポーツ少年団（奈良県）

第６回大会　平成　２年８月　４～　６日
西山公園体育館（出場数：１８）

優　勝　：高松ＪＢＳ（香川県）
準優勝　：太田南スポーツ少年団（香川県）
３　位　：彦根ジュニア（滋賀県）
　　吹田ジュニア（大阪府）

第７回大会　平成　３年８月　３～　５日
西山公園体育館（出場数：２１）

優　勝　：香川スクール（香川県）
準優勝　：岡垣クラブ（福岡県）
３　位　：高松ＪＢＳ（香川県）
　　瓜破西ＳＳＣ(大阪府)
５　位　：長岡京市スポーツ少年団（京都府）

第８回大会　平成　４年８月　１～　３日
西山公園体育館（出場数：２５）

優　勝　：香川スクール（香川県）
準優勝　：岡垣クラブ（福岡県）
３　位　：高松ＪＢＳ（香川県）
　　瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
５　位　：美保バドミントンクラブ（鳥取県）
　　足羽少年クラブ（福井県）

第９回大会　平成　５年８月２１～２３日
西山公園体育館（出場数：１９）

優　勝　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
準優勝　：鴻ノ池中央（奈良県）
３　位　：香川スクール（香川県）
　　高松ＪＢＳ（香川県）

第１０回大会　平成　６年８月２０～２２日
西山公園体育館（出場数：２０）

優　勝　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
準優勝　：香川スクール（香川県）
３　位　：足羽ジュニア（福井県）
　　永井バドミントンクラブ（岡山県）
５　位　：岡垣ジュニア（福岡県）

〈男子の部〉

第１１回大会　平成　７年８月１９～２１日
西山公園体育館（出場数：３５）

優　勝	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
準優勝	永井バドミントンクラブ（岡山県）
３　位	小平ジュニア（東京都）
	海老津クラブ（福岡県）
５　位	桜井クラブ（奈良県）
	大分ジュニア（大分県）
	富山ジュニア（富山県）
	香川スクール（香川県）

第１２回大会　平成　８年８月１７～１９日
西山公園体育館（出場数：３４）

優　勝	坂本スポーツ少年団（滋賀県）
準優勝	小平ジュニア（東京都）
３　位	美保クラブ（鳥取県）
	チャレンジャー（埼玉県）
５　位	旭川ジュニア（北海道）
	海老津クラブ（福岡県）
	富山羽球クラブ（富山県）
	香川スクール（香川県）

第１３回大会　平成　９年８月１５～１８日
西山公園体育館（出場数：３３）

優　勝	坂本スポーツ少年団（滋賀県）
準優勝	永井クラブ（岡山県）
３　位	チャレンジャー（埼玉県）
	香川スクール（香川県）
５　位	三重ジュニア（三重県）
	海老津クラブ（福岡県）
	富山羽球クラブ（富山県）
	小平ジュニア（東京都）

第１４回大会　平成１０年８月　７～１０日
西山公園体育館（出場数：３３）

優　勝	永井クラブ（岡山県）
準優勝	小平ジュニア（東京都）
３　位	足羽ジュニア（福井県）
	チャレンジャー（埼玉県）
５　位	飛鳥ジュニア（鳥取県）
	香川スクール（香川県）
	塩釜ＪＢＣ（宮城県）
	大徳ジュニア（石川県）

第１５回大会　平成１１年８月　６～　９日
西山公園体育館（出場数：４１）

優　勝	永井クラブ（岡山県）
準優勝	広島ジュニア（広島県）
３　位	足羽ジュニア（福井県）
	大徳ジュニア（石川県）
５　位	シャトラーズ深川（東京都）
	香川スクール（香川県）
	高松ＪＢＳ（香川県）
	小平ジュニア（東京都）

第１６回大会　平成１２年８月　４～　７日
西山公園体育館（出場数：４２）

優　勝	香川スクール（香川県）
準優勝	北九州ジュニア（福岡県）
３　位	大栄バドミントン育成会（鳥取県）
	広島ジュニア（広島県）
５　位	永井クラブ（岡山県）
	大徳ジュニア（石川県）
	柏南部ジュニア（千葉県）
	坂本スポーツ少年団（滋賀県）

第１７回大会　平成１３年８月　３～　６日
西山公園体育館（出場数：４４）

優　勝	おろちバドミントンクラブ（島根県）
準優勝	チャレンジャークラブ（埼玉県）
３　位	坂本倶楽部（滋賀県）
	広島ジュニア（広島県）
５　位	香川スクール（香川県）
	勝山南部ジュニア（福井県）
	皇徳寺少年団（鹿児島県）
	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）

第１８回大会　平成１４年８月　２～　５日
西山公園体育館（出場数：４７）

優　勝	坂本倶楽部（滋賀県）
準優勝	チャレンジャークラブ（埼玉県）
３　位	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
	永井バドミントンクラブ（岡山県）
５　位	おろちバドミントンクラブ（島根県）
	香川スクール（香川県）
	崎浦ジュニア（石川県）
	岐阜ジュニア（岐阜県）

〈男子の部〉

第１９回大会
平成　１５年８月　１～　４日
西山公園体育館（出場数：４５）

優　勝　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
準優勝　：皇徳寺ジュニア（鹿児島県）
３　位　：大府ジュニア（愛知県）
　　永井クラブ（岡山県）
５　位　：チャレンジャー（埼玉県）
　　岐阜ジュニア（岐阜県）
　　海老津ジュニア（福岡県）
　　広島ジュニア（広島県）

第２０回大会
平成１６年８月　６～　９日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：鹿児島ジュニア（鹿児島県）
準優勝　：大府ジュニア（愛知県）
３　位　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
　　永井クラブ（岡山県）
５　位　：チャレンジャー（埼玉県）
　　香川スクール（香川県）
　　広島ジュニア（広島県）
　　岐阜ジュニア（岐阜県）

第２１回大会
平成１７年８月　５～　８日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：坂本倶楽部（滋賀県）
準優勝　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
３　位　：練馬ジュニア（東京都）
　　出羽バドミンタン（埼玉県）
５　位　：勝山ジュニア（福井県）
　　岡垣ジュニア（福岡県）
　　小俣町少年団（三重県）
　　ＴＯＹＯ体協ＢＣ（岡山県）

第２２回大会
平成１８年８月　４～　７日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：α野田ジュニア（千葉県）
準優勝　：糸満ジュニア（沖縄県）
３　位　：はりーあっぷジュニア（愛知県）
　　瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
５　位　：勝山ジュニア（福井県）
　　ベイシックジュニア（滋賀県）
　　中央スポ少（香川県）
　　ＴＯＹＯ体協ＢＣ（岡山県）

第２３回大会
平成１９年８月　３～　６日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：岡垣ジュニア（福岡県）
準優勝　：小平ジュニア（東京都）
３　位　：糸満ジュニア（沖縄県）
　　瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
５　位　：α野田ジュニア（千葉県）
　　師勝ジュニア（愛知県）
　　婦中ジュニア（富山県）
　　横倉ジュニア（宮城県）

第２４回大会
平成２０年８月　１～　４日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：小平ジュニア（東京都）
準優勝　：α野田ジュニア（千葉県）
３　位　：大徳ジュニア（石川県）
　　香川スクール（香川県）
５　位　：師勝ジュニア（愛知県）
　　山口スポ少（山形県）
　　岡垣ジュニア（福岡県）

第２５回大会
平成２１年７月３１～８月３日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：小平ジュニア（東京都）
準優勝　：東光少年団（北海道）
３　位　：はりーあっぷジュニア（愛知県）
　　瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
５　位　：阿賀野ジュニア（新潟県）
　　浪岡ジュニア（青森県）
　　青海ジュニア（東京都）
　　香川スクール（香川県）

第２６回大会
平成２２年７月３０～８月２日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：小平ジュニア（東京都）
準優勝　：浪岡ジュニア（青森県）
３　位　：岡垣ジュニア（福岡県）
　　東光少年団（北海道）
５　位　：長岡京市スポ少（京都府）
　　勝山南部ジュニア（福井県）
　　はりーあっぷジュニア（愛知県）
　　チャレンジャー（埼玉県）

〈女子の部〉

第１回大会
昭和６０年８月２７～２８日
京都府立体育館他（出場数：２５）

優　勝	高田倶楽部（奈良県）
準優勝	崎津スポーツクラブ（鳥取県）
３　位	大和高田市バド協会（奈良県）
４　位	ダックスクラブ（東京都）
５　位	京都ジュニアスクール（京都府）
	甲府マドレークラブ（東京都）
	社南・春山クラブ（福井県）
	鴻ノ池中央スポーツ少年団（奈良県）

第２回大会
昭和６１年８月　８～１０日
西山公園体育館他（出場数：３４）

優　勝	高田倶楽部（奈良県）
準優勝	山内西小バドクラブ（佐賀県）
３　位	鴻ノ池中央スポーツ少年団（奈良県）
４　位	大和高田バド協会Ａ（奈良県）
５　位	石岡スポーツ少年団（茨城県）
	大和高田バド協会Ｂ（奈良県）
	マドレースポーツクラブ（東京都）
	相馬クラブ（石川県）

第３回大会
昭和６２年８月　９～１１日
西山公園体育館他（出場数：３１）

優　勝	高田倶楽部（奈良県）
準優勝	鴻ノ池中央スポーツ少年団（奈良県）
３　位	大和高田バド協会Ａ（奈良県）
４　位	大和高田バド協会Ｂ（奈良県）
５　位	東少年バドミントンクラブ（茨城県）
	川上小バドミントンクラブ（佐賀県）
	春山クラブ（福井県）
	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）

第４回大会
昭和６３年８月　６～　８日
西山公園体育館（出場数：３２）

優　勝	高田倶楽部（奈良県）
準優勝	鴻ノ池中央スポーツ少年団（奈良県）
３　位	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
４　位	大和高田市バド協会Ａ（奈良県）
５　位	大和高田市バド協会Ｂ（奈良県）
	長岡京市スポーツ少年団（京都府）
	坂本スポーツ少年団（滋賀県）
	金田スポーツ少年団（滋賀県）
	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）

第５回大会
平成　元年８月　５～　７日
西山公園体育館（出場数：２６）

優　勝	高田倶楽部（奈良県）
準優勝	鴻ノ池中央スポーツ少年団（奈良県）
３　位	大和高田市スポーツ少年団（奈良県）
	日佐クラブ（福岡県）
５　位	長岡京市スポーツ少年団（京都府）
	太田南スポーツ少年団（香川県）

第６回大会
平成　２年８月　４～　６日
西山公園体育館（出場数：２９）

優　勝	鴻ノ池中央スポーツ少年団（奈良県）
準優勝	高松ＪＢＳ（香川県）
３　位	大和高田市スポーツ少年団（奈良県）
	高田倶楽部（奈良県）
５　位	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
	長岡京市スポーツ少年団（京都府）
	太田南スポーツ少年団（香川県）

第７回大会
平成　３年８月　３～　５日
西山公園体育館他（出場数：３４）

優　勝	高田倶楽部（奈良県）
準優勝	香川スクール（香川県）
３　位	岡垣クラブ（福岡県）
	鳥栖ジュニア（佐賀県）
５　位	坂本スポーツ少年団（滋賀県）
	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
	長岡京市スポーツ少年団（京都府）
	大和高田市スポーツ少年団（奈良県）

第８回大会
平成　４年８月　１～　３日
西山公園体育館（出場数：４３）

優　勝	香川スクール（香川県）
準優勝	高田倶楽部（奈良県）
３　位	長岡京市スポーツ少年団（京都府）
	岡垣クラブ（福岡県）
５　位	坂本スポーツ少年団（滋賀県）
	鳥栖ジュニア（佐賀県）
	瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
	永井バドミントンクラブ（岡山県）

〈女子の部〉

第９回大会　平成　５年８月２１～２３日
西山公園体育館（出場数：３１）

優　勝　：香川スクール（香川県）
準優勝　：花野クラブ（鹿児島県）
３　位　：坂本スポーツ少年団（滋賀県）
　　新潟ジュニア（新潟県）
５　位　：長岡京市スポーツ少年団（京都府）
　　岡垣クラブ（福岡県）
　　高田倶楽部（奈良県）

第１０回大会　平成　６年８月２０～２２日
西山公園体育館（出場数：３５）

優　勝　：香川スクール（香川県）
準優勝　：高田倶楽部（奈良県）
３　位　：岡垣ジュニア（福岡県）
　　坂本スポーツ少年団（滋賀県）
５　位　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
　　榛原ジュニア（奈良県）
　　高松ＪＢＳ（香川県）
　　吹田ジュニア（大阪府）

第１１回大会　平成　７年８月１９～２１日
西山公園体育館（出場数：４６）

優　勝　：香川スクール（香川県）
準優勝　：岐阜ジュニア（岐阜県）
３　位　：坂本スポーツ少年団（滋賀県）
　　大和高田市（奈良県）
５　位　：榛原ジュニア（奈良県）
　　新潟ジュニア（新潟県）
　　塩釜ジュニア（宮城県）
　　瓜破西ＳＳＣ（大阪府）

第１２回大会　平成　８年８月１７～１９日
西山公園体育館（出場数：４６）

優　勝　：塩釜ジュニア（宮城県）
準優勝　：北九州ジュニア（福岡県）
３　位　：永井クラブ（岡山県）
　　岐阜ジュニア（岐阜県）
５　位　：香川スクール（香川県）
　　大和高田市（奈良県）
　　榛原ジュニア（奈良県）
　　小平ジュニア（東京都）

第１３回大会　平成　９年８月１５～１８日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：永井クラブ（岡山県）
準優勝　：北九州ジュニア（福岡県）
３　位　：矢上小学校クラブ（長崎県）
　　香川スクール（香川県）
５　位　：広島ジュニア（広島県）
　　大和高田市（奈良県）
　　岐阜ジュニア（岐阜県）
　　小平ジュニア（東京都）

第１４回大会　平成１０年８月　７～１０日
西山公園体育館（出場数：４６）

優　勝　：香川スクール（香川県）
準優勝　：岐阜ジュニア（岐阜県）
３　位　：坂本スポーツ少年団（滋賀県）
　　北九州ジュニア（福岡県）
５　位　：永井クラブ（岡山県）
　　長岡京ジュニア（京都府）
　　高田スポーツ少年団（奈良県）
　　広島ジュニア（広島県）

第１５回大会　平成１１年８月　６～　９日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：香川スクール（香川県）
準優勝　：広島ジュニア（広島県）
３　位　：北九州ジュニア（福岡県）
　　藍住エンジェル（徳島県）
５　位　：瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
　　永井クラブ（岡山県）
　　高松ＪＢＳ（香川県）
　　岐阜ジュニア（岐阜県）

第１６回大会　平成１２年８月　４～　７日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝　：香川スクール（香川県）
準優勝　：α岩名ジュニア（千葉県）
３　位　：坂本スポーツ少年団（滋賀県）
　　婦中ジュニア（富山県）
５　位　：塩竈ジュニア（宮城県）
　　瓜破西ＳＳＣ（大阪府）
　　新潟ジュニア（新潟県）
　　大徳ジュニア（石川県）

〈女子の部〉

第１７回大会　平成１３年８月　３～　６日
西山公園体育館（出場数：４９）

優　勝	藍住エンジェル（徳島県）
準優勝	橿原ジュニア（奈良県）
３　位	三重ジュニア（三重県）
	坂本倶楽部（滋賀県）
５　位	桐生ジュニア（群馬県）
	皇徳寺少年団（鹿児島県）
	岐阜ジュニア（岐阜県）
	豊田少年団（富山県）

第１８回大会　平成１４年８月　２～　５日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝	橿原ジュニア（奈良県）
準優勝	塩竈ジュニアクラブ（宮城県）
３　位	ＯＫジュニア（石川県）
	皇徳寺少年団（鹿児島県）
５　位	武生西少年団（福井県）
	金井ジュニア（新潟県）
	永井クラブ（岡山県）
	広島ジュニア（広島県）

第１９回大会　平成１５年８月　１～　４日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝	藍住エンジェル（徳島県）
準優勝	橿原ジュニア（奈良県）
３　位	坂本倶楽部（滋賀県）
	皇徳寺ジュニア（鹿児島県）
５　位	三重ジュニア（三重県）
	広島ジュニア（広島県）
	大府ジュニア（愛知県）
	塩竈ジュニア（宮城県）

第２０回大会　平成１６年８月　６～　９日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝	大府ジュニア（愛知県）
準優勝	鹿児島ジュニア（鹿児島県）
３　位	橿原ジュニア（奈良県）
	坂本倶楽部（滋賀県）
５　位	吹田コンドル（大阪府）
	α野田ジュニア（千葉県）
	塩竈ジュニア（宮城県）
	チャレンジャー（埼玉県）

第２１回大会　平成１７年８月　５～　８日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝	出羽バドミントン（埼玉県）
準優勝	吹田コンドル（大阪府）
３　位	小平ジュニア（東京都）
	東光少年団（北海道）
５　位	塩竈ジュニア（宮城県）
	おろちクラブ（島根県）
	α野田ジュニア（千葉県）
	ミッキーズ（岡山県）

第２２回大会　平成１８年８月　４～　７日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝	吹田コンドル（大阪府）
準優勝	塩竈ジュニア（宮城県）
３　位	出羽バドミントン（埼玉県）
	皇徳寺（鹿児島県）
５　位	糸満ジュニア（沖縄県）
	キティタイガー（広島県）
	大生院ＪＢＣ（愛媛県）
	勝山南部ジュニア（福井県）

第２３大会　平成１９年８月　３～　６日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝	皇徳寺スポ少（鹿児島県）
準優勝	塩竈ジュニア（宮城県）
３　位	春日部白翔（埼玉県）
	東光少年団（北海道）
５　位	岡垣ジュニア（福岡県）
	香川スクール（香川県）
	玉東ジュニア（熊本県）
	海老津ジュニア（福岡県）

第２４回大会　平成２０年８月　１～　４日
西山公園体育館（出場数：４８）

優　勝	チャレンジャー（埼玉県）
準優勝	皇徳寺スポ少（鹿児島県）
３　位	フェニックス（広島県）
	東光少年団（北海道）
５　位	勝山南部ジュニア（福井県）
	岡垣ジュニア（福岡県）
	高岡ジュニア（富山県）
	α野田ジュニア（千葉県）

〈女子の部〉

第２５回大会	平成２１年７月３１～８月３日 西山公園体育館（出場数：４８）
優　勝	チャレンジャー（埼玉県）
準優勝	ミッキーズ（岡山県）
３　位	大垣北ＢＳＳ（岐阜県）
	岡垣ジュニア（福岡県）
５　位	東光少年団（北海道）
	皇徳寺スポ少（鹿児島県）
	フェニックス（広島県）
	塩竈ジュニア（宮城県）

第２６回大会	平成２２年７月３０～８月２日 西山公園体育館（出場数：４８）
優　勝	広島安佐ジュニア（広島県）
準優勝	鳩ヶ谷ウイングス（埼玉県）
３　位	大垣北ＢＳＳ（岐阜県）
	小野Ｊｒ．クラブ（新潟県）
５　位	箕蚊屋ジュニアクラブ（鳥取県）
	ミッキーズ（岡山県）
	香川スクール（香川県）
	塩竈ジュニア（宮城県）

表彰者一覧

日本小学生バドミントン連盟20周年表彰

◎ **特別功労者表彰**

藤川　俊雄　　平川　卓弘　　尾藤　宏治　　湯村　治夫　　増田　英男

◎ **功労者表彰**

北山　吉明　　川本　末夫　　大前　　茂　　小山　義男　　福永　正弘
今野　末治　　高橋　克彦　　永井　　孝　　椙山　松良　　佐藤　俊夫
高橋　光雅

◎ **優秀都道府県表彰**

福 岡 県　　（優勝回数　3回以上）　福岡男子4回、福岡女子4回
（以降5回、10回、15回の5回ごとに表彰）

◎ **個人表彰**

①優秀選手賞（過去BEST4で現在活躍中（ナショナルチーム）の選手・監督）

佐藤　翔治	(NTT東日本)	第3回S優勝
川前　直樹	(NTT東日本)	第3回S3位
数野　健太	（日本ユニシス）	第5回S3位　第6回S2位
早川　賢一	（日本ユニシス）	第4回5年D優勝　第5回5年S2位、第6回5年S優勝　第7回6年S2位
上田　拓馬	（日本ユニシス）	第8回5年S3位
田児　賢一	(NTT東日本)	第8回5年D2位　第9回5年D優勝
園田　啓悟	（トナミ運車齢	第10回6年S2位
潮田　玲子	（日本ユニシス）	第4回6年S3位
廣瀬栄理子	（パナソニック）	第5回6年S2位
今別府香里	（パナソニック）	第6回5年S優勝
松尾　静香	（三洋電機）	第7回6年S2位
藤井　瑞希	（ルネサスSKY）	第8回5年S2位、第9回6年S2位
垣岩　令佳	（ルネサスSKY）	第10回6年S3位
高橋　礼華	（日本ユニシス）	第9回5年D2位　第10回5年S優勝　第11回6年S優勝
松友美佐紀	（日本ユニシス）	第10回4年S優勝　第11回5年S優勝　第12回6年S優勝
三谷美菜津	(NTT東日本)	第10回4年S3位、

②最優秀監督賞

櫻本　絢子	（福岡・海老津ジュニア）	→ 和田　功夫
松本　康平	（大阪・瓜破西SSC）	→ 川口　博三
山口　　茜	（福井・勝山南部ジュニア）	→ 三屋　晃二

③優秀監督賞（個人ベスト4以上　10回以上）

瓜破西34　　塩竈25　　香川スクール24　　岡垣23　　永井23　　坂本21
皇徳寺16　　橿原13　　小平13　　チャレンジャー12　北九州ジュニア11
出羽バドミンタン10

◎ **感謝状（メーカー）**

日本ユニシス株式会社　　ヨネックス株式会社　　ゴーセン株式会社
ミズノ株式会社　モアジャパン株式会社　アメアスポーツジャパン株式会社
株式会社薫風　　株式会社ベースボールマガジン

資　　料

県別・年度別加盟クラブ数 ……74
県別・年度別会員数 ……76
規　約 ……78
登録規定 ……81
登録規定の運用に関する留意点 ……82
役員選出規定 ……84
表彰規定 ……85
慶弔規定 ……86

県別・年度別加盟クラブ数

	県　名	1992 平4	1993 平5	1994 平6	1995 平7	1996 平8	1997 平9	1998 平10	1999 平11	2000 平12	2001 平13	2002 平14	2003 平15	2004 平16	2005 平17	2006 平18	2007 平19	2008 平20	2009 平21	2010 平22	2011 平23
1	北海道					10	100	?	?	?	?	120	120	?	117	108	152	153	168	167	
2	青森					3	3	?	?	?	5	6	13	13	11	14	14	14	14	16	
3	岩手					11	10	?	13	16	16	18	28	28	28	30	30	32	28	28	
4	宮城					14	16	?	15	18	17	18	22	22	22	25	25	24	23	28	
5	秋田					?	?	?	5	4	5	9	9	9	8	8	12	13	14	15	
6	山形					1	23	?	25	27	?	25	26	26	26	25	27	24	26	26	
7	福島					1	?	?	8	9	12	8	18	18	17	20	21	20	20	21	
8	茨城					21	24	?	27	29	29	30	32	32	?	34	33	33	31	31	
9	栃木					9	12	?	24	19	19	19	21	21	18	20	21	23	24	23	
10	群馬					?	1	?	12	?	?	13	18	18	?	21	23	25	25	25	
11	埼玉					38	38	?	40	?	44	?	45	45	31	53	50	48	42	41	
12	千葉					11	26	?	30	34	25	?	29	29	?	34	18	34	34	34	
13	東京					32	30	?	28	26	27	28	35	35	?	35	38	36	37	38	
14	神奈川					15	11	?	17	16	25	23	25	25	?	33	34	33	34	32	
15	山梨					?	1	?	10	10	10	10	10	10	8	9	9	8	7	7	
16	新潟					32	25	?	29	28	30	38	40	40	42	42	42	44	43	41	
17	長野					1	12	?	12	15	14	15	17	17	15	18	16	20	20	21	
18	富山					18	34	?	32	?	34	?	43	43	44	46	47	47	48	45	
19	石川					35	33	?	33	?	36	38	38	38	36	38	37	36	36	35	
20	福井					29	31	?	32	?	?	35	37	37	41	45	48	49	51	51	
21	静岡					1	10	?	15	14	14	12	11	11	14	15	16	17	18	17	
22	愛知					15	15	?	15	16	15	?	18	18	?	25	26	27	27	27	
23	三重					25	24	?	24	25	25	25	24	24	25	23	23	23	23	25	
24	岐阜					25	25	?	21	23	?	29	29	29	28	31	32	32	33	35	

		平4 1992	平5 1993	平6 1994	平7 1995	平8 1996	平9 1997	平10 1998	平11 1999	平12 2000	平13 2001	平14 2002	平15 2003	平16 2004	平17 2005	平18 2006	平19 2007	平20 2008	平21 2009	平22 2010	平23 2011
25	滋賀					15	16	?	20	?	16	16	17	17	15	15	15	16	16	16	
26	京都					11	13	?	13	13	13	16	17	17	13	20	20	21	18	19	
27	大阪					3	32	?	33	34	34	39	35	35	?	32	30	27	17	31	
28	兵庫					?	1	?	22	21	16	25	20	20	21	25	26	26	27	29	
29	奈良					?	?	?	35	?	23	22	22	22	22	18	20	19	20	16	
30	和歌山					?	?	?	?	9	10	10	10	10	10	11	13	13	15	14	
31	鳥取					1	2	?	20	?	30	31	34	34	33	34	35	34	33	35	
32	島根					13	13	?	18	17	17	16	19	19	19	19	17	17	17	15	
33	岡山					?	10	?	16	?	?	?	21	21	?	25	30	31	31	29	
34	広島					17	21	?	21	10	?	17	25	25	?	24	21	22	23	24	
35	山口					?	15	?	16	?	15	17	16	16	18	20	19	20	19	20	
36	香川					17	21	?	20	?	22	23	26	26	?	28	29	30	28	29	
37	徳島					?	10	?	11	11	11	11	12	12	?	11	10	8	12	15	
38	愛媛					16	16	?	26	15	18	18	22	22	25	24	23	20	21	22	
39	高知					?	1	?	1	?	?	6	12	12	11	10	10	9	8	9	
40	福岡					20	20	?	20	?	?	?	58	58	?	51	56	63	62	71	
41	佐賀					?	?	?	19	?	21	?	23	23	?	23	23	23	24	23	
42	長崎					?	1	?	25	24	?	22	24	24	?	28	37	37	46	46	
43	熊本					?	?	?	?	?	?	?	123	123	109	122	113	106	117	118	
44	大分					?	26	?	24	?	29	22	?	?	?	29	28	27	27	28	
45	宮崎					?	?	?		?	?	30	?	?	?	34	34	32	31	32	
46	鹿児島					?	?	?	41	?	?	45	48	48	45	45	42	36	45	52	
47	沖縄					?	?	?	-	?	15	10	15	15	?	22	16	17	19	20	
合　計						?	712	?	858	?	?	?	1108	1108	?	1422	1463	1469	1502	1542	

県別・年度別会員数（人）

	県　名	1992 平4	1993 平5	1994 平6	1995 平7	1996 平8	1997 平9	1998 平10	1999 平11	2000 平12	2001 平13	2002 平14	2003 平15	2004 平16	2005 平17	2006 平18	2007 平19	2008 平20	2009 平21	2010 平22	2011 平23
1	北海道				160		500		1000				1998	1731	1917	2113	1906	1918	1942	1904	
2	青森				6		18						92	107	138	131	142	129	163	183	
3	岩手				141		150		180	120			323	350	332	370	366	431	407	374	
4	宮城				208		225		192	248			393	414	458	448	416	417	420	434	
5	秋田						47		110	100			153	131	149	121	167	202	219	220	
6	山形						475		500	400			539	538	458	425	421	423	427	441	
7	福島								127	76			239	218	236	269	274	295	317	273	
8	茨城				392		765		782	810			459	442	517	616	662	654	611	680	
9	栃木				200		250		268	275			347	353	380	354	308	323	330	315	
10	群馬						89		287				437	385	299	295	353	338	356	385	
11	埼玉				1200		1400						853	828	828	873	847	815	813	752	
12	千葉				230		440			410			274	247	313	299	233	211	221	240	
13	東京				818		611			535			666	630	591	595	516	510	572	549	
14	神奈川				550				350	350			489	508	487	460	425	352	385	398	
15	山梨						26		200	200			66	86	151	148	123	119	116	100	
16	新潟				700		586			493			713	725	736	770	763	708	741	691	
17	長野				33		253		202	270			257	232	265	208	227	244	246	285	
18	富山				68		783						697	740	699	667	717	693	716	666	
19	石川				664		950		960	710			798	911	912	849	875	850	866	869	
20	福井				902		813		718				744	960	988	1161	1059	1096	1045	1010	
21	静岡				72		500		400	328			299	304	315	348	340	386	473	381	
22	愛知						260		527	316			487	418	556	552	551	566	601	624	
23	三重						500		527	504			466	514	563	454	436	455	485	480	
24	岐阜				436		499		438	452			666	683	688	636	666	766	827	862	
25	滋賀				230		220		211				97	105	105	118	149	163	300	318	
26	京都				316		296		350	305			266	465	465	502	498	450	425	469	
27	大阪				500		600		411	480			274	464	464	448	409	471	446	491	
28	兵庫						2		366	428			337	438	438	446	435	479	455	437	
29	奈良									387			330	369	369	322	291	370	394	401	
30	和歌山									121			140	173	173	160	131	172	145	177	

	県　名	1992 平4	1993 平5	1994 平6	1995 平7	1996 平8	1997 平9	1998 平10	1999 平11	2000 平12	2001 平13	2002 平14	2003 平15	2004 平16	2005 平17	2006 平18	2007 平19	2008 平20	2009 平21	2010 平22	2011 平23
31	鳥取				27		61		367	425			688	672	672	695	699	638	592	531	
32	島根				317		317		350	310			215	199	227	205	193	206	243	253	
33	岡山				200		300		150				206	249	249	382	404	467	441	462	
34	広島						407			100			334	438	438	356	381	351	330	351	
35	山口						200		130	100			203	195	217	226	210	207	215	235	
36	香川				372		478		440	390			435	489	451	401	458	534	611	512	
37	徳島						137		140	120			125	114	156	168	153	111	159	207	
38	愛媛						318		283	268			319	312	327	297	270	277	299	297	
39	高知						15						90	102	110	106	109	109	112	128	
40	福岡				600		600						698	684	833	849	587	820	883	851	
41	佐賀								356	300			397	403	482	460	329	341	324	402	
42	長崎						19		234	252			237	336	345	313	364	389	420	420	
43	熊本												2963	2828	3137	2922	2710	2536	2941	2963	
44	大分						309		402	726			356	436	448	403	381	414	515	477	
45	宮崎												446	578	614	603	534	529	535	512	
46	鹿児島												684	724	810	754	720	607	784	789	
47	沖縄												264	255	262	279	296	228	328	300	
合　計					9095		14419			11308			22677	23381	24768	24577	23474	23770	25198	25099	

日本小学生バドミントン連盟 規約

名称および本部

（名　称）

第１条　本連盟は、日本小学生バドミントン連盟と称する。

（本　部）

第２条　本連盟の事務所は、会長が指定する場所に置く。

目的および事業

（目　的）

第３条　本連盟は、日本国内の小学生（ジュニア）バドミントン団体の中枢機関となり、バドミントンの健全なる発展を図り、小学生（ジュニア）の育成と体位の向上に寄与し、併せて将来社会に貢献できる人間を養成することを目的とする。

（事　業）

第４条　本連盟は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1)　小学生（ジュニア）のための競技会の開催
(2)　技術指導と普及
(3)　指導者の交流と情報の交換
(4)　バドミントンに関する小学生（ジュニア）関係の調査と資料の収集
(5)　その他本連盟の目的を達成するために必要な事項

組　織

（組　織）

第5条　本連盟の趣旨に賛同する12歳以下の小学生とその関係者で組織した都道府県協会傘下の団体による。

加盟および登録

（加　盟）

第６条　本連盟を構成する団体は、都道府県協会の会長が認めたもので、所定の手続きを経て申請し登録された者をいう。

（登　録）

第７条　加盟団体は、別に定める登録規定により登録する。

機　関

（機　関）

第８条　本連盟の機関は、総会、理事会および常任理事会とする。また、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

（総　会）

第9条　総会は、正副会長、理事および代議員で構成し、次の事項を決議する。

(1)　事業報告および収支決算報告の承認

(2)　事業計画および予算案の承認

(3)　規約規定の改廃

(4)　役員の選出

(5)　その他本連盟の重要事項

第10条　総会の開催は毎年1回とし、会長が召集する。また、必要に応じ臨時に開催することができる。

2　総会の議長は会長が当たる。

（理事会）

第11条　理事会は、正副会長、理事で構成し、総会より委任された事項を審議および執行する。

（常任理事会）

第12条　常任理事会は、正副理事長および常任理事で構成し、理事会から委任された事項を執行する。

（専門委員会）

第13条　専門委員会は、選出された専門委員を以って構成し、常任理事会より委任された専門事項を担当し、結果を理事会に報告する。

（決　議）

第14条　本連盟の機関は、委任状を含め、構成人員の2分の1以上を以って成立し、その決議は出席者の過半数を以って決する。可否同数の場合は議長が決する。

役　員

（役　員）

第15条　本連盟に次の役員を置く。

(1)　会　長　　1名

(2)　副会長　　若干名

(3)　理　事　　地区代表理事および会長推薦理事若干名（理事の内訳：理事長、副理事長、常任理事、理事）

(4)　代議員　　都道府県の代表者各1名

(5)　監　事　　2名

（役員の選出および役割）

第16条　会長および副会長は総会において推薦する。

2　会長は、本連盟を代表し会務を総理する。

3　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

第17条　理事および監事は、総会の議を経て会長が委嘱する。

2　理事は、会長の指示により会務を分掌する。

3　監事は、本連盟の会計を監査する。

第18条　理事長、副理事長および常任理事は、理事の互選により推薦し会長が委嘱す

る。
２　理事長は、会長の指示を受け会務を運営する。
３　副理事長は、理事長を補佐し、理事長事故あるときはその職務を代行する。
４　常任理事は、理事会で決議された事項を執行する。

第 19 条　代議員は、各都道府県の代表者とする。

（ 顧問および参与）

第 20 条　会長の諮問に応ずるため、総会の議を経て顧問、参与を置くことができる。
２　顧問、参与は必要ある場合、諮問に応ずる。

（ 任　期 ）

第21条　役員の任期は２年とし、再任は妨げない。但し、補充役員の任期は前任者の残任期間とする。

経費および会計

（ 経　費 ）

第 22 条　本連盟の経費は、加盟団体及び個人の登録料、寄付金並びに補助金その他を以ってこれにあてる。

（ 会計年度 ）

第 23 条　本連盟の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月 31 日をもって終わる。

地　　区

（ 地　区 ）

第 24 条　本連盟の地区割は、財団法人日本バドミントン協会の取り決めに従い、次の９ブロックとし、各都道府県は次のとおりとする。

(1)	北海道 地 区	北海道
(2)	東　北 地 区	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
(3)	関　東 地 区	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨
(4)	北信越 地 区	新潟、長野、富山、石川、福井
(5)	東　海 地 区	静岡、愛知、三重、岐阜
(6)	近　畿 地 区	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
(7)	中　国 地 区	鳥取、島根、岡山、広島、山口
(8)	四　国 地 区	香川、徳島、愛媛、高知
(9)	九　州 地 区	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

（ 付　則 ）

１．規約は、平成４年１月５日より施行する。
２．平成　５年３月　６日一部改定
３．平成　６年３月１９日一部改定（事務所の所在地、会員の範囲他）
４．平成１０年５月１３日一部改定（日バ加盟に関わる事項）
５．平成１２年５月１４日一部改定（事務所の所在地、地区割に関する事項）
６．平成１９年５月１９日一部改定（登録料に関する事項）
７．平成２１年５月２３日一部改正（事務所に関すること）

日本小学生バドミントン連盟　登録規程

平成 19 年 5 月 19 日施行

1．　日本小学生バドミントン連盟（以下「本連盟」という）は、本連盟規約第 4 章「加盟及び登録」に基づき、加盟団体及びクラブ・選手の登録規程を定める。

《 加 盟 団 体 》

2．　本連盟を構成する加盟団体は、都道府県を単位とする小学生バドミントン連盟あるいはそれに準ずる団体であって、当該都道府県バドミントン協会の会長が承認した団体とする。

3．　加盟団体は、毎年度、定められた期日までに次の手続きを終えなければならない。

(1)　団体登録料（50,000 円）の払い込み

(2)　登録に必要な諸文書の提出

①規定の登録用紙（必要事項を記入の上、都道府県協会会長の承認印が必要）

②加盟団体の役員名簿

③加盟団体の大会行事等の日程

(3)　別に定める加盟団体に所属するクラブ及び選手の登録手続き

《 ク ラ ブ ・ 選 手 》

4．　加盟団体は所属クラブの登録手続きをしなければならない。

(1)　登録できるクラブの要件

①組織が規約に従って運営され、クラブ会員の範囲が決められていること

②年間を通じて継続的に練習をしていること

③主な活動場所が決まっていること

(2)　クラブ名簿の提出（記載必須事項）

①クラブの名称（個人登録の場合は小学校名等の所属を明記すること）

②代表者の氏名、連絡先住所、電話番号

③クラブの主たる活動拠点（市町村名）

5．　加盟団体は所属する小学生選手の登録手続きをしなければならない。

(1)　個人登録料（一人 200 円）の払い込み

(2)　選手登録名簿の提出（記載必須事項）

①氏名　　②性別　　③所属クラブ名　　④学年

6．　登録された選手の所属クラブについては、遠距離転居等やむを得ない場合を除いて、同一年度内における異動は認めない。なお、遠距離転居等の場合であっても、同一大会の予選会・全国大会においての変更は認めないものとする。

7．　「4.」及び「5.」の登録手続きをしていないクラブ・選手は、本連盟が主

催する全国大会及びその予選会に出場することができない。

8．　大会申込み受付後においても、クラブ・選手の登録手続きについて違反が判明した場合は、本連盟理事長の決定により失格を含めた処置をとるものとする。

日本小学生バドミントン連盟　登録規程の運用に関する留意点

平成21年１月４日理事会決定

1．本規程は、日本小学生バドミントン連盟が主催する全国大会及びその予選会だけでなく、各都道府県加盟団体が主催・主管する大会にも適用される。
「若葉カップ大会」「ＡＢＣ大会」「全小大会」の全国大会と「全小大会」ブロック予選会については参加選手の登録照合を日小連がおこなうが、上記大会の都道府県予選会及び加盟団体が主催・主管する大会についての登録管理は各都道府県加盟団体がおこなうものとする。

2．毎年度に手続きされる登録内容は、４月１日から翌年３月31日までの全期間に及ぶものである。各都道府県加盟団体においては、当該年度に開催する最初の大会までに登録事務を終え、それ以降同一年度内の登録変更は認めない。なお、追加登録は随時受け付けられる。
各都道府県加盟団体から日小連への登録手続き締切りは6月30日とするが、これは事務手続き上の期日であって、登録内容の適用は上記のとおり４月１日から翌年３月31日までの全期間に及ぶものである。

3．遠距離転居等やむを得ない事情により都道府県を超えた移動がある場合は、元の都道府県と新たに登録する都道府県加盟団体からの文書による届けがあれば、同一年度内であっても変更を認め、当該年度の登録料は新たに徴収しない。

4．登録事務に関する注意事項
(1) 選手登録については、日小連事務局に提出する「クラブ・個人登録届け（登録様式２）」「個人登録名簿（登録様式４）」と日小連会計口座への入金額を照合して登録の確定をおこなっているので、年度最初の登録時はもちろんのこと、追加登録の際にも「クラブ・個人登録届け（登録様式２）」を必ず提出すること。
(2)「個人登録名簿（登録様式４）」については、日本協会登録様式でも可としているが、①氏名、②性別、③所属クラブ名、④学年を必ず記載すること。特に「学年」が記載されていない都道府県ガあるが、生年月日だけでは判りにくく間違いの要因となるので、記載漏れがないよう注意すること。

日本小学生バドミントン連盟　登録規程【改定案】

平成19年５月19日施行
平成21年１月４日理事会承認

３．　日本小学生バドミントン連盟（以下「本連盟」という）は、本連盟規約第4章「加盟及び登録」に基づき、加盟団体及びクラブ・選手の登録規程を定める。

《　加　盟　団　体　》

４．　本連盟を構成する加盟団体は、都道府県を単位とする小学生バドミントン連盟あるいはそれに準ずる団体であって、当該都道府県バドミントン協会の会長が承認した団体とする。

３．　加盟団体は、毎年度、定められた期日までに次の手続きを終えなければならない。

(1)　団体登録料（50,000円）の払い込み

(2)　登録に必要な諸文書の提出

①規定の登録用紙（必要事項を記入の上、都道府県協会会長の承認印が必要）

②加盟団体の役員名簿

③加盟団体の大会行事等の日程

(3)　別に定める加盟団体に所属するクラブ及び選手の登録手続き

《　クラブ・選手　》

４．　加盟団体は所属クラブの登録手続きをしなければならない。

(1)　登録できるクラブの要件

①組織が規約に従って運営され、クラブ会員の範囲が決められていること

②年間を通じて継続的に練習をしていること

③主な活動場所が決まっていること

(2)　クラブ名簿の提出（記載必須事項）

①クラブの名称（個人登録の場合は小学校名等の所属を明記すること）

②代表者の氏名、連絡先住所、電話番号

③クラブの主たる活動拠点（市町村名）

５．　加盟団体は所属する小学生選手の登録手続きをしなければならない。

(1)　個人登録料（一人200円）の払い込み

(2)　選手登録名簿の提出（記載必須事項）

①氏名　　②性別　　③所属クラブ名　　④学年

6．　~~登録された~~選手の所属クラブについては、遠距離転居等やむを得ない場合を除いて、同一年度内における~~異動は~~登録変更を認めない。なお、遠距離転居等の場合であっても、同一大会の予選会・全国大会においての変更は認めないものとする。

7．　「４.」及び「５.」の登録手続きをしていないクラブ・選手は、~~本連盟が主催する全国大会及びその予選会~~本連盟及び加盟団体が主催・主管する大会に出場することができない。

8．　大会申込み受付後においても、クラブ・選手の登録手続きについて違反が判明した場合は、本連盟理事長の決定により失格を含めた処置をとるものとする。

日本小学生バドミントン連盟　役員選出規程

平成 19 年５月 19 日施行
平成 20 年５月 17 日改定

5．　日本小学生バドミントン連盟（以下「本連盟」という）は、本連盟規約第６章「役員」に基づき、本連盟役員の選出規程を定める。

6．　本規程に基づいて選出する役員は次の通りとする。

①会長	１名
②副会長	若干名
③地区代表理事	９名
④会長推薦理事	若干名
⑤代議員	都道府県の代表者１名
⑥監事	２名

《　役員選考委員会　》

7．　役員候補者を選出するために、任期満了２ヵ月前以前に役員選考委員会を組織する。

(1)　役員選考委員会は、現職役員の中から理事会において選出された委員により構成する。

①正副会長から１名
②常任理事から理事長を含め４名
③地区代表理事から２名
④選考委員長は①から選出された委員とする

(2) 役員選考委員会は、「2.」①②④⑥の候補者を選出する。
(3) 現職地区代表理事は、各地区から選出された「2.」③の候補者を役員選考委員長に届け出る。
(4) 役員選考委員長は、理事会及び総会において、(2)(3)の候補者を提案し、承認を得る。
(5) 役員選考委員会は、総会での新役員承認後、解散する。

《 理事長・副理事長・常任理事 》

8. 理事長、副理事長及び常任理事は、総会での理事選出後の理事会において、理事の互選により選出する。なお理事長・副理事長を含む常任理事の数は理事総数の 1/2 を超えない範囲とし、地区代表理事からの互選による 2 名を含むものとする。

《 代 議 員 》

9. 「2.」⑤の代議員は、毎年度当初に加盟団体から提出される規定の登録用紙(「登録規定」3.(2)①) により、各都道府県から届け出された各都道府県の代表者とする。

《 監 事 》

6. 「2.」⑥の監事は、①～⑤の役員との兼任を認めない。

日本小学生バドミントン連盟 表彰規程

平成 20 年 5 月 17 日施行

(目的)
第１条 日本小学生バドミントン連盟において、本連盟の発展のために顕著な業績のある個人及び団体の名誉を表彰する。

(表彰の種類)
第２条 表彰は日本小学生バドミントン連盟の普及振興に功労のあったものに功労賞を、技能記録等の優秀なものに優秀選手賞を授与する。

(選考)
第３条 理事長･副理事長･専門部長からなる選考会で選考し会長がこれを決定する。

（表彰の方法）
第４条　表彰は、賞状及び副賞を授与する。

（規程の改廃）
第５条　本規程の改廃は常任理事会の承認を得なければならない。

日本小学生バドミントン連盟　慶弔規程

平成 20 年５月 17 日施行

（目的）
第１条　日本小学生バドミントン連盟役員並びに関係団体にかかわる慶弔については、この規程に定めるところによる。

（慶事）
第２条　慶事にかかわる事項は次のとおりとする。
（１）役員及び役員経験者の叙勲・褒章
（２）関係団体の慶事
第３条　慶事に対し次の事項について理事長が総合的に判断し贈るものとする。
（１）会長名祝電
（２）お祝いの花
（３）記念品
（４）お祝い（お礼）金

（弔事）
第４条　弔事にかかわる事項は次のとおりとする。
（１）役員
（２）役員の配偶者
（３）関係団体の弔事
第５条　弔事に対し次の事項について理事長が総合的に判断し贈るものとする。
（１）会長名供花
（２）会長名弔電
（３）香典

（規程の改廃）
第６条　本規程の改廃は常任理事会の承認を得なければならない。

あ と が き

多くの関係者のおかげを持ちまして、日本小学生バドミントン連盟も２０周年を迎えることが出来ました。

連盟設立当初から振り返ってみますと、大会も全国小学生バドミントン大会も、都道府県対抗を別に開催していた時代もあり、現在は団体戦・個人戦と１大会で開催するようになりました。また、若葉カップ全国小学生バドミントン大会も、主催大会になりました。

また、新しい大会として全国小学生ＡＢＣバドミントン大会も第１２回を数えるに至りました。

競技部としても、全国大会の組み合わせ基準を細かく作成して、実施しやすくなりました。普及指導部も北山副会長のもと、医学講習会も取り入れられ幅広く、全国展開が出来るようになりました。

選手強化部も公益財団法人日本バドミントン協会とタイアップし海外遠征・強化合宿と幅広く展開できるようになりました。また、日本小学生バドミントン連盟の選手強化合宿も１０回を数得るほどになりました。この間、ナショナルチームの選手もたくさん生まれてきました。全日本ジュニアの戦績を見てもほとんどの選手が、小学生の全国大会を経験しています。日本のバドミントンの技術力向上にも大変貢献しているのではないかと思います。

事務局も充実してきて、いろいろな情報をホームページを通して皆様にご提供できるようになりました。

今後、日本のバドミントン界が世界で羽ばたき、オリンピックでメダルを獲得できる選手を、多く輩出できるよう頑張っていきたいと思います。

ここまで、日本小学生バドミントン連盟が発展できたのも、この２０年間に多くの方々のご協力とたゆまぬ努力の賜と心より感謝申し上げます。

これからも、ますます発展出来ますように関係者皆様のご指導ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

日本小学生バドミントン連盟
理事長　能　登　則　男

【編集後記】

最初に籾井会長のごあいさつに始まり、今発刊という記念すべき日を迎え、その必要な資料を提供していただいた連盟役員に深く敬意を表します。

協会創立以来ともすればウロ覚えになりがちな主催大会の記録の数々、栄光ある連盟の歴史を掲載させていただきました。また、連盟誕生までの動き、そして２０年のあゆみを平川副会長に担当いただきました。現在日本のバドミントン代表として活躍しておられる小学生大会で実績を残された選手からの寄稿。そして座談会では関根日本バドミントン協会専務理事にも登場していただき高所から選手・役員に対する要望をお話いただきました。専門部、各ブロックのあゆみもそれぞれの担当から投稿いただきました。改めて御礼申し上げます。

この２０年誌がある限り日本小学生バドミントン連盟が高く遠くそして狙ったコースに飛びつづけるでしょう。そしてあしたから選手・役員が語り、書き綴ってくれるでしょう。（湯村）

≪表紙説明≫

第１９回

全国小学生バドミントン大会都道府県対抗団体戦

男子の部優勝　　東京都代表チーム

女子の部優勝　　埼玉県代表チーム

創立２０周年記念誌「あ ゆ み」

発　　行　　2011 年 9 月 23 日
編集委員　　平川卓弘　湯村治夫　北山吉明
　　尾藤宏治　能登則男　上田敏之
印 刷 所　　戸田孔版社

